

GUIDE BOOK 2023

大学概要

NAGOYA CITY UNIVERSITY 大学概要 2023

GUIDE BOOK 2023

大学概要



目次

02	シンボルマーク・シンボルカラー
03	理事長挨拶
04	学長挨拶
05	沿革
07	名古屋市立大学憲章
09	名市大未来プラン2021
11	中期目標・中期計画・業務実績評価
13	経営・評価・倫理・ダイバーシティ
15	社会貢献活動
17	組織
19	役職者一覧
21	医学部
23	薬学部
25	経済学部
27	人文社会学部
29	芸術工学部
31	看護学部
33	総合生命理学部
35	データサイエンス学部
37	大学院 医学研究科
38	大学院 薬学研究科
39	大学院 経済学研究科
40	大学院 人間文化研究科
41	大学院 芸術工学研究科
42	大学院 看護学研究科
43	大学院 理学研究科
44	名古屋市立大学病院
45	名古屋市立大学医学部附属東部医療センター
46	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
47	名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院
48	名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院
49	附属施設
54	附属研究所
56	国内協定大学
57	国際交流協定大学
59	キャンパス案内
61	アクセスマップ
65	歴代理事長・学長 同窓会
66	名古屋市立大学交流会 お問い合わせ

Table of Contents

02	Symbol Mark / Symbol Color
03	Greetings From the Chairperson
04	Greetings From the President
05	History
07	Charter of Nagoya City University
09	Future Plan of Nagoya City University 2021
11	Medium-Term Goals, Medium-Term Plans, Evaluation of Achievement
13	Management, Evaluation, Ethics and Diversity
15	Social Action Programs
17	Organization Chart
19	List of Executives
21	Medical School
23	Faculty of Pharmaceutical Sciences
25	Faculty of Economics
27	School of Humanities and Social Sciences
29	School of Design and Architecture
31	School of Nursing
33	School of Biology and Integrated Sciences
35	School of Data Science
37	Graduate School of Medical Sciences
38	Graduate School of Pharmaceutical Sciences
39	Graduate School of Economics
40	Graduate School of Humanities and Social Sciences
41	Graduate School of Design and Architecture
42	Graduate School of Nursing
43	Graduate School of Science
44	Nagoya City University Hospital
45	Nagoya City University East Medical Center
46	Nagoya City University West Medical Center
47	Nagoya City University Midori Municipal Hospital
48	Nagoya City University Mirai Kousei Hospital
49	Affiliated Facilities
54	Affiliated Research Institutes
56	Universities With Domestic Collaborative Agreements
57	Universities With Academic Exchange Agreements
59	Campus Guide
61	Access Maps
65	Successive Chairperson and Presidents Alumni Associations
66	Nagoya City University KORYUKAI (Exchange Association) Contacts

シンボルマーク・シンボルカラー Symbol Mark / Symbol Color

本学では、3つのマークが存在し、それぞれ各時代の学生・教職員に愛されてきました。「全ての市民、教職員、学生、同窓生、その家族が誇りに思い、愛情を持てる大学となり、将来に向けますます発展していく」というユニバーシティアイデンティティのもと、それぞれの場で活用されています。

NCU has three symbols which have been beloved by its students and faculty members at different times in its history. They are utilized to identify an "ever-developing university which all citizens, faculty members, students, alumni and their family members feel pride in and affinity with."



学章
Emblem



ハートマーク
Heart Mark



NCUマーク
NCU Mark



シンボルカラー：エンジ色
Symbol Color: Crimson
色番号 Color No.
C=30 M=100 Y=100 K=30
R=147 G=14 B=20
DIC=2487

学章：昭和25年に評議会において審議決定されました。本学の公式な場において使用。

ハートマーク：昭和34年に制作され、医学研究科・薬学研究科を由来とする本学の伝統を象徴しています。それぞれの同窓会を中心に使用。

NCUマーク：開学50周年(平成12年)を記念し制作されました。他校との差別化(ブランディング)を図る場面で使用。

Emblem: The Emblem was established in 1950 through deliberations at a meeting of the Board of Trustees. It is used in official occasions of the university.
Heart Mark: The Heart Mark was created in 1959. It symbolizes the tradition of NCU arising from the Graduate School of Medical Sciences and the Graduate School of Pharmaceutical Sciences. It is used mainly by the alumni associations of these graduate schools.

NCU Mark: The NCU Mark was created in 2000 in commemoration of the 50th anniversary of NCU. It is used for branding, to differentiate from other universities and colleges.

シンボルカラーのエンジ色は、「強い意志、情熱を持って教育・研究に取り組む姿勢、勉学に励む姿勢や不屈の精神を表し、未来に積み重ねていく伝統を意識させる深みのある色」として親しまれています。

The symbol color crimson is widely known as a color symbolizing "a strong-willed, enthusiastic attitude toward education and research, an unyielding spirit, and the deep tone evoking the accumulation of tradition to be transmitted to the next generation."



名古屋市立大学 理事長

郡 健二郎

Chairperson, Nagoya City University
KOHRI Kenjiro, MD, Ph.D.

学歴・職歴	Academic and Professional History
昭和48年 大阪大学医学部卒業	1973 Graduated from Faculty of Medicine, Osaka University
平成 5年 名古屋市立大学 医学部泌尿器科 教授	1993 Professor of Urology, Medical School, Nagoya City University
平成13年 名古屋市立大学 医学部附属病院 病院長	2001 Director, University Hospital, Nagoya City University
平成17年 名古屋市立大学 医学研究科長・医学部長	2005 Dean, Graduate School of Medical Sciences and Medical School
平成26年 名古屋市立大学 理事長・学長	2014 Chairperson and President, Nagoya City University
令和 4年 名古屋市立大学 理事長	2022 Chairperson, Nagoya City University

本学は、名古屋薬学校(1884年設置)と名古屋市立女子高等医学専門学校(1943年設置)を源流とし、1950年に医学部、薬学部からなる公立大学として設置されました。その後、経済学部、人文社会学部、芸術工学部、看護学部、総合生命理学部が設置され、また2023年4月にはデータサイエンス学部を新設し、8学部7研究科からなる総合大学に発展してきました。

本学の特徴の一つは、少人数教育(学生約7名に対し教員1名)を行っていることです。学部の壁を越え、教職員が一体となって、優れた人材を育成し、先端的研究を世界へ発信し、市民の健康福祉の向上に尽くすことにより社会貢献に寄与することに努めています。

本学は、2014年の開学記念日(10月28日)に「大学憲章」を制定し、「名市大未来プラン」を策定しました。それを踏まえ、総合生命理学部、都市政策研究センター、産学官共創イノベーションセンターなどが開設され、新たな学術分野を切り拓いています。また、2021年4月、名古屋市立東部・西部医療センターが大学附属病院になるなど、当初策定した「名市大未来プラン」はほぼ実現できたことから、2021年に「名市大未来プラン2021」を策定し、本学は、次のステージに入りました。

第三期中期目標・中期計画期間(2018～2023年度)においては、運営費交付金等は法人化当初にまで増額されました。私たちが願っていた「V字回復」が実現しました。

このような状況の中、2023年4月には名古屋市立大学医学部附属みどり市民・みらい光生病院を加え、約2,200床からなる5つの附属病院群が誕生し、高度な医療を通してさらに市民の健康を守り、地域医療の方々と共に歩んでまいります。

市大病院では、2025年オープンを目指して全国最大級の救急・災害医療センター(仮称)を建築中であり、また滝子キャンパスと田辺通キャンパスでは新校舎棟の建築に向けて2023年度から設計が始まります。これら一連の事業に対する名古屋市からの温かいご理解とご支援に深く感謝し、市民に愛され誇りを持たれる名市大を目指してまいります。

本学は、このような活動により、「大学の地域貢献度に関する全国調査2021(日経グローバル)」では、全国1位、また、SDGsセンターを中心としたSDGsの取り組みにより「THE大学インパクトランキング2022」では国内公立大学で4年連続1位と高く評価されました。さらに、本学の話題がマスメディアに取り上げられた件数はこの5年間で約4倍に増えています。これもひとえに教職員・学生の活躍によるものです。これからもこれらを弾みとして、世界をリードする大学を目指してまいります。

大学を取り巻く社会状況の変化を的確にとらえ、本学はこれからも弛みない改革をしてまいります。

私たちが目指す方向性をご理解いただき、温かいご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。



名古屋市立大学 学長

浅井 清文

President, Nagoya City University
ASAI Kiyofumi, MD, Ph.D.

学歴・職歴	Academic and Professional History
昭和59年 名古屋市立大学医学部卒業	1984 Graduated from Medical School, Nagoya City University
平成13年 名古屋市立大学 医学部分子医学研究所 教授	2001 Professor, Institute of Molecular Medicine, Medical School, Nagoya City University
平成25年 名古屋市立大学 医学研究科長・医学部長	2013 Dean, Graduate School of Medical Sciences and Medical School
平成31年 名古屋市健康福祉局医監・名古屋市保健所長	2019 Deputy Director-General of Medicine, Nagoya Health & Welfare Bureau・Director, Nagoya City Health Center
令和 4年 名古屋市立大学 学長	2022 President, Nagoya City University

本学では2022年度より理事長とは別に学長が設置されることとなりました。第18代学長として、本学の教育・研究のさらなる発展のために精一杯努力させていただく所存でございます。

本学は、2014年に本学の基本理念や行動指針となる「大学憲章」を制定するとともに、「名市大未来プラン」において4つのビジョンを掲げ、法人としての中期目標とともに大学全体として方向性を持ちながら改革を進めてまいりました。2021年2月には本学が今後進むべき方向性を長期的かつ戦略的な視点で示す道しるべとして「名市大未来プラン2021」を、2022年1月には「研究科等未来プラン2021」を策定しました。今後も、本質を見失わず、しかし変化を恐れず、絶えず進化し続けてまいります。

大学の最大の営みは知的創造にあります。本学が「知の拠点」であり続けるために、異分野融合型の革新的な研究の推進や社会課題・社会ニーズをベースとしたイノベーションの実現に努めます。また、魅力的な研究環境の構築や研究費のさらなる獲得にも取り組み、本学の研究力の一層の向上に努めます。

教育においては、目まぐるしく変化する現代において、社会に出てからも自ら課題を解決する力を持った「自律的学習者」の育成が大学の重要な使命です。とりわけ、社会的な課題であるSDGsやダイバーシティについては、全ての学生が学び、理解し、個人の行動変容につなげてほしいと思います。

2020年1月からの新型コロナウイルス感染症の拡大は、否応なしに大学の授業形態の変更を迫りました。新型コロナウイルス感染症終息後も、元の形態に戻ることなく、対面とオンラインのハイブリッド形式での講義が全国の大学で定着していくことと思います。この時流に遅れることなく、教育分野におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を進めてまいります。

2023年4月にはデータサイエンス学部を新たに設置するとともに、看護学部は名古屋市立中央看護専門学校との統合に伴い入学定員を120名に増員しました。また、名古屋市立緑市民病院は「みどり市民病院」、名古屋市厚生院附属病院は「みらい光生病院」として医学部附属病院群の一員となりました。名市大のさらなる発展のため、教職員一同、弛まぬ努力を重ね、大学の理念の実現に向けて邁進してまいります。

- 昭和 25. 4 ■名古屋市立大学設置
- 26. 6 ■薬学部位置変更
(鳴海町から市瑞穂区田辺通3-1、および同区萩山1-11へ)
- 27. 4 ■新制医学部医学科設置
- 30. 4 ■医学部進学課程設置に伴い、同課程および薬学部一般教育系列の教育を行う教養部を設置
- 32. 9 ■附属高等厚生女学校を名古屋市立大学看護学校と改称
- 33. 4 ■薬学部薬学専攻科設置
- 34. 5 ■大学本部を川澄キャンパスへ移転
- 36. 3 ■旧制医学部および同研究科廃止、薬学部専攻科廃止
- 36. 4 ■大学院医学研究科(博士課程)・薬学研究科(修士課程)設置
- 39. 4 ■経済学部経済学科設置
- 40. 4 ■教養部の一部および学生部を、山の畑キャンパスへ移転
(田辺通キャンパスから)
- 41. 3 ■薬学部を田辺通キャンパスへ統合
- 41. 4 ■大学院薬学研究科博士課程設置
- 41. 11 ■附属病院を改築、新病院(川澄キャンパス)にて診療開始
- 42. 4 ■計算センター(のちの情報センター)発足
- 43. 4 ■教養部を山の畑キャンパスへ統合
■大学院経済学研究科修士課程設置
- 45. 4 ■大学院経済学研究科博士課程設置
■薬学部に製薬学科を増設し、(薬学科)(製薬学科)の2学科とする
- 46. 4 ■看護学校第2科(夜間)設置
- 56. 6 ■附属病院増築工事完成
- 62. 4 ■医学部分子医学研究所発足
- 63. 4 ■名古屋市立大学看護短期大学部設置(看護学科)
- 平成 元. 4 ■大学院経済学研究科修士課程設置(日本経済・経営)
- 2. 3 ■看護学校廃止
- 3. 4 ■経済学部経営学を増設し、(経済学科)(経営学科)の2学科とする
■看護短期大学部に専攻科設置(助産学)
- 4.12 ■医学研究科実験動物研究教育センター完成
- 6. 4 ■看護短期大学部専攻科助産学専攻、学位授与機構の認定を受ける
- 7. 3 ■薬学研究科先端薬学研究施設完成
- 7. 7 ■特定機能病院承認
- 8. 3 ■医学研究科・医学部研究棟完成
■教養部廃止
- 8. 4 ■人文社会学部(人間科学科・現代社会学科・国際文化学科)設置
■芸術工学部(視覚情報デザイン学科・生活環境デザイン学科)設置
■自然科学研究教育センター設置
■経済学研究科経済研究所発足
- 11. 4 ■看護学部設置(看護学科)
- 12. 4 ■大学院人間文化研究科修士課程設置
■大学院芸術工学研究科修士課程設置
■大学院システム自然科学研究科修士課程設置
- 13. 4 ■図書館と情報センターを統合し、総合情報センターを設置
- 14. 3 ■看護短期大学部廃止
- 14. 4 ■大学院部局化
■大学院人間文化研究科博士課程設置
■大学院芸術工学研究科博士課程設置
■大学院システム自然科学研究科博士課程設置
- 15. 4 ■大学院看護学研究科修士課程設置
- 16. 1 ■附属病院の病棟・中央診療棟が稼働開始
- 17. 4 ■芸術工学部の学科名称をデザイン情報学科及び都市環境デザイン学科に変更
■大学院経済学研究科の専攻を再編
■大学院看護学研究科博士課程設置
■人間文化研究科人間文化研究所発足

- 平成 18. 4 ■公立大学法人名古屋市立大学設立
■薬学部を再編し、薬学科(6年制課程)、生命薬科学科(4年制課程)を設置
- 19. 4 ■経済学部を再編し、公共政策学科、マネジメントシステム学科、会計ファイナンス学科を設置
- 19. 5 ■附属病院の外來診療棟が稼働開始
- 20. 4 ■大学院医学研究科修士課程を設置
■大学院看護学研究科博士前期課程に助産学領域を設置
- 20.12 ■薬学部実習棟が完成
- 21. 4 ■芸術工学研究科環境デザイン研究所発足
- 21. 7 ■薬学部研究棟が完成
- 21.12 ■システム自然科学研究科生物多様性研究センター発足
- 22. 4 ■芸術工学部都市環境デザイン学科を建築都市デザイン学科に名称変更
- 23. 4 ■救命救急センターの指定
- 23.11 ■創薬基盤科学研究所を設置
- 24. 4 ■芸術工学部を再編し、情報環境デザイン学科、産業イノベーションデザイン学科、建築都市デザイン学科を設置
■大学院薬学研究科博士後期課程を再編し、博士課程(4年制)および博士後期課程(3年制)を設置
■地域周産期母子医療センターの認定
- 24. 5 ■附属病院の東棟(喜谷記念がん治療センター)稼働開始
- 24.10 ■薬学部 講義・図書館棟が完成
- 25. 3 ■看護実践研究センターを設置
■名古屋市立大学交流会を設立
- 25. 4 ■人文社会学部人間科学科を心理教育学科に名称変更
■大学院薬学研究科に名古屋工業大学との共同大学院共同ナノメディシン科学専攻(博士後期課程)を設置
- 26.10 ■名古屋市立大学憲章・名市大未来プランを制定・策定
- 26.11 ■不育症研究センターを設置
- 27. 4 ■総合周産期母子医療センターの指定
■大学院システム自然科学研究科生体情報専攻を理学情報専攻に名称変更
- 28. 4 ■国家戦略特区における保険外併用療養の特例医療機関認定
- 29. 1 ■先端医療技術イノベーションセンターを設置
- 29. 4 ■医療心理センターを設置
■高度医療教育研究センターを設置
- 30. 4 ■総合生命理学部総合生命理学科を設置
(自然科学研究教育センターを改組)
■高等教育院を設置
■地域医療教育研究センターを設置
- 30. 5 ■都市政策研究センターを設置
- 令和 元.10 ■脳神経科学研究科を設置
- 2. 4 ■大学院システム自然科学研究科を理学研究科に名称変更
- 3. 2 ■名市大未来プラン2021を策定
- 3. 4 ■名古屋市立東部医療センターおよび西部医療センターを附属病院化し、名古屋市立大学医学部附属東部医療センターおよび名古屋市立大学医学部附属西部医療センターとして運営開始
- 3. 5 ■SDGsセンターを設置
- 5. 4 ■データサイエンス学部を設置
■名古屋市立緑市民病院および名古屋市厚生院附属病院を附属病院化し、名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院および名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院として運営開始
■名古屋市立中央看護専門学校の看護学部への統合により葵校舎を設置
■なごや学研究センターを設置



- Apr. 1950 ■Established Nagoya City University.
- Jun. 1951 ■Relocated the Faculty of Pharmaceutical Sciences (from Narumi Town to 3-1, Tanabe-dori, Mizuho-ku, Nagoya and to 1-11, Hagiya, Mizuho-ku, Nagoya).
- Apr. 1952 ■Established the Department of Medical School of the Medical School under the new educational system.
- Apr. 1955 ■Established the College of General Education for providing general education to the Premedical Course of the Medical School and the Faculty of Pharmaceutical Sciences following the establishment of the Premedical Course in the Medical School.
- Sep. 1957 ■Renamed affiliated Welfare Women's Higher School to "Nursing School of Nagoya City University."
- Apr. 1958 ■Established the Advanced Course in Pharmacy in the Faculty of Pharmaceutical Sciences.
- May. 1959 ■Relocated the administration office to Kawasumi Campus.
- Mar. 1961 ■Abolished the Medical School and the Graduate School of Medical Sciences under the old academic system; abolished the Advanced Course in Pharmacy of the Faculty of Pharmaceutical Sciences.
- Apr. 1961 ■Established the Graduate School of Medical Sciences (Doctoral Program) and the Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Master's Program).
- Apr. 1964 ■Established the Department of Economics in the Faculty of Economics.
- Apr. 1965 ■Relocated a part of the College of General Education and Student Affairs Office from Tabane-dori Campus to Yamanohata Campus.
- Mar. 1966 ■Collected the facilities of the Faculty of Pharmaceutical Sciences on Tanabe-dori Campus.
- Apr. 1966 ■Established the Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Doctoral Program).
- Nov. 1966 ■Rebuilt the University Hospital; resumed medical services in the new hospital (on Kawasumi Campus).
- Apr. 1967 ■Launched the Calculation Center.
- Apr. 1968 ■Collected the facilities of the College of General Education on Yamanohata Campus.
■Established the Graduate School of Economics (Master's Program).
- Apr. 1970 ■Established the Doctoral Program of the Graduate School of Economics.
■Added the Department of Pharmaceutics to the Faculty of Pharmaceutical Sciences, making the faculty bi-departmental (Department of Pharmacy, Department of Pharmaceutics).
- Apr. 1971 ■Established the Evening Class of the Nursing School.
- Jun. 1981 ■Completed the extension work of the University Hospital.
- Apr. 1987 ■Launched the Institute of Molecular Medicine Affiliated with the Graduate School of Medical Sciences.
- Apr. 1988 ■Established the Nagoya City University College of Nursing (Department of School of Nursing).
- Apr. 1989 ■Established the Graduate School of Economics (Master's Program).
- Mar. 1990 ■Abolished the Nursing School.
- Apr. 1991 ■Added the Department of Management to the Faculty of Economics, making the faculty bi-departmental (Department of Economics, Department of Management)
■Established the Advanced Course in Midwifery in the College of Nursing.
- Dec. 1992 ■Completed the construction of the Center for Experimental Animal Science Affiliated with the Graduate School of Medical Sciences.
- Apr. 1994 ■Received the approval of the Advanced Course in Midwifery of the College of Nursing by the National Institution of Academic Degrees and University Evaluation.
- Mar. 1995 ■Completed the construction of the Advanced Pharmaceutics Research Facility Affiliated with the Graduate School of Pharmaceutical Sciences.
- Jul. 1995 ■Received the approval as a special functioning hospital.
- Mar. 1996 ■Completed the construction of the Research Building of the Graduate School of Medical Sciences of the Medical School.
■Abolished the College of General Education.
- Apr. 1996 ■Established the School of Humanities and Social Sciences (Department of Human Sciences, Department of Social Studies, Department of Intercultural Studies).
■Established the School of Design and Architecture (Department of Visual Information Design, Department of Life Environment Design)
■Established the Institute of Natural Sciences.
■Launched the Institute of Economic Research Affiliated with the Graduate School of Economics.
- Apr. 1999 ■Established the School of Nursing (Department of School of Nursing).
- Apr. 2000 ■Established the Graduate School of Humanities and Social Sciences (Master's Program).
■Established the Graduate School of Design and Architecture (Master's Program).
■Established the Graduate School of Natural Sciences (Master's Course).
- Apr. 2001 ■United the Library and the Information Center into the Library and Information Processing Center.
- Mar. 2002 ■Abolished the College of Nursing.
- Apr. 2002 ■Introduced the departmental system into the graduate schools.
■Established the Graduate School of Humanities and Social Sciences (Doctoral Program).
■Established the Graduate School of Design and Architecture (Doctoral Program).
■Established the Graduate School of Natural Sciences (Doctoral Program).

- Apr. 2003 ■Established the Graduate School of Nursing (Master's Program).
- Jan. 2004 ■Started the Medical Center of the University Hospital.
- Apr. 2005 ■Renamed the School of Design and Architecture to "Department of Design and Information Technology" and "Department of Artificial Environment Design."
■Reorganized the major system of the Graduate School of Economics.
■Established the Graduate School of Nursing (Doctoral Program).
■Launched the Institute of Studies in Humanities and Cultures Affiliated with the Graduate School of Humanities and Social Sciences.
- Apr. 2006 ■Established Public University Corporation Nagoya City University.
■Reorganized the Faculty of Pharmaceutical Sciences, and established the Department of Pharmacy (six-year course) and the Department of Pharmaceutical and Life Sciences (four-year course).
- Apr. 2007 ■Reorganized the Faculty of Economics, and established the Department of Public Policy in Economics, the Department of Management System, and the Department of Accounting and Finance.
- May. 2007 ■Started the Outpatient Facility of the University Hospital.
- Apr. 2008 ■Established the Graduate School of Medical Sciences (Master's Program).
■Added the midwifery discipline to the Master's Program of the Graduate School of Nursing.
- Dec. 2008 ■Completed the construction of the Practical Training Building of the Faculty of Pharmaceutical Sciences.
- Apr. 2009 ■Launched the Institute of Artificial Environment Design Affiliated with the Graduate School of Design and Architecture.
- Jul. 2009 ■Completed the construction of the Research Building of the Faculty of Pharmaceutical Sciences.
- Dec. 2009 ■Launched the Institute of Biodiversity Affiliated with the Graduate School of Natural Sciences.
- Apr. 2010 ■Renamed the Department of Artificial Environment Design of the School of Design and Architecture to "Department of Architecture and Urban Design."
- Apr. 2011 ■Received the designation as Emergency & Critical Care Center.
- Nov. 2011 ■Established the Institute of Drug Discovery Science.
- Apr. 2012 ■Reorganized the School of Design and Architecture, establishing the Department of Informatics and Media Design, the Department of Industrial Innovation Design and the Department of Architecture and Urban Design.
■Reorganized the Doctoral Program of the Graduate School of Pharmaceutical Sciences, establishing the Doctoral Program (4-year program) and the Doctoral Program (3-year program).
■Authorized the Regional Perinatal Medical Center.
- May. 2012 ■Started the operation of the east building (Kidani Memorial Cancer Center) of the University Hospital.
- Oct. 2012 ■Completed the construction of the Lecture and Library Building of the Faculty of Pharmaceutical Sciences.
- Mar. 2013 ■Established the Nursing Practice Study Center.
■Established the Nagoya City University KORYUKAI (Exchange Association).
- Apr. 2013 ■Renamed the Department of Human Sciences of the School of Humanities and Social Sciences to "Department of Psychology and Education."
■Established the Graduate School of Cooperative Major in Nanopharmaceutical Sciences (Doctoral Program) in the Graduate School of Pharmaceutical Sciences jointly with Nagoya Institute of Technology.
- Oct. 2014 ■Formulated the Charter of Nagoya City University and the Future Plan of Nagoya City University.
- Nov. 2014 ■Established the Research Center for Recurrent Pregnancy Loss.
- Apr. 2015 ■Designated as General Perinatal Medical Center.
■Renamed "Department of Biological Information, Graduate School of Natural Sciences" to "Department of Information and Basic Science, Graduate School of Natural Sciences."
- Apr. 2016 ■Authorized as a special medical institution for uninsured combined treatment in the National Strategic Special Zones.
- Jan. 2017 ■Established the Center for Medical Innovation and Technology.
- Apr. 2017 ■Established the Medical Psychology Center.
■Established the Education and Research Center for Advanced Medicine.
- Apr. 2018 ■Established the School of Biology and Integrated Sciences, Department of Biology and Integrated Sciences.
(Reorganized the Institute of Natural Sciences)
■Established the Institute for Advanced Education and Research.
■Established Education and Research Center for Community Medicine.
- May. 2018 ■Established Center for urban policy research and education.
- Oct. 2019 ■Established the Institute of Brain Science.
- Apr. 2020 ■Renamed the Graduate School of Natural Sciences to "Graduate School of Science."
- Feb. 2021 ■Formulated the Future Plan of Nagoya City University 2021.
- Apr. 2021 ■Incorporated Nagoya City East Medical Center and Nagoya City West Medical Center into NCU's affiliated hospitals, and started their operation as Nagoya City University East Medical Center and Nagoya City University West Medical Center.
- May 2021 ■Established the SDGs Center.
- Apr. 2023 ■Established the School of Data Science
■Incorporated Midori Municipal Hospital and Koseiin Medical Welfare Center into NCU's affiliated hospitals, and started their operation as Nagoya City University Midori Municipal Hospital and Nagoya City University Mirai Kousei Hospital.
■Establishing the Aoi School Building after integrating with the School of Nursing at the Nagoya City Central School of Nursing
■Established the Nagoya Studies Research Center

名古屋市立大学憲章

平成26年10月制定 Enacted in October 2014

Charter of Nagoya City University

前 文

名古屋市立大学は、自然の恵み豊かな濃尾平野の大地に抱かれた中部圏の中心都市である名古屋市の市民によって、1950年に設立された。

医学部、薬学部からなる公立大学として開学した本学は、名古屋薬学校(1884年開校)と名古屋市立女子高等医学専門学校(1943年開校)を源流とする。その後、地域社会の要請に応じて学術的貢献領域を拡充しつつ、2006年には公立大学法人化を果たし、現在、6学部7研究科を有する都市型総合大学となり、さらなる進化を遂げようとしている。

本学は、これまで一貫して地域に開かれ、広く市民と連携し、協働してきた。科学・技術・芸術・文化・産業・経済の発展と医療・健康福祉の向上に寄与し、それぞれの分野で、知性と教養に溢れ、創造力に富んだ次世代を担う有為な人材を輩出している。教職員、学生をはじめ、本学に集うすべての人は、市民の付託に応え、真理を探究し、本学が人類の幸福に資する実践的な研究成果を世界に発信する誇り高き「知の創造の拠点」となるため、今後も果敢に行動していくことを誓い、ここに大学憲章を制定する。

2014年10月28日

October 28, 2014

研 究

1 創造性豊かなトップレベルの研究の実践

私たちは、人類の幸福に資するため、気概ある真理の探究者として、卓越した知性、行動力を発揮して、創造性に富む高度な研究を展開し、「知の創造の拠点」として世界に向けてその成果を発信します。

2 地域社会の明るい未来を育む研究拠点機能

私たちは、大都市名古屋を中心とする地域に根ざし、モノづくり産業基盤を大切にし、医療・福祉関連施策を推進し、地域社会の明るい未来を育むため、実践的な研究拠点としての役割を果たします。

3 国際的・学際的研究への挑戦

私たちは、多彩な研究分野を有する本学の特性を生かし、他大学とも幅広く協働し、各分野の基礎研究、応用研究を充実させることにとどまらず、国際的・学際的研究にも精力的に挑戦し、最先端の研究成果とその実践を追求します。

教 育

1 個性に即した人生の思考基盤となる教養の涵養

私たちは、学ぶもの一人ひとりが個性を認識し、人生の様々な局面において自ら活路を見出すための思考基盤となる教養を修得できる教育を行います。

2 次世代をリードできるバランス感覚に優れた人材の育成

私たちは、常に時代の変化を機敏に捉え、グローバルな視点で魅力ある教育を行い、次世代をリードできるバランス感覚に優れた人材を育成します。

3 きめ細やかで温もりのある教育の実践

私たちは、自ら学ばんとする者に広く門戸を開き、多様性のある学習環境の中で、きめ細やかで温もりのある教育を実践し、上質かつ豊かな感性で社会と向き合うことのできる能力を育みます。

Preface

Nagoya City University was established in 1950 by the citizens of Nagoya City, the largest city of the Chubu Region, and located in the bosom of the Nobi Plain which is abundantly blessed in nature. NCU, founded as a public university composed of the Medical School and Faculty of Pharmaceutical Sciences, originated in Nagoya School of Pharmacy (founded in 1884) and Nagoya Municipal Women's Higher Medical School (founded in 1943). Afterward, NCU has expanded its scholarly contributive field in response to regional requirements. In 2006, NCU reorganized itself as a public university corporation. Today, NCU is an urban-type comprehensive university with six schools and seven graduate schools, and is preparing for further development.

Thus far, NCU has consistently opened itself to the regional community, widely cooperating and collaborating with citizens. The open university has contributed to the development of science, technology, art, culture, industry and economy and the improvement of medical care and health and welfare, and produced deserving human resources with the ability to lead the next generation with their abundant intelligence, education and creativity in various fields.

All who gather at NCU, including faculty members and students, hereby pledge to act resolutely in order to make a proud "center for the creation of knowledge" that can meet the remits of citizens, search for the truth, and disseminate its practical research accomplishments to the world for the benefit of human happiness, and constitute the University Charter to ensure the pledge.

Research

1. Pursuance of highly creative, top-level research

We, as mettlesome seekers of the truth, will push forward with highly creative, advanced research and disseminate the research accomplishments as a "center for the creation of knowledge" to contribute to human happiness by exerting our prominent intellectuality and high ability to take action.

2. Functioning of the research center to realize the bright future of the regional community

We, rooted in the region centered on the large city Nagoya, will play the role of a practical research center, while cherishing the existing industrial foundation of manufacturing, to promote the enrichment of facilities for medical care and welfare and realize the bright future of the regional community.

3. Meeting the challenges of international, interdisciplinary research

We, utilizing the features of NCU with a variety of research fields, will not only widely collaborate with other universities and enrich the basic research and applied research of each field, but also energetically challenge ourselves to international, interdisciplinary research to pursue advanced research accomplishments and actual performance.

Education

1. Cultivation of culture that can serve as the foundation of thought according to individuality

We will provide education in order for each student to identify their personal qualities and acquire culture as the foundation of thinking to enable them to overcome challenges in various aspects of their lives.

2. Cultivation of human resources with an excellent sense of balance, capable of leading the next generation

We will keep an eye on the changes of the times, provide attractive education from a global perspective, and thereby develop human resources who have a suitably good sense of balance to lead the next generation.

3. Provision of elaborate, warmhearted education

We will open our doors wide to those willing to learn for themselves, and provide elaborate, warmhearted education in a diversified study environment in order to foster their ability to confront society with refined, unstinted sensibility.

社会貢献

1 地域社会への貢献

私たちは、市民とともに歩む大学であることを自覚し、名古屋市のシンクタンクとしての機能を果たし、学術的貢献を通して地域社会における諸課題の把握と解決に努めます。

2 研究教育成果の還元

私たちは、人類の幸福に資するため、持続可能な社会の構築に資する優れた人材を育成するとともに、産学官連携を推進し、研究・教育成果を広く社会に発信します。

大学病院

1 安全で開かれた医療の提供

私たちは、名古屋都市圏の中核医療機関として、他の医療機関との協力・連携を推進し、安全で開かれた最高水準の医療を提供するとともに、医学の進歩と新たな医療の確立に邁進します。

2 質の高い医療人の育成

私たちは、日々進歩する医療に対応できる専門教育の充実を図り、常に高い倫理観を持ち、温かで信頼される「学び続ける医療人」を育成します。

国際化

1 国際社会への貢献

私たちは、国外の研究・教育機関との共同研究や国際的機関への活動支援を積極的に行い、広く国際社会に貢献します。

2 多文化共生社会の実現

私たちは、学術的交流を通して多様な文化の理解を深め、多文化共生社会の実現に努めます。

大学運営

1 自主・自律の精神に基づく大学運営

私たちは、研究・教育機関としての社会的使命を堅実に果たすため、大学の自治と学問の自由を尊重し、公立大学法人としての崇高な自主・自律の精神を発揮して、大学運営を行います。

2 健全な財政運営と施設環境の整備

私たちは、本学に集うだれもが誇りと愛着を持ち、安心して研究・教育活動及び医療活動に専念できるよう、大学の人材・資源を充実させ、これらを最大限に活用して、名古屋市の理解を得つつ、健全な財政運営と施設環境の整備に努めます。

3 時代の潮流に応じた改革・改善

私たちは、誇り高き「知の創造の拠点」として本学が発展していくため、常に自己点検・評価を行い、時代の潮流に応じた改革・改善を実施します。



薬学部校舎(昭和35年当時)
School Building of the Faculty of
Pharmaceutical Sciences (1960)



医学部校舎(昭和28年当時)
School Building of the Medical School
(1953)



経済学部校舎(昭和45年当時)
School Building of the Faculty of Economics
(1970)



大学病院(昭和35年当時)
University Hospital (1960)

Contribution to Society

1. Contribution to the regional community

We, realizing that we are a university which marches together with citizens, will fulfill our function as a think tank of Nagoya City, and work to grasp and solve various problems in the regional society through academic contribution.

2. Return of research and education accomplishments

We will develop excellent human resources to contribute to the building of a sustainable society, and promote industry-academic-government cooperation, and widely disseminate the fruits of research and education to society in order to contribute to human happiness.

University Hospital

1. Provision of safe, open medical care

We, as the core medical institution of the Nagoya metropolitan area, promote cooperation and collaboration with other medical institutions to provide a safe, open medical care of the highest standard, and vigorously push forward advances in medicine and the establishment of new medical care.

2. Cultivation of high-quality medical professionals

We will enrich professional education to keep up with ever-progressing medical care, uphold a high sense of ethics, and cultivate warmhearted, reliable "medical professionals who continue to learn."

Internationalization

1. Contribution to the international community

We will actively perform joint research with foreign research and educational institutions and provide support for the activities of international organizations, and thereby extensively contribute to the international community.

2. Realization of a society of multicultural coexistence

We, through academic exchange, will deepen the understanding of diversified culture, and work towards the realization of a multicultural society.

University Management

1. University management based on the spirit of independence and autonomy

We will carry on the management of the university by respecting the freedom of university autonomy and scholarship, and exerting a sublime spirit of initiative and independence in order to fulfill our social mission as an institution of research and education.

2. Sound fiscal operation and facilities environmental improvement

We will enrich and optimally utilize our human and other resources, and with the understanding of Nagoya City, and endeavor to perform sound fiscal operations and upgrade facilities so that all who gather at the university can feel pride and affinity and devote themselves to research, education and medical activities in security.

3. Reformation and improvement according to the flow of the times

We will constantly inspect and evaluate ourselves, and reform and improve the university to keep up with the flow of the times in order for the university to develop as a proud "center for the creation of knowledge."

Future Plan of Nagoya City University 2021

新しい「名市大未来プラン」策定の背景

時代の変化に的確に対応し、本学の強みを活かしながら、15年後の明るい未来を築いていくため、2014年10月に「名市大未来プラン」を策定しました。策定から6年が経ち、当初掲げていた52項目のプランはほぼ実現することができました。本学の現状や社会情勢の変化を踏まえて、今後進むべき方向性を長期的かつ戦略的な視点で示す道しるべとして、2021年2月に新たなプラン「名市大未来プラン2021」を、2022年1月には「研究科等未来プラン2021」を策定しました。

4つのビジョン、3つの視点、48のプラン

2014年に策定した名市大未来プランでは、以下の4つのビジョンを掲げ、大学・附属病院の運営に取り組んできました。

- ①誇りを持ち、愛される名市大
- ②名古屋市と共に発展する名市大
- ③戦略性を持って世界に飛躍する名市大
- ④経営基盤が安定した名市大

名市大未来プラン2021では、これら4つのビジョンを踏まえた上で、新たに3つの視点を設定しました。

- ①Society5.0 ②Social Innovation ③SDGs

これらは、本学の今後の全ての活動において、共通して意識すべき重要な視点です。

これらの4つのビジョン、3つの視点に基づき、本学が今後実現すべき48のプランを設定しました。



明るい未来を切り拓く48のプラン

48 Plans for a Brighter Future

1. 教育

- (1) Society5.0をこえて活躍する未来志向の人材育成
- (2) 多様な学修者に対応できる柔軟な教育プログラムの構築
- (3) 学生本位の学修に対応した教育機会・学修支援の充実
- (4) 広い視野を持ち質の高い教育ができる教員による教育力の向上
- (5) 自主的・自律的な学修をサポートする施設・設備の整備
- (6) ICTを活用した学修環境の充実
- (7) 名古屋市教育委員会との連携および高大連携の強化

Background of the formulation of the new Future Plan of Nagoya City University

In October 2014, we formulated the Future Plan of Nagoya City University in order to build a brighter future over the course of 15 years, while responding to the changes of the times and taking advantage of our strengths. Six years have passed since it was formulated, we have achieved most of the 52 plans. We set up the "Future Plan of Nagoya City University 2021" in February 2021, and the "Future Plan of Graduate Schools of Nagoya City University 2021" in January 2022, as a long-term, strategic guide for the direction we should take in light of the university's current situation and changes in social conditions.

Four Visions, Three Perspectives, 48 Plans

The Future Plan of Nagoya City University formulated in 2014 set out the following four visions, and we have been working on the management of universities and the affiliated hospital.

- 1) NCU in which citizens feel pride and affinity
- 2) NCU which keeps developing together with Nagoya City
- 3) NCU which keeps advancing on the world stage with a strategic perspective
- 4) NCU which has a stable management base

In the Future Plan of Nagoya City University 2021, in addition to the four visions described above, we have established three new perspectives.

- ①Society5.0 ②Social Innovation ③SDGs

These are important standpoints that should be shared in all future activities of this University.

Based on four visions and three perspectives, we set forth 48 plans that we should realize in the following 8 fields.

1. Education

- (1) Cultivation of Future-oriented human resources succeeding beyond Society 5.0
- (2) Construction of a flexible educational program that can accommodate a diverse range of students
- (3) Enhancement of educational opportunities and support for student-oriented learning
- (4) Improvement of educational capabilities through teachers who have a broad perspective and can provide high-quality education
- (5) Development of facilities and equipment to support independent and self-motivated learning
- (6) Enhancement of learning environments with ICT
- (7) Strengthening of cooperation with the Nagoya City Board of Education and collaboration with high schools

2. 研究・産学官イノベーション

- (1) 異分野融合型の革新的研究の推進
- (2) 市民の健康と福祉に革新をもたらす先進的な研究の推進
- (3) 社会課題・社会ニーズをベースとしたイノベーションの実現
- (4) 産学官連携支援体制の強化による共同研究の推進
- (5) スタートアップ企業支援によるイノベーションの創出
- (6) 優秀な若手研究者や大学院生が集まる魅力的な研究環境の構築
- (7) 研究拠点の設置と研究設備の拡充
- (8) 持続的な研究費の獲得
- (9) 研究成果の戦略的・効果的な発信
- (10) 名古屋市と連携した産学官連携の名市大モデルの構築

3. 社会貢献

- (1) SDGs17の目標達成に向けた取り組みの推進
- (2) 持続可能な地域づくりへの貢献
- (3) 学修者が自分自身を改革するための継続的な学びの環境の創出
- (4) 名古屋市が抱える課題の解決への貢献

4. 国際化

- (1) 教育・研究の国際化のための仕組みづくり
- (2) 国際交流センターの機能・体制強化
- (3) 海外拠点校を中心とした交流および協働の推進
- (4) 名古屋市の多文化共生を支える学際的な実践研究の促進

5. 医療

- (1) 約1,800床の病床を活かした医療体制の強化と高度先進医療の提供
- (2) 超高齢社会における医療体制の提供と地域医療への貢献
- (3) 高度先進医療提供のための病院機能の強化
- (4) 救急・災害医療機能の強化
- (5) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築
- (6) ビッグデータ・高度情報技術・ロボット技術の利活用
- (7) 臨床研究・治験ネットワークの構築
- (8) 安定経営のための経営改革・組織改革の推進

6. 経営基盤

- (1) 法人運営の基盤となる財源の確保
- (2) 多様な財源の確保に向けた取り組み
- (3) 附属病院群の堅実経営による法人運営の安定化
- (4) 資源の適切な配分やAI・ICTの活用等による法人運営の効率化
- (5) 長寿命化の視点に立った施設整備・有効活用

7. 組織マネジメント

- (1) 常に社会変化に対応できる柔軟な組織への進化
- (2) 戦略的な人材確保、育成および配置
- (3) 教職員一人ひとりが活躍できるためのダイバーシティの推進
- (4) 組織マネジメントにおけるAI・ICTの活用

8. MIRAIへの展開

- (1) 世界TOP100を目指した戦略的な投資
- (2) 本学が持続的に発展するための柔軟な対応
- (3) AI・ICTの積極的利用による複数キャンパスの最適活用
- (4) ブランド力の強化による国内外におけるプレゼンスの向上
- (5) 同窓会と名市大サポーターの協働
- (6) 名古屋市や関係省庁との連携の進化

2. Research, Industry-Academia-Government Innovation

- (1) Promotion of innovative interdisciplinary research
- (2) Promotion of innovative research for public health and welfare
- (3) Realization of innovation based on social issues and needs
- (4) Promotion of joint research by strengthening support systems for industry-academia-government collaboration
- (5) Creating of innovation by supporting startup companies
- (6) Construction of an attractive research environment that attracts excellent young researchers and graduate students
- (7) Establishment of research centers and expansion of research facilities
- (8) Sustainable acquisition of research funds
- (9) Strategic and effective dissemination of research results
- (10) Construction of the Nagoya City University Model for industry-academia-government collaboration with Nagoya City

3. Social Contribution

- (1) Promotion of efforts to achieve the goals of SDG 17
- (2) Contribution to sustainable community development
- (3) Creating of a continuous learning environment for self-renovation
- (4) Contribution to the solution of issues facing Nagoya City

4. Internationalization

- (1) Establishment of a system for internationalization of education and research
- (2) Strengthening the function and structure of the International Exchange Center
- (3) Promotion of exchange and cooperation focused on overseas contact point universities
- (4) Promotion of interdisciplinary practical research to support multicultural coexistence in Nagoya City

5. Medical Care

- (1) Strengthening of the medical system and provision of highly advanced medical care utilizing approximately 1,800 sickbeds
- (2) Contribution to the provision of medical systems and community health care in super aging society
- (3) Strengthening of hospital functions to provide highly advanced medical care
- (4) Strengthening of emergency and disaster medicine functions
- (5) Development of excellent medical persons and establishment of an organization to provide high-quality medical care
- (6) Utilization of big data, advanced information technology, and robot technology
- (7) Construction of a clinical research and trial network
- (8) Promotion of management and organizational reforms for stable management

6. Management Base

- (1) Securing financial resources to serve as the foundation for corporate management
- (2) Efforts to secure diverse financial resources
- (3) Stabilization of corporate management with the University Hospital Group
- (4) Improved efficiency of corporate management through the appropriate allocation of resources and the use of AI and ICT
- (5) Development and effective use of facilities from the perspective of long-term utilization

7. Organizational Management

- (1) Evolution into a flexible organization that can constantly respond to social changes
- (2) Strategic recruitment, development and deployment of human resources
- (3) Promotion of diversity for each faculty member to play an active role
- (4) Utilization of AI and ICT in organizational management

8. Evolution into the future

- (1) Strategic investment to become the world's top 100
- (2) Flexible response to sustainable development
- (3) Optimal use of multiple campuses through active utilization of AI and ICT
- (4) Enhancement of domestic and international presence by strengthening our brand
- (5) Collaboration between Alumni Association and Nagoya City University Supporters
- (6) Evolution of cooperation with Nagoya City and related ministries

中期目標・中期計画・業務実績評価

Medium-Term Goals, Medium-Term Plans, Evaluation of Achievement

1.中期目標・中期計画

中期目標は、本学の公立大学法人化後の各6年間（現在は、第三期：平成30年4月～令和6年3月）における業務運営の方向性を設立団体（名古屋市）の長が定めたものです。本学では、中期目標を達成するための具体的な取り組みを中期計画として定め、さらに中期計画の確実な実行に向け毎事業年度の計画（年度計画）を定めてその遂行に取り組んでいます。

中期目標・中期計画の概要（主な取り組み）

基本的な理念

全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす

- 地域社会と国際社会に貢献し、次世代をリードできる優れた人材を輩出する。
- 健康・福祉の向上、生命現象の探究、経済・産業の発展、都市政策とまちづくり、子どもの育成支援、国際化の推進、文化芸術の発展などに関する研究課題に重点的に取り組む。
- 地域に開かれた大学として、広く市民や名古屋市などとの連携を一層強化し、地域や行政の課題解決に寄与する。地域の医療の発展に中核的な役割を果たし、生涯にわたる教育の推進に積極的に寄与する。

これらの活動を市民の理解を得ながら推進していくために、より積極的に情報を発信し、説明責任を果たす。また、大学の運営体制の自律性・弾力性を強化し、財務内容の改善に取り組むことで、運営の基盤を強化する。

教育

■ 学士課程

- 能動的・主体的な学修への転換の推進
- カリキュラムの体系化・学修成果の可視化・成績評価の厳格化などによる大学教育の質の確保
- 教養教育と専門教育の連携による全学的かつ効果的な語学教育の実施

■ 大学院課程

- 高度な知識と研究能力を涵養する教育・研究指導の実施
- 大学院教育の国際化の一層の推進
- 総合大学としての特性を活かした学際的教育の推進

■ 教育実施体制

- 教育改革を全学的に推進する新たな体制の構築
- 医学と薬学の枠を越えた共同体制の構築
- リカレント教育の仕組みの構築
- 学際的・組織横断的な教育・研究の推進に向けた教育実施体制の見直し

■ 教育環境

- 教育施設のあり方についての構想の策定

■ 学生への支援

- 学生への経済的支援の拡充や障害学生への支援の充実
- 学士課程低年次からの就職ガイダンスの実施

1. Medium-Term Goals and Medium-Term Plans

Medium-term goals are set on the course of action for the academic and business management of NCU by Mayor of Nagoya City (university establishment body) for each 6-year term (currently third term: April 2018 to March 2024) after NCU was reorganized into a public university corporation. NCU has established specific actions to attain the medium-term goals. Furthermore, NCU has set up plans for each academic/fiscal year (annual plans) to steadily carry out the medium-term plans.

Outline of the Medium-Term Goals and Medium-Term Plans (Major Actions)

Basic philosophy

Aiming to be a university in which citizens of Nagoya feel pride and affinity, NCU will do the following:

- Produce excellent human resources who can contribute to local communities and international society, and lead the next generation
- Focus on research issues related to the improvement of health and welfare, the investigation of life phenomena, economic and industrial development, urban policy and urban renewal, support for child-raising, promotion of internationalization, development of cultural and the art, etc.
- Further strengthen the broad-ranging cooperation with citizens and Nagoya City as a university open to the community to contribute to the resolution of problems in local communities and public administration, and also play a core role in the development of community medical care and actively contribute to the promotion of life-time education

To promote these activities with the understanding of citizens, NCU will actively provide information and fulfill its accountability obligations. On the other hand, NCU will strengthen the autonomy and flexibility of its operating structure, and work on the improvement of its financial condition to strengthen its management foundation.

Education

Undergraduate Programs

- Promotion of the shift to active and subjective studies
- Securement of the quality of university education through the systematization of the curriculum, the visualization of study accomplishments, the strict assessment of performance, etc.
- Provision of university-wide and effective language education in cooperation with liberal arts education and specialized education

Graduate Programs

- Implementation of educational and research guidance to cultivate advanced knowledge and research capability
- Further promotion of the internationalization of graduate school education
- Promotion of the interdisciplinary education taking advantage of the unique features of a comprehensive university with plural schools and faculties

Education Implementation System

- Establishment of a new system for promoting university-wide educational reform
- Establishment of a joint system beyond the framework of medical science and pharmaceutical science
- Establishment of a system of recurrent education
- Review of the education implementation system toward the interdisciplinary and cross-sectoral promotion of education and research

Educational Environment

- Formulation of the concept of educational facilities

Support for Students

- Expansion of financial support for students, and enrichment of support for students with disabilities
- Provision of job-hunting guidance to undergraduate students from earlier stages

研究

- 認知症や発達障害などに関する先進的な研究の充実
- 都市特有の諸課題の解決に向けた政策提言を行う都市政策研究センターの設置
- 分野横断的な研究体制の構築や学外との連携などによる世界的に高度なレベルの研究活動の推進
- 全学的な研究設備の共同利用の促進や教員の弾力的な配置などによる研究環境の充実
- 研究費の配分や研究環境の整備などによる若手・女性教員への研究活動支援

社会貢献

- 魅力的な公開講座の提供や市民の関心を高めるための仕組みの構築
- 地域の中学生・高校生等に対する大学の高度な教育・研究に触れる機会の提供
- 行政施策との連携や産業界・他大学との連携による医療・産業・地域活性化施策等への取り組み

国際化

- 海外拠点校設置を含めた海外の大学とのネットワーク形成の戦略的な推進
- 教員の海外派遣や外国人研究者の受入れ、その他の国際的な共同研究等への支援
- 学生及び外国人研究者と地域との国際交流を通じた多文化共生の推進

附属病院

- 体制及び病院設備・医療機器等の整備による病院ごとの特長を踏まえた医療の提供
- 先進医療及び治験などの臨床研究の推進
- 救急医療及び災害医療に係る体制並びに施設・設備の強化
- 地域の医療機関・介護施設との連携の一層の推進と人材育成・多職種連携の実施
- 臨床研修医を始め、専門医に至るまでの人材育成体制の強化

業務運営等

- 理事長によるガバナンス機能の強化
- 教育・研究と出産・育児・介護の両立ができる就業環境の整備等による女性上位職教員（教授・准教授）数の増加

財務

- 経営改善意識を持った適切な予算の執行
- 機器の共同利用の推進や業務委託の集約化等の見直しによる経費抑制

2. 業務実績評価

本学は、毎事業年度の計画（年度計画）の実施状況等を記載した業務実績報告書を作成し、名古屋市に設置された名古屋市公立大学法人評価委員会の評価を受けています。また、この評価結果を踏まえた対応・改善状況を翌年度の業務実績報告書に記載し、本学ウェブサイトで公表しています。

Research

- Improvement of the progressive research related to dementia, developmental disorders, etc.
- Establishment of the Center for Urban Policy Research and Education for making policy recommendations to resolve various problems unique to cities
- Promotion of internationally high-level research activities through the establishment of a cross-sectoral research system and collaboration with off-campus bodies, etc.
- Improvement of the research environment by promoting the joint use of university-wide research facilities and flexible positioning of faculty members
- Assistance for research activities by young faculty members and female faculty members through the allocation of research funding and improvement of research environment, etc.

Social Contribution

- Provision of appealing open lectures, and construction of a system to raise the interest of citizens
- Provision of opportunities to experience the advanced education and research of university to local junior and senior high school students
- Engagement in measures to vitalize medical care, industry and regions, etc. through collaboration with administrative policy, industry and other universities

Internationalization

- Strategic promotion of the formation of networks with overseas universities, including the establishment of overseas base institutions
- Dispatch of faculty members to overseas countries, acceptance of researchers from overseas countries, and support for international joint research, etc.
- Promotion of multicultural coexistence through international exchange among students, foreign researchers and the local community

University Hospital

- Provision medical care based on the characteristics of each hospital through maintenance of the system, hospital facilities, medical equipment, etc.
- Promotion of clinical research, such as advanced medical care and clinical trials
- Strengthening of the system, facilities and equipment related to emergency medical care and disaster medical care
- Furthering of the cooperation with local medical institutions and nursing facilities, and implementation of the cultivation of human resources and multi-occupational cooperation
- Strengthening of the cultivation system for human resources from clinical trainees to medical specialists

Administration Management and Others

- Strengthening of the governance functions by the Chairperson
- Increase of the number of high-level female faculty members (professors, associate professors) through the improvement of a working environment in which they can balance education and research activities with childbirth, childcare and caregiving

Financial Affairs

- Execution of the budget in a proper manner conscious of management improvement
- Reduction of costs through promotion of the joint use of equipment, consolidation of subcontracting, etc.

2. Evaluation of Academic and Business Management Achievements

NCU prepares an academic and business management report describing the achievements and others along each academic/fiscal year plan (annual plan), and submits it to the Public University Corporation Evaluation Committee set up in the City of Nagoya. NCU includes improvement achievements based on the results of this evaluation in the following year's business management report and makes it open to the public on its website.

経営・評価・倫理・ダイバーシティ

Management, Evaluation, Ethics and Diversity

■ 大学経営

本学は、授業料等の自己収入と名古屋市からの運営費交付金等により運営しております。法人としてのメリットを生かし、機動的・迅速な意思決定、人材の確保、企業会計原則に基づいた財務会計制度による事務執行等、自主的かつ健全な大学経営を行っています。また、大学の財務状況は、財務諸表、予算、収支計画及び資金計画等を本学ウェブサイトで公開しています。

■ 自己点検・評価

本学は、学校教育法の規定に基づき、教育研究の向上に資するため、自ら教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について点検及び評価を行い、これを本学ウェブサイトで公表しています。

■ 認証評価

大学は、学校教育法の規定に基づき、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況について、一定期間ごとに文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を受けることになっています。

本学は、令和4年度に認証評価機関である一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる評価を受け、「(同センターが定める)大学評価基準を満たしている」と評価されました。

評価の結果については、本学ウェブサイトで公表しています。この評価結果を踏まえ、より良い大学となるよう改善に取り組めます。



桜山(川澄)キャンパス
Sakurayama (Kawasumi) Campus

■ University Management

NCU operates on its own income sources, including tuition fees, and operating cost subsidies, etc. from Nagoya City. Making the most as a corporation, NCU carries on independent, sound management through flexible, speedy decision making, human resource securement, clerical work and other management procedures under the finance and accounting system based on the standard business accounting practices. In addition, NCU makes its financial standing open to the public online in the form of financial statements, budget, income and expenditure plan, and cash plan.

■ Self-Inspection and Evaluation

Under the School Education Act, we have published on our website the results of self-inspection and evaluation for activities pertaining to education and research, organization and management, facilities and equipment, in order to contribute to the improvement of the institution.

■ Accreditation

Under the School Education Act, the overall condition of NCU (education and research, organization and management, and facilities and equipment) is to be periodically evaluated by an accreditation body accredited by the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology.

In the 2022 academic year, NCU was evaluated by the Japan Association for Quality of University Education, an accreditation body, and "NCU meets the standards for evaluation and accreditation of universities" set by the Association.

We have posted the results of the review on our website. We are determined to further improve our activities and management based on the review.



田辺通キャンパス
Tanabe-dori Campus

■ コンプライアンス

本学は、信頼される法人を目指し、コンプライアンスの推進に取り組んでおります。法人が掲げる「コンプライアンス」は、「法令遵守」にとどまらず、大学人として倫理観や使命感を持って行動することを基本としています。倫理観を高めていく取り組みを推進することで、本学に対する社会からの信頼を確保することを目的としています。

■ ダイバーシティ

本学では、「男女共同参画推進センター」を発展的に改組し、令和4年4月に「ダイバーシティ推進センター」を設置しました。

センターでは、男女共同参画推進、次世代育成推進、高齢者活躍推進、障害者活躍推進のための取り組みとして、女性教員比率上昇のためのポジティブアクションの実施や研究者支援、ワーク・ライフ・バランス相談や労働条件や職場環境の整備等を行います。本学の学生、教職員の一人一人が互いに個性と人権を尊重しながら学び、働き、それぞれの個性や能力が大いに発揮できる環境づくりに取り組めます。



滝子(山の畑)キャンパス
Takiko (Yamanohata) Campus

■ Compliance

Aiming to be a reliable corporation, NCU is making efforts to promote "compliance." "Compliance" assumes that corporations act with a sense of ethics and a sense of mission, as well as strictly observe the laws and regulations. NCU intends to win the confidence of society by promoting its efforts to enhance a sense of ethics.

■ Diversity

NCU reorganized the existing Gender Equality Promotion Center into the Center for Diversity, Equity, and Inclusion in April 2022. As an effort to promote gender equality and next-generation development, and to encourage elderly persons and handicapped persons to participate in activities, the Center for Diversity, Equity, and Inclusion engages in positive actions to raise the proportion of female faculty members, give assistance to researchers, offer consultation about work-life balance, and improve labor conditions and work environments. The center also works to create an environment for our students and faculty members in which they can study and work, respecting each other's personalities and human rights, and thereby fully exhibit their individual personalities and abilities.



北千種キャンパス
Kita Chikusa Campus

社会貢献活動

Social Action Programs

地域貢献活動

本学では、教育・研究成果等の資源を活用し、市民、地域社会、企業等と協働し、地域の課題の解決に協力するなどの地域貢献活動に取り組んでいます。

■書籍シリーズ「名市大ブックス」

新型コロナウイルス感染症の影響下でも、多くの方に学びの機会を提供するため、令和2年10月に創刊した本学教員らが執筆する書籍シリーズ「名市大ブックス」を継続して出版しています。

令和5年5月現在、第1巻～12巻を出版し、高評を得ています。今後も新巻の発刊を予定しており、さらなる貢献を目指しています。



名市大ブックス
Nagoya City University Books

■新型コロナウイルス感染症への附属病院群の対応

令和3年4月の名古屋市立東部・西部医療センターの大病院化以降、名古屋市立大病院と合わせた3病院で一体となって名古屋市の新型コロナウイルス感染症専用病床運営などの対応に尽力しています。

令和3年度に引き続き、令和4年4月～5月、7月～8月、11月～令和5年1月には、市が実施する新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種へ医師・歯科医師・看護師・薬剤師を派遣しました。また、令和4年12月には、接種希望者の増加への対応として本学看護学部棟での接種会場の開設、運営に協力しました。

令和5年4月には、名古屋市立緑市民病院・名古屋市厚生院附属病院が大病院化により「みどり市民病院」・「みらい光生病院」に生まれ変わり、5病院体制となりました。

今後も5病院が一体となってコロナ対応など地域医療に貢献していきます。

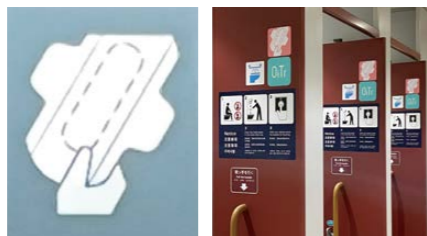


新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種
シミュレーションの様子
large-scale mass-vaccination venues of COVID-19

■中部国際空港で生理用品の提供をあらわすピクトグラム開発

中部国際空港株式会社との連携事業として、生理用品の提供をあらわすピクトグラムを芸術工学研究科の教員と芸術工学部の学生が協力し、共同開発しました。

利用者の困りごとの解消を目指し、令和5年1月から、第1ターミナルの掲示板や空港のウェブサイトなどへの掲出のほか、生理用品の提供を行うトイレや個室にも設置されました。



生理用品の提供をあらわすピクトグラム
The pictogram for representing the provision of feminine hygiene products

Regional Contributions

Nagoya City University is committed to social action programs by making the use of its resources, including education and research results, and cooperating with local citizens, communities and companies to solve local problems.

■The Book Series “Nagoya City University Books”

In order to provide learning opportunities for many people, even under the influence of COVID-19, we have continued to publish the book series “Nagoya City University Books,” written by NCU’s faculty members, since it was launched in October 2020.

As of May 2023, we have published volumes 1 through 12 and have received high praise. We plan to publish new volumes in the future, and aim to make further contributions.

■Response of University Hospitals to COVID-19

Since Nagoya City East Medical Center and Nagoya City West Medical Center became affiliated members of NCU’s University Hospital in April 2021, these medical centers and NCU’s University Hospital have been committed to working together to fulfill the needs of Nagoya City related to COVID-19, including the provision of dedicated beds.

As a continuation of activities conducted in 2021, the three hospitals dispatched physicians, dentists, nurses, and pharmacists to large-scale COVID-19 mass-vaccination venues from April to May, July to August and November of 2022, and in January 2023. In December 2022, hospitals cooperated with the opening and operation of a vaccination site at the School of Nursing building in response to the increase in persons desiring to get vaccinated.

In April 2023, with the affiliation of Midori Municipal Hospital and Kosein Medical Welfare Center, these facilities will be reborn into “Nagoya City University Midori Municipal Hospital” and “Nagoya City University Mirai Kousei Hospital”, creating a network of five hospitals in the NCU hospital network.

Moving forward, the five hospitals will continue working together to respond to COVID-19 and contribute to medical care in the region.

■Developed pictogram representing the provision of feminine hygiene products at the Chubu Centrair International Airport

In a partnership with Central Japan International Airport Co., Ltd., faculty of the Graduate School of Design and Architecture and students of the School of Design and Architecture collaborated on the joint development of a pictogram for representing the provision of feminine hygiene products. Aiming to resolve user issues, from January 2023, the pictogram is being used on signs in the Terminal 1 building and on the airport website, as well as in toilets and private rooms that provide feminine hygiene products.

産学官連携活動

本学では、教育・研究成果等の資源の企業等での活用を図るなど、産学官連携活動を推進しています。

■紫外線皮膚治療器の開発

医学研究科 森田明理教授とウシオ電機(株)の共同研究の成果である紫外線皮膚治療器「セラビームUV308 mini LED」が令和4年10月19日より発売開始となりました。『速くて、簡単(照射時間が従来の1/4に)』『軽くて、省スペース(ハンドピース重量が従来の1/3に)』『省エネ・長寿命&メンテナンスフリー』『Made in Japan』が特長です。本学は、今後ともこのような産学連携により、研究成果の社会への還元を通じ、医療技術の発展に貢献していきます。



セラビーム® UV308 mini LED
TheraBeam® UV308 mini LED

■ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞の開発

薬学研究科 松永民秀教授と富士フイルム(株)との共同研究の成果であるヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞「F-hiSIEC™」が令和元年9月より販売開始となりました。「F-hiSIEC™」は、松永教授が確立した腸管上皮細胞への分化誘導技術と富士フイルム(株)がグループ内で保有する世界トップレベルのiPS細胞関連技術などを組み合わせて開発されたヒトiPS細胞を小腸の腸管上皮細胞に分化誘導した創薬支援用細胞です。ヒト生体に近い機能を有し、創薬研究に一般的に用いられている従来の細胞と比べて、薬物の吸収性を高精度に評価できる画期的な細胞であるため、経口剤開発の効率化に大きく貢献します。

関連特許

【日本】特許第6296399号

他、国内外に特許出願中



ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞「F-hiSIEC™」
Human iPS Cell-Derived Intestinal Epithelial Cells “F-hiSIEC™”

■「スイスイおえかき」ペンのリニューアル

芸術工学研究科 横山清子教授(現データサイエンス学部教授)とパイロットインキ(株)との共同研究の成果により、「スイスイおえかき」に付属するペンが令和2年8月にリニューアルされました。水で自由に描くことができ、乾くと消える、パイロットインキのベストセラーシリーズ「スイスイおえかき」の発売20周年を迎えるにあたり、ペンの形状について人間工学に基づき、正しい持ち位置に導くことができ、正しい持ち方で握る割合が高くなる流線形状のペンが採用されました。

意匠

【日本】

意匠登録第1674305号

(D1674305) 他、国内外に登録済



リニューアルした専用ペン
Renewed special drawing pen

Industry-Academia-Government Collaboration Activities

NCU is promoting industry-academia-government collaboration activities by encouraging business enterprises to effectively utilize resources, such as education and research achievements.

■Development of Ultraviolet Skin Phototherapy Device

A phototherapy device, TheraBeam UV308 mini LED, which is a joint research product by Prof. MORITA Akimichi of the Graduate School of Medical Sciences and USHIO INC., was launched on October 19, 2022. Characteristics include being fast, simple (irradiation time is one-fourth that of previous devices), light and compact (hand piece weight is one-third that of previous models) energy efficient, long-lasting, and maintenance free, and made in Japan. NCU will continue to contribute to the development of medical technology by transferring the research results to society through such industry-university collaboration.

■Development of Human iPS Cell-Derived Intestinal Epithelial Cells

In September 2019, “F-hiSIEC™” went on sale. F-hiSIEC™ are human iPS cell-derived intestinal epithelial cells jointly researched and developed by Prof. MATSUNAGA Tamihide, Graduate School of Pharmaceutical Sciences of NCU, and FUJIFILM Corporation. F-hiSIEC™ are drug discovery research support cells developed by differentiating and inducing human iPS cells into small intestinal epithelial cells. In their development, the technique to differentiate and induce iPS cells into intestinal epithelial cells as established by Prof. MATSUNAGA was combined with the world’s top level iPS cell-related technology owned within the group by FUJIFILM Corporation, etc.

Compared with conventional cells generally having functions close to those of a human body and widely used for drug discovery research, F-hiSIEC™, which are epoch-making in that they enable the evaluation of the absorbability of drugs with a high degree of accuracy, can make a huge contribution to increasing the efficiency of oral drug development.

Related patents:

[Japan] Patent No. 6296399, etc. Patent applied domestically and internationally

■Renewal of Aqua Doodle “WATER DRAWING PEN”

As a fruit of the joint research of Prof. YOKOYAMA Kiyoko of the Graduate School of Design and Architecture (currently a professor with the School of Data Science) and The Pilot Ink Co., Ltd., the specially-designed drawing pen supplied with Aqua Doodle was renewed in August 2020. Aqua Doodle is Pilot Ink’s bestselling picture-drawing set series with which children can draw pictures freely and easily using the water-filled drawing pen, and the drawn pictures disappear when the water dries. To mark the occasion of the 20th anniversary of the first release of Aqua Doodle, a new pen of ergonomically sleek design to guide the user to a proper pen-holding position was adopted.

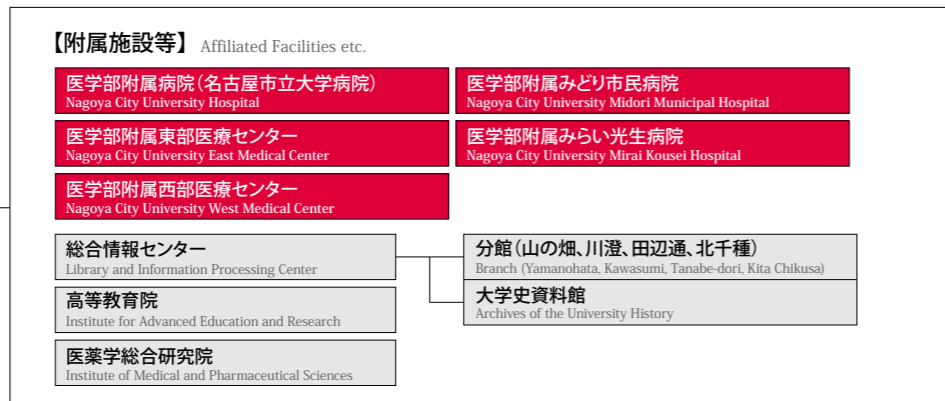
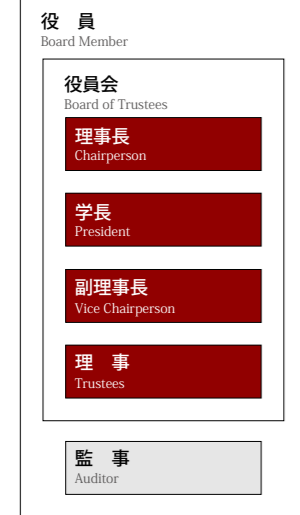
Design

[Japan] Design Registration No. 1674305 (D1674305), etc., registered in Japan and internationally

組織

Organization Chart

令和5年4月1日現在
As of April 1, 2023



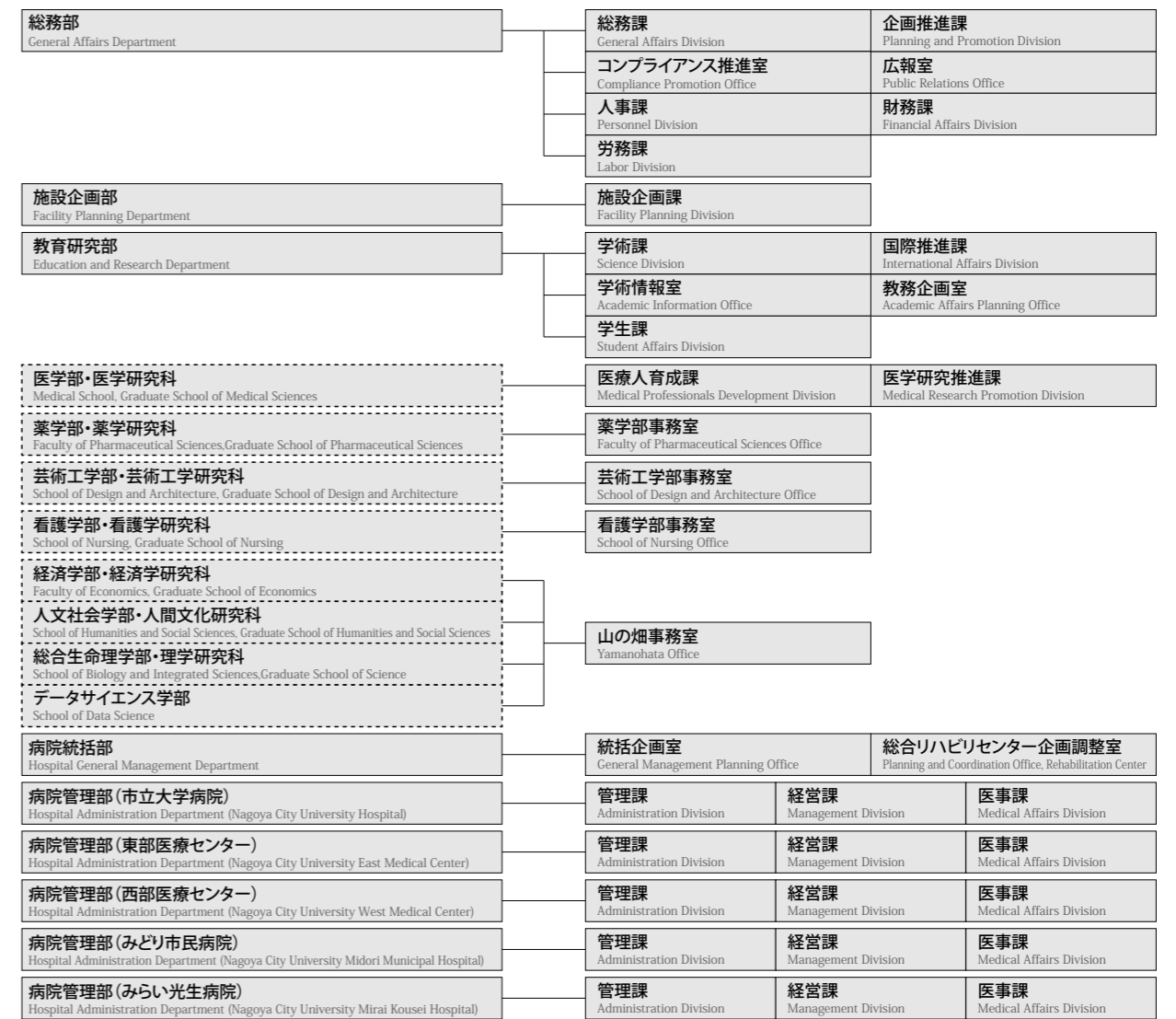
【その他の附属施設等】 Other Affiliated Facilities etc.

ダイバーシティ推進センター Center for Diversity, Equity, and Inclusion	産学官共創イノベーションセンター Center for Creative Collaboration of Industry-Academia-Government	都市政策研究センター Center for Urban Policy Research and Education
共用機器センター Research Equipment Sharing Center	キャリア支援センター Career Support Center	医療心理センター Medical Psychology Center
全学実験動物センター All-Campus Experimental Animal Center	保健管理センター Health Center	SDGsセンター SDGs Center
社会連携センター Social Relations Center	国際交流センター International Exchange Center	なごや学研究センター Nagoya Studies Research Center

【附属研究所等】 Affiliated Research Institutes etc.



【事務組織】 Office Organization ※病院内の組織を除く ※Excluding the organization of hospitals



■理事長
郡 健二郎
 Chairperson
 KOHRI Kenjiro

■副理事長・学長
浅井 清文
 Vice Chairperson, President
 ASAI Kiyofumi

■副理事長・事務局長(中期計画・SDG s)
鈴木 峰生
 Vice Chairperson, Director of Administration Office (Medium-Term Plans/ SDGs)
 SUZUKI Mineo

学長補佐(社会貢献)
山本 明代(人間文化研究科教授)
 Assistant to President (Social Contribution)
 YAMAMOTO Akiyo
 (Professor, Graduate School of Humanities and Social Sciences)

学長補佐(ダイバーシティ・ワークライフバランス・中期計画)
窪田 泰江(看護学研究科教授)
 Assistant to President (Diversity/ Work-life Balance/ Medium-Term Plans)
 KUBOTA Yasue
 (Professor, Graduate School of Nursing)

■理事・副学長(研究)
今泉 祐治
 Trustee, Vice President (Research)
 IMAIZUMI Yuji

学長補佐(研究力強化)
頭金 正博(薬学研究科教授)
 Assistant to President (Research Enhancement)
 TOHKIN Masahiro
 (Professor, Graduate School of Pharmaceutical Sciences)

学長補佐(臨床研究)
松川 則之(医学研究科教授)
 Assistant to President (Clinical Research)
 MATSUKAWA Noriyuki
 (Professor, Graduate School of Medical Sciences)

学長補佐(産学官イノベーション)
鵜飼 宏成(経済学研究科教授)
 Assistant to President (Industry-Academia-Government Innovation)
 UKAI Hironari
 (Professor, Graduate School of Economics)

■理事・副学長(教育)
伊藤 恭彦(人間文化研究科教授)
 Trustee, Vice President (Education)
 ITO Yasuhiko
 (Professor, Graduate School of Humanities and Social Sciences)

学長補佐(入試・高大接続・学生)
森田 雄一(経済学研究科教授)
 Assistant to President (Entrance Examination/ High School-University Articulation Reforms/ Student)
 MORITA Yuichi
 (Professor, Graduate School of Economics)

学長補佐(リハビリ学科・リハセン)
森田 明理(医学研究科教授)
 Assistant to President (Department of Rehabilitation/ Rehabilitation Center)
 MORITA Akimichi
 (Professor, Graduate School of Medical Sciences)

■理事・副学長(経営)
吉田 和生(経済学研究科教授)
 Trustee, Vice President (Management)
 YOSHIDA Kazuo
 (Dean and Professor, Graduate School of Economics)

学長補佐(キャンパス整備)
鈴木 賢一
 Assistant to President (Campus maintenance)
 SUZUKI Kenichi

学長補佐(DX・中期計画)
片岡 洋望(医学研究科教授)
 Assistant to President (DX/ Medium-Term Plans)
 KATAOKA Hiromi
 (Professor, Graduate School of Medical Sciences)

学長補佐(広報・後援会・交流会)
飛田 秀樹(医学研究科教授)
 Assistant to President (Public Relations/ Benefactor's Association/ Exchange Association)
 HIDA Hideki
 (Professor, Graduate School of Medical Sciences)

副学長(国際・中期計画)
横山 清子(データサイエンス学部教授)
 Vice President (International Affairs/ Medium-Term Plans)
 YOKOYAMA Kiyoko
 (Professor, School of Data Science)

副学長(高等教育院・キャリア支援)
高石 鉄雄(理学研究科教授・高等教育院長)
 Vice President (Institute for Advanced Education and Research/ Career Support)
 TAKAISHI Tetsuo
 (Professor, Graduate School of Sciences • Director, Institute for Advanced Education and Research)

■理事(市大病院)・附属病院長
間瀬 光人(医学研究科教授)
 Trustee (Nagoya City University Hospital), Director of University Hospital
 MASE Mitsuhiro
 (Professor, Graduate School of Medical Sciences)

■理事(東部医療センター)・附属東部医療センター病院長
大手 信之
 Trustee (East Medical Center),
 Director of Nagoya City University East Medical Center
 OHTE Nobuyuki

■理事(西部医療センター)・附属西部医療センター病院長
大原 弘隆(医学研究科教授)
 Trustee (West Medical Center),
 Director of Nagoya City University West Medical Center
 OHARA Hirotaka (Professor, Graduate School of Medical Sciences)

●理事(財務)
加藤 博(非常勤)
 Trustee (Financial Affairs)
 KATO Hiroshi (Part-time Trustee)

●理事(知財活用連携)
佐々木 剛史(非常勤)
 Trustee (Intellectual Property Use Cooperation)
 SASAKI Takeshi (Part-time Trustee)

●監事
前田 篤(非常勤)
 Auditor
 MAEDA Atsushi (Part-time Auditor)

●監事
竹内 裕美(非常勤)
 Auditor
 TAKEUCHI Yumi (Part-time Auditor)

●学長特別補佐
福島 哉史
 Special Assistant to President
 FUKUSHIMA Chikashi

●部局長 Departmental Heads

医学研究科長(医学部長)
高橋 智
 Dean, Graduate School of Medical Sciences (Dean, Medical School)
 TAKAHASHI Satoru

薬学研究科長(薬学部長)
中川 秀彦
 Dean, Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Dean, Faculty of Pharmaceutical Sciences)
 NAKAGAWA Hidehiko

経済学研究科長(経済学部長)
中山 徳良
 Dean, Graduate School of Economics (Dean, Faculty of Economics)
 NAKAYAMA Noriyoshi

人間文化研究科長(人文社会学部長)
野中 壽子
 Dean, Graduate School of Humanities and Social Sciences (Dean, School of Humanities and Social Sciences)
 NONAKA Hisako

芸術工学研究科長(芸術工学部長)
青木 孝義
 Dean, Graduate School of Design and Architecture (Dean, School of Design and Architecture)
 AOKI Takayoshi

看護学研究科長(看護学部長)
明石 恵子
 Dean, Graduate School of Nursing (Dean, School of Nursing)
 AKASHI Keiko

理学研究科長(総合生命理学部長)
河田 成人
 Dean, Graduate School of Science (Dean, School of Biology and Integrated Sciences)
 KAWATA Shigetomo

データサイエンス学部長
三澤 哲也
 Dean, School of Data Science
 MISAWA Tetsuya

総合情報センター長
湯川 泰
 Director, Library and Information Processing Center
 YUKAWA Yasushi

高等教育院長
高石 鉄雄
 Director, Institute for Advanced Education and Research (Dean, School of Design and Architecture)
 TAKAISHI Tetsuo

医学部附属病院長
間瀬 光人
 Director of Nagoya City University Hospital
 MASE Mitsuhiro

医学部附属東部医療センター病院長
大手 信之
 Director of Nagoya City University East Medical Center
 OHTE Nobuyuki

医学部附属西部医療センター病院長
大原 弘隆
 Director of Nagoya City University West Medical Center
 OHARA Hirotaka

医学部附属みどり市民病院長
浅野 実樹
 Director of Nagoya City University Midori Municipal Hospital
 ASANO Miki

医学部附属みらい光生病院長
妹尾 恭司
 Director of Nagoya City University Mirai Kousei Hospital
 SENOO Kyoji



医学部

深い医学知識と技術を通じた人類への貢献

医学部は、昭和18年に設置された名古屋市立女子高等医学専門学校を起源としており、その後2回の変遷を経て、昭和25年に現在の名古屋市立大学医学部となったものです。医学部の教育は、6年間にわたっており、教養教育と専門教育を一貫して行っています。専門教育では、基礎医学、臨床基礎医学、社会医学、臨床医学の全科目が必修となっており、学生は幅広い医学全般を学ぶことができます。また、医学部附属病院において、すべての診療科で臨床実習を受けます。昭和18年の創立以降、数多くの卒業生が医療、研究、医療行政の各分野の第一線で活躍しています。



Medical School

Contributing Profound Medical Knowledge and Ability to People

The Medical School has its origin in Nagoya Municipal Women's Higher Medical School established in 1943. Since its foundation, the Medical School had come through changes twice before it took the present form in 1950. Education at the Medical School has spanned six years with consistent provision of liberal arts education and professional education. In professional education, the students need to master all subjects, such as basic medicine, basic clinical medicine, social medicine and clinical medicine, and to complete a broad range of medical sciences in general. Also, at the University Hospital, affiliated to the Medical School, the medical students go through clinical training as student doctors in all departments of diagnosis and treatment.

Since the establishment in 1943, a large number of students who have graduated from the Medical School are playing active roles in the front lines of medical practices, researches and administrations.



学科概要／カリキュラムの特色

医学科

医学部では、指定された科目の履修をすれば卒業できるという従来のプロセス基盤型カリキュラムではなく、卒業時点で身につけているべき能力を教育成果(outcome competences)として定め、その達成を保証する教育成果基盤型カリキュラムを採用しています。また、教育成果を着実に達成するために、4領域に分けられた能力を、各学年で巡回しつつ徐々に到達目標に近づける構造のカリキュラム(6年一貫スパイラル方式)を実施しています。

■ 本学医学部教育の到達目標

本学は、医学部学生が卒業時に身につけているべき能力を、4領域17項目にまとめて提示しています。当学部のカリキュラムでは、これらの4領域を各学年で学習し、4領域の能力を到達目標に向かってバランスよく向上させることができます。

■ 卒業時に習得しているべき能力の4領域

- 【領域Ⅰ】 科学者としての医師
- 【領域Ⅱ】 臨床家としての医師
- 【領域Ⅲ】 社会における医師
- 【領域Ⅳ】 プロフェッショナルとしての医師

■ 医学部 専門教育

社会性・倫理性・創造性を兼ね備えた医師・医学研究者を育成しています。

医学は人の健康を守ることを通じ、人類と社会の福祉に貢献する分野であり、高度な科学・技術・倫理が求められます。医学部では、人の構造や機能の異常に基づく各種疾病、およびそれらと社会環境、生活習慣との関連に関する知識、適切な予防・治療・ケアを行うための技能、社会の中でそれらを適切に活用するための倫理を習得します。また、医学・医療のさまざまな課題を解決し、医学の発展に貢献しうる科学者としての能力を養います。



Outline of the Department / Features of the Curriculum

Department of Medical School

The department provides outcome competency-based education(OBE), instead of conventional course-based education that requires only the acquisition of requisite school credits. In OBE, the curriculum is composed to warrant the achievement of predetermined requisite competences that all medical students have to master at their graduation. To further confirm the achievement, the department has employed an outcome competency-based spiral curriculum, in which the students at each grade approach the goal in a steady manner by rounding all of the four competency areas listed below (Competency areas I - IV).

■ Educational Outcome of the NCU Medical School

NCU presents the outcome competencies of medical education in 17 items grouped in the following four competency areas. At each grade, the students gradually acquire the competencies in all of these four areas in a well-balanced manner so that they can steadily satisfy and complete the requirements by their graduation.

■ Four Areas of Outcome Competencies of the Medical Education in NCU

- [Area I] Doctor as a Scientist
- [Area II] Doctor as a Clinician
- [Area III] Doctor in the Communities
- [Area IV] Doctor as a Professional

■ Professional Education of the Medical School

The Medical School aims to prepare medical doctors and medical scientists to possess excellence, humanism, accountability, and altruism. Since the ultimate goal of medicine is health enhancement and social welfare, it requires the highest level of humanism and ethics based on advanced health sciences and technologies. The students of the Medical School acquire the knowledge about various diseases according to the structural and functional abnormalities of humans and their relationships with patients' natural and social environment and lifestyle, the ability to provide appropriate preventive treatment and care, and the ethics in making appropriate use of such ability in the society. Also, the students enhance their ability to solve various medical problems and thereby contribute as scientists to the development of basic and clinical medical sciences.



薬学部

知を探究した創薬と、医療への貢献を目指して

薬学部は、明治17年に設立された名古屋薬学校に始まり、創立130年を超える歴史を有し、常にこの地域における薬学研究の中心的な存在として発展してきました。薬学は医療に不可欠な学問分野の一つであり、薬学部は、医薬品の適正管理・適正使用および開発研究のための基礎を幅広く身に付けた人材を社会に送り出すことを目的としています。

平成18年度から4年制課程の薬学科と製薬学科を改組し、薬剤師の養成を主な目的とする6年制の薬学科と研究・技術者養成を主な目的とする4年制の生命薬科学科を設置しました。

両学科の教育課程はともに、講義、実習、卒業研究を通じて体系的かつ実践的に専門能力を身に付けることができるようになってきました。また、大学院に進学し、さらに高度な創薬生命科学または医療機能薬学を身に付けた上で、医薬品の開発研究者や高度医療に貢献する薬剤師としての活躍が期待されます。



学科概要／カリキュラムの特色

薬学科

医薬品と薬物療法に関わる医療科学を総合的に学び、薬剤師国家試験の受験資格を得ることができます。薬剤師をはじめ、医療に関わる種々の分野に貢献できる人材を育成することを目的とした6年間の教育課程です。

生命薬科学科

創薬生命科学の基礎から先端にいたる幅広い知識を学びます。それを基盤にした医薬品の開発研究者をはじめ、生命科学と医療の発展に貢献できる人材を育成することを目的とした4年間の教育課程です。



Faculty of Pharmaceutical Sciences

Aiming for Drug Discovery Through Exploring Knowledge and Contribution to Medical Care

NCU's Faculty of Pharmaceutical Sciences has a history of over 130 years since it was established in 1884 as Nagoya School of Pharmacy. Since its foundation, this faculty has played a central, consistent role in the field of pharmaceutical research in this region.

As pharmaceutical science is a discipline essential to medical care, the Faculty of Pharmaceutical Sciences intends to train students to master the general principles of proper management, utilization, research and development of new drugs, and contribute to societal needs.

In the academic year 2006, this Faculty reorganized the four-year Department of Pharmacy and Department of Pharmaceutics into the following: (1) the six-year Department of Pharmacy mainly to nurture pharmacists, and (2) the four-year Department of Pharmaceutical and Life Sciences mainly to nurture pharmaceutical researchers and engineers.

The curriculum of each department allows the students to acquire professional ability systematically and practically through lectures, practical training, and graduation research. The students are expected to go on to the Graduate School of Pharmaceutical Sciences to acquire further study in advanced drug development and life science or medical care functional pharmaceutical science, and play an active role as researchers and developers of new drugs or pharmacists contributing to advanced medical treatment.



Outline of the Departments / Features of the Curriculum

Department of Pharmacy

The students study medical science related to drugs and medication in a comprehensive manner, and obtain qualification for the national examination for pharmacists. This six-year curriculum aims at preparing the students for being pharmacists and other pharmaceutical personnel who can contribute to various fields related to medical care.

Department of Pharmaceutical and Life Sciences

The students acquire an extensive knowledge of new drug development and life science ranging from the basic knowledge to advanced knowledge. Based on such broad knowledge, this four-year curriculum aims at cultivating students to be researchers and developers of new drugs for contribution to the development of life science and medical care.





経済学部

地域の経済・経営を支える人材の育成

経済学部は、地元経済界の熱い期待を受け、昭和39年に設置されました。平成26年度には50周年を迎え、平成30年3月に卒業生が1万人を超えました。本学部は公共政策学科、マネジメントシステム学科、会計ファイナンス学科の3学科で構成されています。

特徴は地域の経済・経営の諸問題に対応できる人材を育成するためのカリキュラム構成となっていることです。学生は1年次より入門科目を中心とする専門科目を履修することができ、2年次からは各学科に所属し、それぞれの学科の基礎的な科目を学びます。3年次と4年次にはより専門的で多様な応用科目を履修することになります。地域の官公庁や企業の実務家による科目も履修可能です。また、1年次からの演習を通じた少人数教育も特徴の1つです。特に3年次と4年次の「ゼミ」と呼ばれる演習では、各自の課題に主体的に取り組んでいます。さらに、公認会計士、税理士、ファイナンシャルプランナー、公務員などの資格取得を積極的に推進する体制も整っています。

卒業生は、公務員、金融業、製造業、サービス業などの分野で、この地域を担う人材として大いに活躍し、経済学部の名声を一層高めています。



学科概要／カリキュラムの特色

公共政策学科

「経済学」を学ぶ学科です。経済学を学ぶことで、経済主体（家計・企業・政府）の行動原理を理解し、それを踏まえて国や地方自治体の政策を分析・評価することができます。そのために、経済学の基礎とその応用分野を体系的に学べるカリキュラムを用意しています。そして、経済主体の行動を考えて議論するというトレーニングを行うことによって、国や地方自治体で政策立案を担える、あるいは企業で経営企画を担える人材の育成を目指しています。

マネジメントシステム学科

様々な組織のマネジメントの仕組みについて、経営学および制度・歴史の2つの視点から学ぶ学科です。経営学分野では、組織の編成、新事業創造、マーケティング戦略の構築、人的資源に関するマネジメントの仕組みなどが学べるカリキュラムが用意されています。また、制度・歴史分野では、企業とそれを取り巻く地域社会、国家、国際社会の仕組みについて制度的・歴史的な視点から学べるカリキュラムとなっています。そして、社会や経済の制度・歴史に精通し、企業の経営をより深く理解できる人材の育成を目指しています。

会計ファイナンス学科

企業の活動を資金面から考える学科です。企業が行う財務的な意思決定の方法を学ぶのが「ファイナンス」であり、企業の財務的状况を企業の内外に報告するのが「会計」です。会計およびファイナンスの両領域を総合的に学ぶとともに、それらに関連する統計的・数量的方法や情報処理の科目を学べるようなカリキュラム体系となっています。そして、会計・ファイナンスに関する高度な職業人となる人材の育成を目指しています。



Faculty of Economics

Cultivation of Human Resources to Support Regional Economy and Management

In order to live up to the expectations of local businesses, NCU's Faculty of Economics was founded in 1964. With the Faculty of Economics having marked its 50th anniversary in the 2014 academic year, the number of graduates from the Faculty exceeded 10,000 in the 2017 academic year. The Faculty has three departments - the Department of Public Policy in Economics, the Department of Management Systems and the Department of Accounting and Finance.

The structure of the curriculum is unique, designed for the cultivation of human resources capable of dealing with various problems related to the economy and management of the local region. Students can take introductory courses in specialized subjects in their freshman year. From their sophomore year, they take courses in the fundamentals pertaining to the department they choose. Also in their junior and senior years, they take more professional and diversified applied subjects. They can also take subjects offered by local public officers and local business persons. Another feature of the Faculty is small-group education through exercises, which the students attend from their freshman year. Particularly in workshops called zemi "seminars" in their junior and senior years, they address their own challenges independently. Also available is a system to actively support students to acquire professional qualifications, such as certified public accountant, licensed tax accountant, financial planner and public servant.

Graduates have obtained employment in the public service, and the financial, manufacturing and service sectors. Their remarkable success in those fields as human resources supporting the local economy and management has further enhanced the reputation of the Faculty of Economics.



Outline of the Departments / Features of the Curriculum

Department of Public Policy in Economics

In this department, the students study economics. By studying economics, the students can understand the behavioral principle of economic agents (households, firms and governments), and, based on their understanding, analyze and evaluate the policies of central and local governments. In view of this, the department has established a curriculum to enable the students to systematically study the basics of economics and its applied fields. On this basis, the department trains the students for discussion considering the behavior of economic agents to enable them to propose policy for central and local governments or management planning at companies.

Department of Management Systems

Students in this department study various organizational management structures from two viewpoints, "business administration" and "institutional economics and economic history." The curriculum of the department is so designed that, in business administration, the students can study the formation of organization, the development of new business, the creation of marketing strate-

gies, and the structure of human resource management, and in the area of institutional economics and economic history, the students can study the structures of companies, local communities, nations and international society from the institutional and historical points of view. Thus, the department aims at cultivating human resources who are familiar with institutions and history of society and economy, and can achieve greater understanding of company management.

Department of Accounting and Finance

The Students in this department study company activities from the viewpoint of financing. "Finance" refers to the study of how companies should make decisions pertaining to finance, and "accounting" refers to the study of how companies should report their financial conditions internally and externally. Under the curriculum, students can comprehensively study both the areas of accounting and finance, and also the subjects of statistical and quantitative methods and information processing related to accounting and finance. The department aims at cultivating the students to be advanced professionals in accounting and finance.



人文社会学部

一人ひとりの「持続可能な生き方／あり方」を捉え直す教育

人文社会学部の教育理念は、平成25年度より国連のESD(Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)をキーワードとし、平成30年度からはESDを「自然や他者との関わりを通して地球社会および人間存在を問うとともに、私たち一人ひとりの『持続可能な生き方／あり方』を捉え直す教育」と発展させました。これに国連が提唱するSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)達成には教育が鍵と考え、SDGs 17の目標につながる諸状況を学ぶ科目群を設け、教育の中心に位置づけております。

人文社会学部では、こうしたESDの理念を実現するために、心理教育学科、現代社会学科、国際文化学科の3つの学科が協働し、個性的なプログラムを提供しています。3学科が提供する、多様な教育内容、課題志向型の学際的・複合的な教育プログラムを通して、人間や社会のあり方について深く問い直すことのできる人が育っていくことを目指しています。



学科概要／カリキュラムの特色

心理教育学科

心理教育学科では、科学の眼と温かな人間観を持ち、人の多様性を理解したうえで生涯発達支援・次世代育成に取り組む人材を養成したいと考えています。そのために、「次世代育成支援の課題を学ぶ」「課題解決能力の高い保育者を目指す」「人の心理と多様性を学ぶ」「心理支援の専門職を目指す」の4つの履修モデルのもと、心理学と教育学をベースにしたカリキュラムを展開しています。そして、平成30年度から、心理専門職の国家資格である公認心理師受験資格対応のカリキュラムとしています。

現代社会学科

現代社会学科は、複雑な現代社会の姿を深く認識し、いかにすれば持続可能な地域社会や福祉社会を創ることができるかを考えます。カリキュラムは、社会学を一つの柱としながら、政治学、法学、社会福祉学、歴史学などによって現代社会を多角的に認識し、調査分析するスキルを身につけ、さらには社会をデザインする能力が形成されるよう組み立てられています。

国際文化学科

国際文化学科では、語学学習のみに留まらず、自文化と異文化を理解し、それらを比較する視点から異文化間の交流と共生について考えていくための幅広いカリキュラムが用意されています。自らの文化への深い理解をもつことで、「異文化」への開かれた心を養い、異文化間コミュニケーションを実り豊かなものにする人材の育成を目指しています。



School of Humanities and Social Sciences

Education for Reviewing Individual Sustainable Lifestyle and Ideals

In the academic year 2013, the educational philosophy of the School of Humanities and Social Sciences adopted the United Nation's Education for Sustainable Development (ESD) as a key phrase, and since the academic year 2018, NCU has promoted ESD as "education for inquiring into global society and human existence through our association with nature and others, and reviewing our individual sustainable lifestyle and ideals." We also believe that education is the key to achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) advocated by the United Nations, and have established a group of subjects to study the various circumstances leading to the 17 SDGs, which we position at the core of our education.

In the School of Humanities and Social Sciences, three departments--the Department of Psychology and Education, Department of Social Studies, and Department of Intercultural Studies--cooperate in providing unique programs with the goal of realizing the philosophy of ESD. Through the diversified educational content and assignment-oriented interdisciplinary and multiple educational programs that these three departments provide, the school aims to develop individuals capable of deeply re-evaluating the nature of humanity and society.



Outline of the Departments / Features of the Curriculum

Department of Psychology and Education

The Department of Psychology and Education endeavors to foster human resources with a scientific view and a warm outlook on people, and an understanding of human diversity, to engage in lifelong development support and nurturing the next generation. For this purpose, the department is providing a curriculum based on psychology and the study of education with the four curriculum models of "learning the issues in nurturing the next-generation," "aiming to be a childcare provider who has a high ability to solve issues," "learning human psychology and diversity," and "aiming to be a specialist in psychological support." As of the academic year 2018, the department has adjusted the curriculum to meet the requirements of the Licensed Psychologist examination, a national qualification for psychological specialists.

Department of Social Studies

The Department of Social Studies is dedicated to fostering individuals who can deeply recognize the complexity of

modern society and provide for the welfare of all its citizens. Its curriculum, centering on sociology, is structured so that the students can develop their ability to analyze modern society from various perspectives. By studying politics, law, social welfare and history, they will acquire the skills to survey and analyze contemporary society and to develop the ability to design a better society.

Department of Intercultural Studies

The Department of Intercultural Studies provides a broad curriculum in order for its students to learn foreign languages as well as engage in cultural exchange and mutual understanding of different cultures from a comparative point of view. This is predicated on the belief that students can cultivate their minds to be open to "foreign cultures" through having an interest in and understanding of their own culture. The department aims to raise the knowledge and skills of students in order to enrich cross-cultural communication.



芸術工学部

技術、感性、人間理解を備えた総合デザイナーの育成

芸術工学部は、デザインと工学の学際領域を対象とし、技術・感性・人間理解を備えた有用な設計者＝総合デザイナーの育成を目指す学部として、平成8年4月に開設されました。情報環境デザイン学科(30名)、産業イノベーションデザイン学科(30名)、建築都市デザイン学科(40名)の3学科で構成されています。学際的な知識を身につけ、理論と実践をバランス良く学ぶことができるカリキュラム構成として、学部共通科目を充実させています。また課題に対する問題解決策を作品として具現化し、発表を行う芸術工学実習の指導を少人数教育で行うなど、教育に力を入れていることが特徴です。教育・研究用として3Dプリンターやモーションキャプチャ、3Dスキャナなどの最新機器が整備され、また、3DCG、映像、音響等の制作環境も大変恵まれたものとなっています。病院内の装飾や福祉施設の壁画制作、地域イベントのポスター制作、NAGOYAアカリナイトのアカリコンテストにおけるランプシェードの制作など、学生が大学で学んだ知識やデザイン力を活用した社会貢献活動を行っていることも芸術工学部の特徴の一つです。



学科概要／カリキュラムの特色

情報環境デザイン学科

人と情報空間をつなぐインターフェース設計、映像や音響による情報デザインを対象とするデザイン理論と技術およびメディア表現に関する学科です。情報通信技術の基礎から応用、インターフェースデザインや映像・音響デザインの理論と制作実践を学びます。先端のインターフェース機器やソフトウェア、Webアプリケーションやネットワークプログラムの設計・開発、映像制作ができる人材の育成を目標としています。

産業イノベーションデザイン学科

産業イノベーション学科では、主に1、2年次に表現力や造形力など、自分の考えや感情を表現する力と、物理学、心理学など、自然現象や心の内面を科学的にとらえる学問を学びます。3、4年次では、これらの理論や技術を横断的に連携させたプログラムをとおして、芸術工学としてデザインや情報工学に実践的に応用する人材の育成を目標としています。

建築都市デザイン学科

市民が安心して豊かに暮らすことのできる建築都市を対象とするデザイン理論と技術を学びます。意匠・計画、構造・材料、環境・設備、都市・地域の基礎から応用、インテリアデザイン、都市景観、防災、環境マネジメントの理論と制作実践を学びます。住宅・店舗や公共施設などの建築設計から、都市デザインの防災安全、環境保全、街並保存など建築都市デザインに関わる専門性や能力を持つ人材の育成を目標としています。



School of Design and Architecture

Cultivating Students to Be All-Round Designers Possessing Designing Techniques and Sensitivity and Ability of Human Understanding

The School of Design and Architecture was established in April 1996 as an institution for training designers in multidisciplinary design and architecture (i.e., competent designers, possessing designing techniques, sensitivity and ability of human understanding). The school has three departments, namely, Department of Informatics and Media Design (quota: 30), Industrial Innovation Design (quota: 30), and Department of Architecture and Urban Design (quota: 40). The school features a curriculum structure that allows students to acquire interdisciplinary knowledge and study both theory and practice in a balanced manner. To achieve this purpose, students are exposed to substantial subjects, including practical training in design and architecture carried out in small classes so that the students can embody their visions and ideas in pieces of work and presents them. For use in education and research, the school is equipped with up-to-date facilities, such as 3D printer, motion captures and 3D scanners. Its production environment is well-endowed in terms of 3D computer graphics, visual, audio and other equipment. Another feature of the school is that the students are engaged in social action programs by utilizing the knowledge and designing capability they have acquired, such as decorating hospital interior, painting walls in welfare facilities, producing posters for local events, producing lampshades for Nagoya "Akari" Night illumination contest, and others.



Outline of the Departments / Features of the Curriculum

Department of Informatics and Media Design

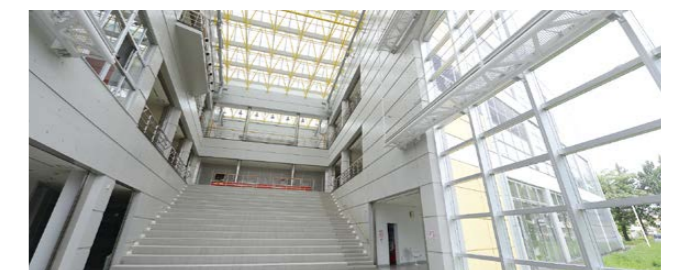
This department relates to the design theories, skills and creation for the interface design which connects the human body/sense to information space, and for the digital design of images and sounds. Subjects cover information and communication technology (ICT) from the primary studies to the application, as well as the theory and practice of interface design or audio-visual design. The department aims to nurture competent designers who can create and develop sophisticated interfaces, software, Web application and network systems, as well as various types of visual images.

Department of Industrial Innovation Design

In the Department of Industrial Innovation Design, students acquire expressiveness and form-giving, i.e., power to express their own ideas and sentiments, and knowledge needed to scientifically understand natural phenomena and the inner world of emotion, such as physics and psychology, mainly in the freshman and sophomore years. In the junior and senior years, the department aims to cultivate students capable of applying these theories and skills to design and information engineering through a cross-sectionally linked program as a means of design and architecture.

Department of Architecture and Urban Design

The students in this department study theories and techniques applied to well-designed cities where the citizens can live in a secure and affluent environment. Subjects cover architectural design and planning, structures and materials, environment and facilities, and cities and regions from the primary studies to the application, as well as the theory and practice of interior design, landscape design, disaster prevention and environmental management. The department aims to nurture competent specialists of architectural and urban design for residential and commercial store buildings, disaster prevention, environmental conservation and landscape conservation.





看護学部

人間の尊厳を理解し、看護を通じて保健・医療・福祉に貢献

看護学部は、名古屋市立大学の第6番目の学部として平成11年に開設されました。その母体は昭和6年までさかのぼることができるほど歴史と伝統のある学部でもあります。

看護学は、人間の健康に深く関わる学問であり、発達段階や生活の場をふまえて、一人ひとりがその人らしく生きることを支援する実践の科学です。また、医療の高度化や専門分化、チーム医療の推進、人々の健康に対する関心の高まりなどによって、看護師にはより高度な知識や判断力が求められています。

このような背景のもと、看護学部では、人間の尊厳を理解し、看護を通じて保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成を目指しています。なお、かつては全員に看護師教育と保健師教育を行ってきましたが、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、平成24年度入学生からは保健師教育を選択制としています。さらに、令和5年度からは名古屋市立中央看護専門学校と統合し、入学定員は80名から120名へと増員となり、葵校舎でも授業を実施しています。



学科概要 / カリキュラムの特色

看護学科

看護学部のカリキュラムは教養教育科目、専門基礎科目、専門科目で構成されています。

教養教育科目は一般教養科目、外国語科目、情報科目などであり、総合大学の利点を生かして幅広く開講されています。また、医療人に必要な基本的能力の修得を目的として、入学直後から医学部・薬学部・看護学部の学生が共に学ぶ医薬看護連携地域参加型学習が開講されています。

専門基礎科目は看護を実践するための基本的な知識を学ぶ科目です。人間の身体的・心理的・社会的特徴、疾病とその治療方法、健康と社会に関する科目が開講されています。

専門科目は看護の理論を理解し、看護実践能力を修得するための科目です。看護学の基礎となる理論と技術、人間の発達や健康問題の特徴、生活や療養の場に応じた看護、看護や保健医療のシステムなどを学ぶ科目が開講されています。また、それらを実践に即して学ぶために名古屋市立大学病院を始めとする病院や保健所、介護施設などにおける十分な臨地実習が用意されています。



School of Nursing

Nurturing Human Resources Who Can Understand Human Dignity and Help People in Health Preservation, Medical Care and Welfare Through Nursing Activities

The School of Nursing was established in 1999 as the 6th school of Nagoya City University. However, the School of Nursing has a long history and tradition; its origin as a teaching institution dates back to 1931.

Nursing is one of the sciences which is deeply concerned with human health. It is a practical science which aims to support human life in consideration of each patient's life stage and living environment. Every nurse is required to possess advanced knowledge and a sophisticated sense of response to and specialization in medical care, working as a member of a medical team and promoting people's interest in health.

Thus the School of Nursing intends to train and nurture medical personnel who can understand human dignity and contribute to health promotion, medical care and welfare through their nursing activities. Compulsory education in all fields of nursing has been provided to the students enrolled before 2011. The public health nursing is currently taught as an elective. From April 2023, we have integrated with Nagoya City Central School of Nursing. The quota for admission will increase from 80 to 120 and hold classes at Aoi School Building as well.



Outline of the Department / Features of the Curriculum

Department of Nursing

The curriculum of the School of Nursing is made up of liberal arts education subjects, basic special subjects and specialized subjects.

The liberal arts education subjects include general culture subjects, foreign language subjects and information subjects. Utilizing the advantages of being a comprehensive university, a wide variety of liberal arts classes are open to this department. In addition, in order for the students to acquire the basic ability necessary for medical personnel, Inter-professional Health Care is available in conjunction with the students of the Medical School and Faculty of Pharmaceutical Sciences immediately after their enrollment.

The basic specialized subjects offer basic knowledge for practical nursing care. Subjects are taken regarding physiological, psychological and social aspects of human diseases, treatment.

The specialized subjects allow students to gain an understanding of nursing theory and acquire practical nursing skills. Subjects include basic nursing science theories and

techniques, characteristics of human development and health problems, nursing according to specific lifestyle and treatment environments, and nursing systems and health promotion and medical care. Ample opportunity for practical training at hospitals, including Nagoya City University Hospital, healthcare centers and Long-Term Care Health Facilities for hands-on learning is also offered as part of the course.





総合生命理学部

理学を総合的に学び、次世代につなげる

総合生命理学部は、名古屋市立大学の第7番目の学部として平成30年に開設されました。宇宙・自然の基本原理を探求する理学は、科学技術の理論的支柱であり、医学、薬学、工学、農学などの応用科学とともに人類社会の発展に重要な役割を果たしてきました。昨今、社会の変革のスピードは我々の予想を超え、さらに複雑化し、かつ高度化しています。これからの理学教育では、科学技術文明の発展・向上に貢献するための高度な専門性に加え、生命科学、物質科学、数理情報科学をバランスよく学修し、全体を俯瞰できる能力を身に付けることがとても重要になります。

本学部では、生命科学を中心として理学の基礎を広く学修した上で特定の専門分野の学修・研究を行い、既存の学問領域の枠を超えて広い見地と専門的知見に裏付けされた総合力を養います。さらに論理性と協調性をもって柔軟な思考のもとで課題解決に取り組める人材の育成を目指しています。

そうした人材は将来的に、イノベーションの創出、グローバルな視点に立脚した地域発展、そして次世代の理系教育などに中心的に携わっていくことができます。また、卒業後には大学院理学研究科への進学の間も開けています。



学科概要／カリキュラムの特色

総合生命理学部は、総合生命理学科の1学科構成によって理学の広い知見を養うカリキュラムを提供します。1年次では、自然科学実験や情報処理基礎を含む教養教育科目を履修するとともに、専門基礎科目として総合理学実験入門、総合理学概論を必修科目として履修します。また、充実した初年次教育を通して学生としての自覚を芽生えさせます。2年次からは専門教育が本格的にスタートします。基礎科目から専門科目への履修を円滑に進めるために「生命情報コース」と「自然情報コース」の2つのコースを設定しています。

3年次前期には、配属研究室選びの参考とするため、各研究室をめぐる総合理学実習が設定されています。そして3年次後期から各研究室に配属され、1年半をかけて卒業研究を行います。

生命科学を軸に理学全体を俯瞰する学部教育

Undergraduate Education Overviewing the Entirety of Science Centered on Life Science



生命情報コース

生命科学・物質科学・数理情報科学を含む理学の基礎を学んだ上で生命科学を専門的に学び、研究者や技術者、教員など、理学の広い知見を持って生命科学分野で活躍できる人材を養成するコースです。

自然情報コース

生命科学・物質科学・数理情報科学を含む理学の基礎を学んだ上で物質科学または数理情報科学を専門的に学び、基礎的な生命科学に通じていることを強みとして、理学の広い知見を持って物質科学分野または数理情報科学分野で活躍できる人材を養成します。

School of Biology and Integrated Sciences

Comprehensively Studying Science, and Cultivating the Next Generation

The School of Biology and Integrated Sciences was established as the seventh school of NCU in 2018 to study basic science. Basic science elucidates the fundamental principles of the cosmos and nature, and is the foundation of technology. Basic science has played important roles in the development of human society in tandem with applied sciences, such as medical science, pharmaceutical science, engineering and agriculture.

In today's rapidly transforming world, it is critical for students of basic science to study a balance of life science, materials science, mathematics, and information sciences. This broad training provides a big picture view that, when coupled with focused specialization in a specific field, empowers students to make strong contributions to scientific and technical progress.

In this school, students first study the broad foundations of basic science related to life science. They then progress to study of specific specialized domains and develop deep understanding, supported by a range of viewpoints and knowledge from across academic disciplines. In addition, the school aims to cultivate human resources capable of problem solving based on flexible thinking, sound logic and a cooperative spirit.

In the future, these human resources will play a central role in such areas as the creation of innovation, regional development from a global perspective, and the science-related education of the next generation. After graduation, graduates can opt to proceed to the Graduate School of Science.



Outline of the Department / Features of the Curriculum

The School of Biology and Integrated Sciences provides a single-discipline curriculum that allows students to build a broad knowledge of basic science. In the first year, students take liberal arts education subjects, including natural science experiments and elementary information processing, and, at the same time, take specialized basic subjects, including an introduction to comprehensive basic science experiments and an overview of comprehensive basic science. Through the substantial first-year education, students develop academic self-awareness. Full-scale specialized education starts from the second year. To assist students in making a smooth transition from basic subjects to specialized subjects, the school provides two courses: the Biological Science Course and the Mathematical and Material Science Course.

In the first semester of the third year, students gain practical training in comprehensive basic science through visits to a series of laboratories: these visits also inform student laboratory selections. Students join their chosen lab in the second semester of their third year: there they conduct undergraduate research over a period of a year and a half.

Biological Science Course

In this course, students learn the basics of science, including life science, materials science, mathematics, and information sciences, and then undertake the specialized study of life science. Thus, this course produces researchers, engineers, teachers, etc. who can actively participate in the life science field with their wide perspective of science.

Mathematical and Material Science Course

In this course, students learn the basics of science, including life science, materials science, mathematics, and information sciences, and then undertake the specialized study of either materials science or mathematics and information sciences. This course aims to cultivate human resources who can actively take part in material science or mathematics and information sciences fields with the advantage of familiarity with life science and an extensive knowledge of mathematical and material sciences.



データサイエンス学部

実践的なデータサイエンス活用能力を備えた人材を社会へ

データサイエンス学部は名古屋市立大学の第8番目の学部として令和5年に開設されました。

Society5.0の実現が求められる中、AIなどの情報科学や統計学などの知識・技術を活用して大量のデータから新たな知見を導き出す学問である「データサイエンス」の必要性が高まっています。IT、ビジネス、医療など社会における情報技術及びデータ活用に関する様々な事象や課題に興味と関心を持ち、統計学、数学及び情報工学の体系的な知識と技術、さらには経済学の基礎知識を応用して社会に存在する膨大なデータを収集、管理、分析することで、事象を客観的に実証分析し、社会課題の解決策の立案に実践的に取り組める能力を習得した人材の養成を目指しています。

学部の特色としては、1)データサイエンスの基礎分野およびIT、ビジネス、医療系という3つのデータサイエンス活用分野に専任教員がバランスよく配置されており、データを基盤に各教員の専門分野を活かしながら多彩なデータサイエンス教育・研究・学内・外連携が展開できること、2)実務家にもご協力いただく課題解決型演習を通じてデータサイエンスの実践力養成に力を入れること、3)名市大の全学的なデータサイエンス教育にも貢献していくことが挙げられます。

データサイエンスの教育、研究、学内・学外との連携を通じた共創の拠点として本学部を位置づけ、社会や学術分野に貢献することを目指しています。



学科概要／カリキュラムの特色

データサイエンス学科

データサイエンス学部のカリキュラムは、多種多様なデータを収集・分析・活用するために基礎となる科目の履修とともに、データ活用の実践的能力や世の中の多様な社会的課題を解決する力を習得するために、年次進行に合わせた演習科目を設定しています。また、IT、ビジネス、医療の3つの履修モデルを設定しており、将来高度情報技術者として情報系分野で活躍したい人はIT分野を、経済データに興味があり経営や行政分野で活躍したい人はビジネス分野を、医療や健康福祉分野での活躍を目指す人は医療分野の履修モデルを推奨しています。

1、2年生では、データを活用するために必要な統計学、数学、情報工学、経済学の基礎理論を学習します。3年生では、より高度な理論や情報処理・解析技術を身に付けるとともに、データサイエンスの活用分野として、IT、ビジネス、医療の3分野におけるデータサイエンスの応用を学びます。

また、2、3年生では課題解決型学習(PBL演習)が開講され、履修する科目と関連付けながら、段階的にデータ活用の実践力、

課題設定や解決能力を能動的な学びの中で身に付けます。具体的な課題を自ら設定し、データからその解決につながるような新しい知見を得る能力の醸成を目指します。

こうした学びを4年生の卒業研究につなげ、データ活用の実践的能力や知識・知恵を獲得することで、デジタル化社会においてデータサイエンティストとして活躍できる人材を養成します。



School of Data Science

Providing society with human resources capable of utilizing practical data science

We established the School of Data Science in 2023 as NCU's eighth faculty department.

With growing expectations towards the realization of Society 5.0, there is increasing need for data science, the academic discipline that will apply knowledge and skills related to AI and other information sciences and statistics towards using big data to develop new perspectives. Taking interest in the various phenomena and issues concerning information technology and data utilization as it relates to IT, business, and medical care. By applying the systemic knowledge and skills of statistics, mathematics, and informatics engineering, as well as the fundamental knowledge of economics towards the gathering, management, and analysis of the massive data that exists in society, it is possible to conduct objective validation and analysis, and work towards practical proposals for resolving societal issues. We are striving to nurture the development of human resources with these skills.

The school is characterized by: (1) a well-balanced assignment of full-time faculty members in the basic field of data science as well as the three data science application fields of IT, business, and medicine to enable diverse data science education, research, and collaboration both internally and externally in a way that leverages each faculty member's area of specialty based on data; (2) a focus on cultivating practical data science skills through problem-solving exercises in cooperation with data science practitioners; and (3) contributions to university-wide data science education at NCU. The School of Data Science aims to contribute to society and academic fields by positioning itself as a center for co-creation through data science education, research, and collaboration both internally and externally.



Outline of the Department / Features of the Curriculum

Department of Data Science

The curriculum of the School of Data Science includes basic subjects for collecting, analyzing, and utilizing data, as well as practice subjects that match the progress of the year to help students acquire practical skills in data utilization and the ability to solve various social issues around the world. We provide three study models: IT, business, and medicine. Students looking to engage in the information field as advanced information engineers should choose the IT field. The business field is for those interested in economic data and that want to engage in management or business administrative. For students striving for medical or health and welfare fields, we recommend the medical field study model.

In the first and second years, students learn the basic theories of statistics, mathematics, information engineering, and economics necessary to utilize data. In the third year, students acquire more advanced theory and information processing and analysis technology, and learn the application of data science in the three fields of IT, business, and medicine as practical fields of data science. During the second and third years, problem-solving learning (PBL exercises) is conducted. Based on selected courses, students gradually acquire practical data utilization skills, problem identification, and problem-solving

skills through active learning. We aim to foster the ability for students to identify specific issues on their own and obtain new knowledge that will lead to solutions from data.

By linking this learning to the graduation research of fourth-year students, we train students to become a data scientist in a digital society by acquiring practical skills, knowledge, and wisdom related to data utilization.



大学院 医学研究科

詳細は
ウェブサイトへ



概要

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育にあたり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を養成することを目的としています。

医科学専攻(修士課程)

本学が持つ医科学の研究・教育の歴史と伝統を生かし、疾病の原因解明とその治療および予防、健康の増進、福祉の確立という健康科学の理念の下、4年制の大学教育を終えた者を対象に高度な専門教育および研究者の養成を行います。

また、基礎医学および臨床医学を統

合した医科学の専門知識と技能を持つ職業人の養成と課程修了後の博士課程進学も視野において指導します。

生体機能・構造医学専攻(博士課程)

生体機能を生み出す構造および形態の理解に重点を置いて研究を行います。

生体情報・機能制御医学専攻(博士課程)

生体の生理機能および情報処理を介した機能制御という視点から研究を行います。

生体防御・総合医学専攻(博士課程)

物質・分子という側面から生体機能を制御する機構についての研究・教育を行います。

予防・社会医学専攻(博士課程)

生体と環境・社会的要因にかかわる相互作用の破綻が障害や疾病に結びつく過程について研究を行います。



Graduate School of Medical Sciences

Outline

The Graduate School of Medical Sciences intends to produce creative medical researchers and doctors who have advanced expertise and applied skills. Towards this objective, the graduate school allows researchers in basic sciences and clinical medicine to tackle most advanced medical research.

Master's Program in Medical Sciences

Based on NCU's history and achievement in medical research and education, Master's Program provides opportunities in research training as well as advanced professional education to students who have completed a four-year undergraduate education. Our goals are identification of disease etiology, treatment and prevention of disease, health promotion, and establishment of welfare. This program is open to students who wish to be specialists with professional expertise in medical science inte-

grating basic and clinical medicine, and to students who plan to enter the doctoral program.

Doctoral Program in Structure and Function in Biomedical Sciences

Doctoral students study structure-activity relationships that regulate biological functions of living organisms.

Doctoral Program in Biosignaling and Regulation in Medical Sciences

In this doctoral program, students study biological function control via physiology and biological information processing.

Doctoral Program in Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences

Doctoral students study biological functions and their control mechanisms on constitutive substance and molecule basis.

Doctoral Program in Community Medicine, Environmental Health Sciences and Medical Education

The students in this doctoral course analyze links between human health and environmental as well as social factors, which are causative to various disorders and diseases.



大学院 薬学研究科

詳細は
ウェブサイトへ



概要

薬学研究科は、5年制の博士前期・後期課程と、4年制の博士課程で構成されています。

博士前期・後期課程(創薬生命科学専攻)は、より高度な先端的知識・技能を修得し、独創的先端研究に従事することによって、自己開発型の研究者・技術者を育成することを目標とし、前期2年で問題解決能力を、後期3年では問題解決能力に加え課題設定能力をも獲得することを目的としています。博士課程(医療機能薬学専攻)は、臨床研究能力や問題解決能力を有する研究者および指導的薬剤師の育成、ならびに保健・衛生行政および医療薬学教育に従事する高度な研究能力を持つ人材の育成を目的としています。

創薬生命科学専攻(博士前期・後期課程 5年制)

最新の医薬品研究開発の知識と技術、ならびに生命科学の急速な進歩に呼応した生体分子機能解析の最先端の知識と技術を習得します。関連学問分野を有機的につなぎ、医薬品開発と生命科学の推進・展開についての総合的教育と独創的先端研究を行います。

共同ナノメディシン科学専攻(博士後期課程 3年制)

平成25年度から、博士後期課程に名古屋工業大学との共同大学院「共同ナノメディシン科学専攻」を設置し、薬学と工学の融合した分野の教育研究の推進を図り、薬工両面に精通した双頭俯瞰型の研究者・技術者の育成を目指します。

医療機能薬学専攻(博士課程 4年制)

医療現場での診断・薬物治療の高度化ならびに複雑化に十分対応し、医薬品の適正使用、副作用の低減、薬害の予防、治験薬管理などに中心的役割を果たせる指導的薬剤師としての基盤となる高度な専門知識と技術を修得します。医療機能薬学の基礎及び臨床関連分野を有機的につなぎ、包括的な医療薬学教育及び基礎と臨床を橋渡する先進的研究を行います。



Graduate School of Pharmaceutical Sciences

Outline

The Graduate School of Pharmaceutical Sciences consists of a five-year master's program and doctoral program, and a four-year doctoral program.

The Master's Program and Doctoral Program in Medicinal and Life Sciences intend to nurture independent researchers and engineers through the acquisition of more advanced cutting-edge knowledge and skills and engagement in creative high-tech research. Specifically, the students are encouraged to develop their ability to solve problems in the two-year master's program, and to set assignments as well as to solve problems in the three-year doctoral program.

The Doctoral Program in Experimental and Clinical Pharmacy intends to nurture researchers and leading pharmacists who have clinical research ability and problem solving skills and personnel who possess advanced research ability and are engaged in public health administration and medical and pharmaceutical education.

Five-Year Master's Program and Doctoral Program in Medicinal and Life Sciences

The students acquire the newest knowledge and skills for research and development of drugs and the most-advanced knowledge and skills for the analysis of biomolecular functions in response to the rapid progress in life science. Furthermore, through the systematic linkage with the related disciplines, students receive a comprehensive education and conduct creative high-tech research in the promotion and evolution of new drug development and life science.

Three-Year Doctoral Program in Cooperative Major in Nanopharmaceutical Sciences

Starting from the academic year 2013, the Graduate School of Cooperative Major in Nanopharmaceutical Sciences (doctoral program), established jointly with Nagoya Institute of Technology, promotes education research in the field that fuses pharmaceutical sciences and engineering.

Four-Year Doctoral Program in Experimental and Clinical Pharmacy

The students acquire advanced knowledge and skills that are fundamental for leading pharmacists in order to cope well with sophisticated and complicated diagnoses and medications; and who can play a central role in the proper use of drugs, the reduction of their side effects, the prevention of drug disasters, and the management of investigational new drugs. Furthermore, students conduct advanced research systematically linking the fundamentals medical function and pharmaceutical science and clinically related fields.





大学院 経済学研究科

概要

経済学研究科は昭和43年に創設され、以来、数多くの大学教員を輩出するなど、研究者養成機関としての役割を果たしてきました。それと共に、平成元年に全国に先駆けて設立された夜間の社会人大学院(修士課程)、および平成17年に社会人も博士後期課程で学べるようにカリキュラムを改編し、現在の昼夜開講制の大学院となりました。社会人を含めて現在まで多くの卒業生を輩出しており、社会人のための高度専門教育機関としての実績も挙げてきました。研究科では、社会人が学びやすい環境整備のために、講義テーマを発展させた報告書(リサーチペーパー)によって修士号の取得を可能とし、また実業界で活躍している経営者講師陣によ

る特別講義を開講しています。さらに平成28年度から、医療関係者を対象として、「医療経済マネジメントコース」を開設しました。また、令和2年度から、経営者(経験者を含む)を対象として「経営者コース」を開設して、独自の経営理念、経営哲学の開発を目的として専門的な研究・教育を行っています。



経済学専攻

経済学専攻では、経済学の立場から、さまざまな経済問題を理論的・実証的に分析することを目的とし、経済理論系、経済政策Ⅰ系、経済政策Ⅱ系、そして制度・歴史系という4つの分野について専門的な研究・教育を行っています。

経営学専攻

経営学専攻では、経営学と会計ファイナンスの関連性を重視し、企業活動の諸問題を解決することを目的とし、経営系、会計系、そしてファイナンス・情報系という3つの分野について高度な研究・教育を行っています。

Graduate School of Economics

Outline

NCU founded the Graduate School of Economics in 1968. Since then, this school has fulfilled its role as a training institution for researchers, producing a large number of graduates as university faculty members. In 1989, the school started the first evening school (Master's Program) for working professionals in Japan. In 2005, the school reformed and opened an evening Doctoral Program where working professionals are able to study in a Doctoral curriculum. A large number of students, including working professionals, have graduated from this school. In this respect, NCU has achieved outstanding results for society as an advanced academic and professional training institution. In an effort to make a constructive and creative academic environment, the school allows students to earn their Master's Program by submitting research papers developed from topics dealt with in lectures. In

addition, the school provides special lectures by successful professionals in their respective business areas. In 2016, the school started a new program, "Course of Economics and Management in Health," to provide medical personnel. In 2020, the school also started a program "Course of Executive Manager" to provide corporate manager and the experienced person. This course provides professional research and education for developing original management theory or the philosophy.

Master's Program and Doctoral Program in Department of Economics

The goal of the Master's Program and Doctoral Program in Department of Economics is to analyze various economic problems theoretically and empirically. This program provides advanced research and education in four areas: namely, the Economic Theory Group, the Economic Policy I

Group, the Economic Policy II Group and the Institutional Economics and Economic History Group.

Master's Program and Doctoral Program in Department of Management

The goal of the Master's Program and Doctoral Program in Department of Management is to provide training in the business world by paying attention to the relationship between business administration, accounting, and financing. This program provides advanced research and education in three areas: namely, the Business Administration Group, the Accounting Group and the Finance and Information Systems Group.



大学院 人間文化研究科

概要

人間文化研究科では人文社会系の多様な研究分野の研究者が、博士前期課程では7つのコース、博士後期課程では2つの研究領域において研究活動をおこなっています。特に、平成29年4月から「臨床心理コース」を開設し、名古屋市教育委員会や医学研究科、医学部附属病院と連携した実習などを行い、優秀な公認心理師・臨床心理士の育成を行っています。博士前期課程と博士後期課程は共に昼夜開講制・長期履修制度をとっており(臨床心理コース除く)、社会人を広く受け入れ、多くの社会人大学院生が熱心に学んでいます。

人間文化専攻(博士前期課程)

前期課程には、「グローバル文化」「日本文化」「都市政策」「ジェンダー・福祉・社会学」「『こころ』の発達」「社会と教育」「臨床心理」の7コースが設置されています。各コースは複数の教員と学生が共同で研究し、発表や討論を通じて研究を深めます。

「臨床心理コース」は多彩なカリキュラムと充実した学外実習を用意し、高度なスキルを備えた心理専門職の輩出を目指します。医療心理センターに設置されている臨床心理相談室は実習施設としての機能を持ち、公認心理師・臨床心理士資格を有する大学教員の指導のもと、大学院生がさまざまな悩みのある市民向けの心理相談を担当します。

人間文化専攻(博士後期課程)

「文化研究」と「人間・社会研究」の2つの研究領域において、将来研究者を目指す学生、あるいは現に教育・研究の現場に携わっている学生、自らの職業に研究成果を活用したいと考えている学生などが研究に励み、博士論文の完成を目指しています。



Graduate School of Humanities and Social Sciences

Outline

In the Graduate School of Humanities and Social Sciences, researchers in various fields of research in humanities and social sciences are engaged in research activities in seven courses in the Master's Course of the Doctoral Program and in two courses in the Doctor's Course of the Doctoral Program. Since its inception in April 2017, the graduate school Course of Clinical Psychology has provided practical training, etc. in collaboration with the Nagoya City Board of Education, the Graduate School of Medical Sciences and the University Hospital to foster excellent licensed psychologists and clinical psychologists. The Doctoral Program (The Master's Course and Doctoral Course) uniquely features day and evening classes and the Extended Study Program to widely accommodate working adults (excluding the Clinical Psychology Course), and many graduate students

in fulltime employment are studying enthusiastically.

Master's Program in Humanities and Social Sciences

The Master's Course of the Doctoral Program provides seven courses – Global Culture; Japanese Culture; Urban Policy; Gender, Welfare and Sociology; Psychological Development; Society and Education; and Clinical Psychology. In each course, more than one faculty member and student conduct research jointly, deepening their research through presentation and discussion. The Course of Clinical Psychology provides a wide array of curricula and fulfilling extracurricular practical work to produce highly skilled psychological specialists. In the Clinical Psychology Consultation Room established within the Medical Psychology Center and functioning as practice facilities, gradu-

ate students provide psychological counseling to citizens having various concerns under the guidance of faculty members who are qualified as licensed psychologists and clinical psychologists.

Doctoral Program in Humanities and Social Sciences

In two research areas, Cultural Research and Human and Social Research, students who are researching with us and preparing their doctoral papers have various goals in mind: to be researchers in the future, or take advantage of their research outcome for their professional activities, or even for their educational activities.

大学院 芸術工学研究科

詳細は
ウェブサイトへ



概要

芸術工学研究科は、人間についての深い理解や広い視野と豊かな感性、科学技術に関する高度な知識と技術を修得し、独創的な研究や、制作に従事することにより、高度な専門的職業人や研究者を養成することを目的としています。博士前期課程および後期課程は3領域(情報環境デザイン領域、産業イノベーションデザイン領域、建築都市領域)からなり、社会が抱えるさまざまな諸問題を解決し、人類の幸福の実現に、それぞれの領域から具体的に関与できる能力の獲得を目的としています。

本研究科では、高度な専門的職業人や研究者を目指す大学院生だけでなく、多様な経歴を持つ社会人の再教

育や、研究科での研究を職場で生かしたいと考えている社会人に対する教育研究体制も整えています。

情報環境デザイン領域

主に、インターフェースデザイン、映像・音響デザイン、情報通信工学に関わる知識と技術を修得し、情報デザインの展開に関する研究や制作を行います。情報通信技術者、ソフトウェア技術者、メディアデザイナー、メディアクリエータ、研究者を養成しています。



産業イノベーションデザイン領域

主に、表現力や造形力など、自分の考えや感情を表現する力と、物理学、心理学など、自然現象や心の内面を科学的にとらえる学問を融合し、産業領域における技術とデザインに関する人材を養成しています。

建築都市領域

主に、意匠・計画、構造・材料、環境・設備、都市・地域に関わる知識と技術を修得し、建築都市デザインの展開に関する研究や制作を行います。建築家、デザイナー、都市プランナーや構造・環境技術者、研究者を養成しています。

Graduate School of Design and Architecture

Outline

In order for students to acquire a profound understanding of, and a broad outlook and rich sensitivity toward human beings, and advanced knowledge and ability related to science and technology, the Graduate School of Design and Architecture aims to train students to make progress as professionals or researchers through creative research and production. The Doctoral Program (Master's Course and Doctor's Course), having three disciplines (Informatics and Media Design, Industrial Innovation Design, and Architecture and Urban Design) trains students to solve various problems in society, and also acquire the ability to make a specific approach based on their respective disciplines to the realization of human happiness.

Master's and Doctoral Program in Informatics and Media Design Area

The students acquire knowledge and skills mainly related to interface design, audio-visual design, and information and communication engineering, engaging in research and creation of the advanced information design. This program nurtures information and communication engineers, software engineers, media designers/artists and researchers.

Master's and Doctoral Program in Industrial Innovation Design Area

This area fuses the power of expressing one's own ideas and sentiments, such as expressiveness and form-giving, and disciplines for scientifically understanding natural phenomena and the inner world of emotion, such as physics and psychology, into one, and cultivates persons related to technology

and design in the industrial area.

Master's and Doctoral Program in Architecture and Urban Design Area

The students acquire knowledge and skills mainly related to architectural planning and designing, structural engineering, environment building facilities, cities and regions, and engaging in research and production of the advanced architecture and urban design. This program nurtures architects, designers, urban planners, structure and environment engineers and researchers.



大学院 看護学研究科

詳細は
ウェブサイトへ



概要

看護学研究科では、人々の健康と福祉の実態を踏まえ、看護の理論と実践を追究し、少子高齢化が進展するなかで必要とされる質の高い看護実践者、社会のニーズに積極的に応えられる優れた看護教育者・看護研究者を育成します。また、医療の高度化に対応する先進的研究と地域における保健医療福祉分野の研究の促進を図ります。

教育研究組織は、健康支援看護学領域とケアシステム看護学領域からなり、令和5年度に新たに看護研究推進センターと看護情報センターを設置し、大学院生の学修を支援します。臨床現場や教育機関などで働きながら学んでいる学生も多く、その支援体制も整備しています。

健康支援看護学領域

以下の7つの教育研究分野があり、健康生活の支援に関する研究を行います。

- ・性生殖看護学・助産学*
- ・成育保健看護学
- ・クリティカルケア看護学**
- ・周手術期看護学***
- ・慢性看護学
- ・高齢者看護学
- ・先端医療看護学



ケアシステム看護学領域

以下の6つの教育研究分野があり、新たなケアシステムに関する研究を行います。

- ・看護マネジメント学
- ・感染予防看護学
- ・精神保健看護学**
- ・在宅看護学
- ・地域保健看護学
- ・国際保健看護学

*の分野では助産学アドバンスコースと助産師国家試験受験資格取得コース、**の分野では専門看護師(CNS)教育コース、***の分野では周麻酔期看護師教育コースを設け、高い水準の看護を提供するスペシャリストを養成しています。

Graduate School of Nursing

Outline

The Graduate School of Nursing pursues the theories and practice of nursing. We foster the development of the high-quality nurse practitioners needed by society amid advancing decline in childbirth rates and population aging, and train excellent nursing educators and researchers capable of actively responding to the needs of society. Furthermore, the school promotes cutting-edge research on community health, medical care, and welfare disciplines in compliance with current medical care. The education and research organization is comprised of two domains: health support in nursing and the care system nursing. In 2023, we will establish a new nursing research promotion center and a nursing information center to support the academic pursuits of graduate school students. There are many students who engage in studies while also working in clinical fields or academic institutions, and we have established a structure to support those students as well.

Master's and Doctoral Program in Health Support Nursing

The discipline comprises following seven specialized fields.

This area research is conducted on supporting healthy lifestyles.

- ・Reproductive Health Nursing and Midwifery*
- ・Child and Family Health Care Nursing
- ・Critical Care Nursing**
- ・Perioperative Nursing***
- ・Chronic Illness Nursing
- ・Gerontological Nursing
- ・Advanced Medical Nursing

Master's and Doctoral Program in Care System Nursing

The discipline comprises following six specialized fields.

This area research is new systems of care will be conducted.

- ・Nursing Administration and Management

- ・Infection Control and Prevention
- ・Psychiatric-Mental Health Nursing **
- ・Home care Nursing
- ・Community Health Nursing
- ・Global and Community Health

Fields marked with *: Offering an advanced course in midwifery and a course to qualify for the national examination for midwives

Fields marked with **: Offering Certified Nurse Specialist (CNS) training courses

Fields marked with ***: Offering peri-anesthesia nurse training courses

We are fostering the development of specialists capable of providing high-level nursing care.

大学院 理学研究科



詳細は
ウェブサイトへ

概要

理学研究科では、自然科学と数理情報科学に関する基礎的な知識と技術を修得し、その基盤の上に生命や物質に関わる諸現象の解明と応用に携わる人材を育成します。自然科学や数理情報科学の最先端の研究分野を有機的に配置し、科学技術立国日本を支える研究教育を行います。また、既存分野の垣根を越えた研究教育を行い、21世紀の複雑な諸問題を科学的に解決し、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成を目指します。



本研究科は、社会人や外国人留学生も含め、さまざまな素養と経歴をもつ学生を全国から受け入れています。社会人入学者が仕事と学業を無理なく両立できるよう、昼夜開講制度や長期履修制度を実施しています。2019年4月入学生より高等学校専修免許状(理科)の取得も可能となり、高等学校教員のスキルアップを支援します。外国人留学生には、正規の大学院生のほか、外国人研究生の制度があり、入学金や授業料の経費を抑えた上で日本の大学で教育を受ける機会を提供しています。



理学情報専攻(博士前期課程)

本専攻では、自然科学と数理情報科学の融合領域に焦点を当て、生命科学、物質科学、数理情報科学の各分野の発展に寄与することをねらいとしています。

専門科目の系列は次の二つの系から構成されています。

- 生命情報系
- 自然情報系

理学情報専攻(博士後期課程)

本専攻では、複雑な生体や物質を分子レベルからマクロレベルにわたって観測・計測・モデル化し、生体や物質が示すダイナミックな現象を情報システムとして理解し、応用を試みる学際的な研究教育の展開を目指しています。

専門科目の系列は次の二つの系から構成されています。

- 生命情報系
- 自然情報系

Graduate School of Science

Outline

This graduate course begins with acquiring basic knowledge of theories and technologies related to natural, mathematical and information sciences for the purpose of elucidating unsolved life- and material-related phenomena. Students are provided with the knowledge and research experience that allow them to contribute to the progress of science and technology in the future. This course program emphasizes interdisciplinary sciences that are indispensable for solving complicated problems that emerge in the 21st century, and the realization of a sustainable society.

This graduate course admits students having various skills and backgrounds from all over the country, including working people and students from overseas. In order for working students to manage both their work and their studies, the course provides a day and

evening lecture system and an extended-year course system. As of April 2019, new students will be eligible for a high school specialized teacher's license (science), which will support high school teachers in upskilling. For students from overseas countries, in addition to being regular graduate students, a foreign research student system provides opportunities to receive education in this course together with reduced admission fees and tuition fees.

Master's Program in Information and Basic Science

The program emphasizes the fusion between information and basic sciences for developing new fields between established sciences.

The specialized subjects are divided into the following two groups:

- Biological Science
- Mathematical and Material Sciences

Ph. D. Program in Information and Basic Science

The program aims to provide a very high level of academic research and education, in which students observe and/or analyze biological and material complex systems from macroscopic and microscopic perspectives to understand the dynamics of the fundamental processes as an information system.

The specialized subjects are divided into the following two groups:

- Biological Science
- Mathematical and Material Sciences

名古屋市立大学病院



詳細は
ウェブサイトへ

医学部附属病院は、昭和6年に設置された名古屋市民病院に始まり、その後幾多の変遷を経て、昭和25年に今日の名古屋市立大学病院となりました。

平成7年7月には特定機能病院として承認されており、教育研究機関であるとともに、高度で先進的な医療を提供することで名古屋都市圏の医療に貢献しています。

また、がん患者さんに対し、高度な診断や先端治療を併用する集学的な治療が行えるように、平成24年5月には喜谷記念がん治療センター(東棟)を開院しました。

さらに、高度急性期病院としての機能を強化するため、平成29年4月にハイブリッド手術室を含む手術室3室を増設したほか、平成30年4月には喜谷記念内視鏡医療センターを設置しました。

令和5年4月現在で800床の病床を有し、35の診療科と中央部門に加え、薬剤部門、看護部門、管理部門が置かれ、充実した医療の提供体制の下、多くの患者さんの治療を行っています。



ハイブリッド手術室
Hybrid Operating Room



名古屋市立大学病院外観
Nagoya City University Hospital



トモセラピー ラディザクト(高精度放射線治療装置)
High-Precision Radiotherapy Machine

Nagoya City University Hospital

Nagoya City University Hospital ("University Hospital") has its origin in the Nagoya Municipal Hospital established in 1931. Having gone through various transitions, the University Hospital developed into its present entity in 1950. The University Hospital was nominated as a special functioning hospital in July 1995. It is an education and research institution of NCU that contributes to the development of medical treatment in metropolitan Nagoya by providing a high degree of advanced medical treatment.

In May 2012, the University Hospital opened a new ward named Kidani Memorial Cancer Center (on the east of the Outpatient Care Ward) in order to provide multidisciplinary treatment using both high-degree diagnosis and leading-edge treatment together to cancer patients.

Furthermore, in April 2017, the University Hospital established an additional three operating rooms, including a hybrid operating room, in order to enhance its functions as an advanced acute hospital. In addition, in April 2018, the University Hospital established the Kidani Memorial Endoscopic Medical Care Center.

As of April, 2023, the University Hospital has 800 authorized sickbeds, 35 diagnosis and clinical sections, and central departments, plus the Pharmacy Department, the Nursing Department and the Administration Office. Under the excellent medical treatment provision system, the University Hospital is providing medical treatment to a large number of patients.

Philosophy

As a core medical institution in metropolitan Nagoya, this hospital provides advanced, safe and open medical service and nurtures medical professionals who have high expertise and moral values.

Basic policies

■ Provide highly-advanced and state-of-the-art medical treatment as a core medical institution in metropolitan Nagoya.

■ Provide open medical treatment supported by advanced computerization, and promote the release of information and the security of the medical safety.

■ Open an emergency and disaster medical center, and enhance the emergency and disaster medical functions.

■ Improve medical education, and nurture medical professionals who are credible with high moral values.

Contribute to society through the promotion of excellent medical research.

名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター



明治23年3月、愛知県から伝染症患者の診療のための隔離病舎として引き継ぎ、同34年7月、避病院として開設、昭和32年6月に現在地に移転改築し、名古屋市立東市民病院と改称しました。以来、救急診療棟、心臓血管センター・脳血管センターの開設等、救急医療、心臓血管・脳血管疾患に対する高度・専門医療の充実に努め、地域の中核病院として整備を図ってきました。また、平成23年5月には名古屋市立東部医療センターと改称し、同25年3月には地域医療支援病院の承認を受けました。

平成27年3月には救急・外来棟を開棟するとともに、令和2年1月には入院・診療棟を開棟しました。令和3年4月より本学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属東部医療センターに改称。365日24時間患者を受け入れる「断らない救急」の実現と医療機能のさらなる充実・強化を目指しています。

理念

安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します。

基本方針

- 心臓血管・脳血管疾患・がんなどに対する高度・専門医療の充実に努めます。
- 救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします。
- 第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします。
- 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します。
- 医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います。



救命救急センター
Emergency Center



東部医療センター外観
Nagoya City University East Medical Center



感染症病棟
Infectious disease ward

Nagoya City University East Medical Center

Nagoya City University East Medical Center had its origins as a quarantine hospital for infectious cases taken over from Aichi Prefecture in March 1890. In July 1901, the hospital was reopened as an isolation hospital. In June 1957, the hospital was relocated to a remodeled building at the present location and changed its name to Nagoya City Higashi Municipal Hospital. Since then, as a community core hospital, the hospital has enriched emergency medical care and highly specialized medical care for cardiovascular and cerebrovascular diseases by, for example, opening an emergency ward, a cardiovascular center and a cerebrovascular center. The hospital changed its name to Nagoya City East Medical Center in May 2011, and received approval as a regional medical care support hospital in March 2013.

The hospital opened an emergency and outpatient ward in March 2015, and an inpatient and medical care ward in January 2020. In April 2021, the center became NCU's affiliated hospital, and changed its name to Nagoya City University East Medical Center. In this way, the hospital aims to realize its vision of an emergency hospital which accepts patients, without turning away any, around the clock all year round, and promote the enhancement and enrichment of the medical functions.

Philosophy

Providing safe and high-level medical care to safeguard the life and health of citizens, and cultivating excellent medical service providers.

Basic policies

- Striving to enhance highly specialized medical care for cardiovascular, cerebrovascular and cancer patients
- Fulfilling functions of an emergency center and disaster base hospital
- Fulfilling functions of a Designated Medical Institution for Class II Infectious Diseases
- Contributing to the development of community medical care in cooperation with community medical institutions
- Cultivating excellent medical service providers through the provision of substantial medical education, and conducting research and transmitting information useful for medical development

名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター



西部医療センターの前身は城北病院と城西病院であり、ともに地域の中核病院として運営してきました。平成23年5月にクオリティライフ21城北内の現在地に新築移転し、両院を統合した西部医療センターとして運営を開始し、小児・周産期医療、がん医療、脊椎医療、救急医療の充実等に取り組んでいます。平成25年2月には、陽子線治療センターを開設し、東海3県で初めてとなる陽子線がん治療を開始しました。

また、平成25年9月には地域医療支援病院の承認、平成31年4月には地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。令和3年4月より本学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属西部医療センターに改称。地域に根差した大学病院として、地域に住む皆さまに安全で質の高い医療を提供していきます。

理念

地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するとともに優れた医療人を育成します。

基本方針

- 公立大学病院の使命を自覚し、安心安全で質の高い医療を提供します。
- がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます。
- 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します。
- 充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人を育成します。
- 医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます。



NICU (新生児集中治療室)
NICU (Neonatal Intensive Care Unit)



名古屋陽子線治療センター外観
Nagoya Proton Therapy Center



西部医療センター外観
Nagoya City University West Medical Center

Nagoya City University West Medical Center

The predecessors of Nagoya City West Medical Center were Johoku Hospital and Josai Hospital, both of which had been run as local core hospitals. In May 2011, both hospitals relocated to a new institution erected at the present location within Quality Life 21 Johoku (a complex of facilities with healthcare, medical care and welfare functions), and started operation as Nagoya City West Medical Center, established by merging both hospitals to improve and upgrade pediatric and perinatal care, cancer care, spine care and emergency medical services. In February 2013, the center opened a proton therapy center, and started cancer therapy using proton beams for the first time in the three prefectures of the Tokai region.

The center was approved as a regional medical care support hospital in September 2013, and designated as a regional cancer medical examination cooperation base hospital in April 2019. In April 2021, the center became NCU's affiliated hospital, and changed its name to Nagoya City University West Medical Center. In this way, the center provides local residents with safe and high-quality medical service as a university hospital rooted in the community.

Philosophy

Providing high-level and safe medical care and cultivating excellent medical service providers as a university hospital rooted in the community.

Basic policies

- Providing safe, secure and high-quality medical care with the mission of the public university hospital in mind
- Striving to improve and upgrade cancer care and pediatric and perinatal care as a cancer medical examination cooperation base hospital and a community perinatal mother and child medical center
- Contributing to the development of regional medicine in cooperation with other regional medical institutions
- Cultivating warm-hearted and excellent medical service providers by providing substantial medical education
- Proceeding with the creation of new medical care by promoting medical research

名古屋市立大学医学部附属 みどり市民病院



詳細は
ウェブサイトへ

昭和20年に旧愛知郡鳴海町国民健康保険組合診療所として開設し、名古屋市南部の地域密着型の中核的病院として役割を果たしてきました。昭和38年に名古屋市が愛知郡鳴海町を編入合併したことに伴い、名古屋市立緑市民病院へ改称。人口急増地区であることから、南館増築と本館の全面改修を経て、患者増に対応するための病床整備を実施。更に平成8年からの2か年計画で北館増設工事をおこない、診療体制の整備充実を図りました。その後平成24年に指定管理者制度を導入し11年間の指定管理期間を経て、令和5年4月に名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院として運営を開始。前身の名古屋市立緑市民病院の医療を引継ぎつつ、地域密着型の大学病院として、安全かつ高度な地域医療のニーズに対応した医療の提供に努めてまいります。救急の初期対応をはじめ多様な疾患に対する治療を行うとともに、予防医療など地域住民の健康づくりを支援します。

理念

地域の健康未来を創造する大学病院として、安全で高度な医療の提供とともに地域医療の持続的発展に貢献する医療人を育成します。

基本方針

- 急性期医療及び回復期医療をワンストップで提供し、「治し支える医療」を実践します。
- 安全で高度かつ先進的な医療の創出とともに、地域医療のニーズに的確・迅速に応えます。
- 地域包括ケアシステムの深化・発展に寄与し、地域との調和及び共生を目指します。
- 「地域を診る心」と「常に学ぶ心」を大切にす誠実で優れた医療人を育成します。
- 先制的かつ集学的な予防医学研究の推進により健康社会の実現に貢献します。



みどり市民病院外観
Nagoya City University Midori Municipal Hospital



病棟
Hospital ward



健康管理センター
Health Care Center

Nagoya City University Midori Municipal Hospital

Established in 1945 as the former Aichi Narumi National Health Insurance Association Clinic, this facility served as a core community hospital in the southern region of Nagoya City. In 1963, the name was changed to Midori Municipal Hospital when Nagoya City merged with the town of Narumi. As the population rapidly increased, the south building was expanded and the main building was completely renovated, and hospital beds were added to cope with the increase in patients. Furthermore, under a two-year plan starting in 1996, the North Wing was expanded to improve the medical care system. Later, in 2012, a designated administrator system was introduced. After an 11-year designated management period, in April 2023, the facility started operations as Nagoya City University Midori Municipal Hospital.

While taking over the medical care services of its predecessor Midori Municipal Hospital, as a community-based university hospital, we will strive to provide medical care that meets the needs of society by providing safe and advanced community medical care. In addition to providing treatment for various diseases, including initial response to emergencies, we will also promote the health of local residents through preventive medicine.

Philosophy

As a university hospital that creates a healthy future for the region provide safe and advanced medical care and develop medical professionals who contribute to the sustainable development of regional medicine.

Basic policies

- To provide one-stop acute medical care and convalescent medical care, and to provide medical care that cures and supports.
- To create safe, advanced, and advanced medical care, and respond to regional medical needs accurately and promptly.
- To contribute to the advancement and development of a regional comprehensive care system and aim for harmony and coexistence with the region.
- To foster the development of sincere and excellent medical professionals who desire to care for the community and who are always striving to learn.
- To contribute to the realization of a healthy society by promoting preemptive and multidisciplinary preventive medicine research.

名古屋市立大学医学部附属 みらい光生病院



詳細は
ウェブサイトへ

昭和26年、医療法に基づく病院及び生活保護法に基づく医療保護施設として開設。昭和57年に現在地に移転改築し、名古屋市厚生院附属病院と改称しました。平成12年4月には、介護保険法の施行に伴い、病院の一部を指定介護療養型医療施設に転換しました。

令和5年4月より本学医学部の附属病院となり、名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院と改称するとともに、一部の病棟を回復期リハビリテーション病棟に転棟。認知症やフレイルへの対応のほか、先駆的な技術を駆使しながらリハビリテーションを実施し、入院時から在宅生活を視野に入れた治療の提供と退院支援等、質の高い医療を提供していきます。また、附属病院化を機に、予約制の専門外来を新たに開始し、さまざまな疾患に対して、関連する診療科が連携して横断的に診療を行う体制を設けています。

理念

「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を地域と連携して提供するとともに、百寿社会に資する先端研究を行い、優れた医療人を育成します。

基本方針

- 横断的な診療を担うセンター機能の提供による先駆的な医療を提供します。
- 自立・自活や生活の質(QOL)の向上に向けて、心身機能回復・維持を目指した医療を提供します。
- 地域包括ケアの拠点として臨床・イノベーションを推進します。
- 高い専門性と倫理観を持ち、医療・介護を支える優れた人材を育成します。
- 健康長寿に資する臨床研究とデータサイエンスに取り組みます。



みらい光生病院外観
Nagoya City University Mirai Kousei Hospital



エントランス
Entrance



3.0T MRI
3.0T MRI

Nagoya City University Mirai Kousei Hospital

Established in 1951 as a hospital based on the Medical Care Act and a medical protection facility based on the Public Assistance Act. In 1982, the hospital was relocated to its current location and renamed to Koseiin Medical Welfare Center. In April 2000, following the enforcement of the Long-Term Care Insurance Law, part of the hospital was converted to a designated long-term care medical facility. From April 2023, the facility became an affiliated hospital of the NCU's Medical School, and was renamed to Nagoya City University Mirai Kousei Hospital. Also, some wards were converted to convalescent rehabilitation wards. In addition to providing care for dementia and frailty, we will provide high-quality medical care, including rehabilitation incorporating cutting-edge technologies, provide treatment focused on living at home from the time of hospitalization, and provide discharge support. We are using the opportunity created by becoming affiliated hospital to start a new specialized outpatient clinic with a reservation system and establish a system for interdisciplinary medical treatment for various diseases through cooperation with related clinical departments.

Philosophy

Striving to establish Nagoya as having Japan's longest healthy lifespans, we will work with communities to provide medical care, engage in advanced research that contributes to this age of 100-year lifespans, and foster the development of excellent medical professionals.

Basic policies

- Provide pioneering medical care by offering center functions to enable broad-based medical care.
- Provide medical care aimed at recovery and maintenance of mental and physical functions in order to improve independence, self-reliance and quality of life (QOL).
- Promote clinical practices and innovation as a base for comprehensive regional care.
- Develop excellent human resources with advanced expertise and ethics, and who support medical and nursing care.
- Engage in clinical research and data science that contribute to healthy lifespans.

附属施設 Affiliated Facilities

総合情報センター

Library and Information Processing Center

総合情報センターは、図書館機能を中心とした学術情報部門と学術の根幹となる情報ネットワークを管理する情報システム部門で構成されています。

学術情報部門(図書館)

図書館機能を担う学術情報部門は、4つのキャンパスそれぞれに山の畑分館、川澄分館、田辺通分館および北千種分館を設置しています。これらの分館には、専門分野の図書・雑誌が収集・保管されており、コンピュータ・システムにより全館の蔵書の検索が可能で、貸出・返却の手続きも簡素化されています。本学図書館が所蔵していない図書・雑誌については、他大学図書館との間で行っている相互貸借の方法によりコピーの入手を可能にしています。

情報システム部門

情報システム部門では、本学キャンパス情報ネットワークや教育系・事務系システム等の運用管理を行っています。滝子(山の畑)キャンパス6号館の情報処理教室や端末室、各キャンパスの図書館分館にパソコンを設置し、情報処理関係の講義をはじめインターネットや電子メール、学務情報システムなど各種情報システムが利用できる環境を整備しています。また、順次各キャンパスの無線LAN環境を整備し、情報環境の利便性を図るとともに学生や教職員からのネットワークに関する質問に対応しています。

高等教育院

Institute for Advanced Education and Research

高等教育院は、本学における教育改革を全学的に推進するために設置された組織です。

高等教育院では、教養教育及び全学語学教育の企画・立案から実施までを担うとともに、教学IR(大学の教育におけるさまざまな情報を収集、分析することにより、学内の意思決定や改善活動を支援する取り組み)やFD(教育方法を改善するための組織的な研究、研修等に取り組む活動)といった、教育の質保証につながる取り組みの全学的な統括を担っています。

The Library and Information Processing Center is consisted of the academic information section centering on library functions and the information system section controlling the information network forming the backbone of academic activities.

Academic Information Section (Library)

The academic information section, which assumes library functions, has branches on each of the four campuses, namely: Yamanohata Branch, Kawasumi Branch, Tanabe-dori Branch and Kita Chikusa Branch. These branches contain the collection and storage of specialized books and magazines. All books and magazines in these branches can be searched through a computerized system, and lent out and returned through simplified procedures. Books and magazines not available in the library are also available through photocopies under the mutual lending/borrowing system with other university libraries.



田辺通分館
Tanabe-Dori Branch

Information System Section

The information system section operates and manages the campus information network, and education and clerical systems, etc. of NCU. With an information processing classroom and a personal computer room on Takiko (Yamanohata) Campus, and personal computers installed at library branches on each campus, the information system section provides lectures related to information processing, and maintains the environment in which various information systems including the Internet, e-mail, academic information system, etc. can be used. In addition, a wireless LAN environment of each campus is improved one by one to boost the convenience of the information environment. The information system also responds to any network-related inquiries from students and faculty members.

The Institute for Advanced Education and Research is an organization established to promote the educational reform of NCU on a university-wide basis.

The institute assumes the responsibility for liberal arts education and university-wide language education from planning and drafting to implementation on one hand, and controls the university-wide efforts that lead to the assurance of education quality, such as educational IR (institutional research, or efforts to support on-campus decision making and improvement activities by collecting and analyzing various information concerning university education) and FD (faculty development, or activities to address organizational research, training, etc. for the purpose of improving education method, etc.).

ダイバーシティ推進センター

Center for Diversity, Equity, and Inclusion

ダイバーシティ推進センターは、平成26年4月に設置した「男女共同参画推進センター」の取り組みを継続しながら、ワーク・ライフ・バランス及び働き方改革をより一層推進するため、令和4年4月に設置されました。

ダイバーシティ担当の学長補佐でもあるセンター長のもと、全研究科・病院から選出されたセンター員により、教職員の就労環境や教育研究環境の整備、ダイバーシティに関する意識啓発の推進等に取り組んでいます。

共用機器センター

Research Equipment Sharing Center

共用機器センターは、研究成果の創出に繋げるため、本学が所有する研究設備・機器について、効率的に運用し、全学での共同利用を推進することを目的に設置しています。

本センターの役割は、研究設備・機器について全学的に「見える化」することで、学内の研究科、研究者間の利用需要をナビゲートすることです。

これにより、全学での研究設備・機器の効率的運用と充実化、研究力の向上に大きく寄与していくことが期待されています。

全学実験動物センター

All-Campus Experimental Animal Center

全学実験動物センターは、本学で実施する動物実験の効率化及び円滑化を図り、学術研究の進展に寄与することを目的に設置しています。

本センターでは、動物実験に係る支援・相談や全学的な情報共有、また動物実験に係る設備等の導入・維持に係る全学的な整理等を行っています。

社会連携センター

Social Relations Center

社会連携センターは、大学の有する教育、研究成果等の資源を活用し、市民、地域社会、企業等と協働し、社会貢献を行うことを目的に設置されています。

本センターは本学の社会連携の窓口として、教員の講師派遣や地域との連携事業などの地域貢献に関する各種相談について、本学教員とのマッチングをコーディネートしています。

Taking over the responsibilities of the Gender Equality Promotion Center established in April 2014, the Center for Diversity, Equity, and Inclusion was established in April 2022 in order to further drive forth the improvement of work-life balance and the reform of working style.

Placed under the control of Director of the center, who is also Assistant to the President in charge of diversity, the staff of the center, who are selected from all the graduate schools and the university hospital, put effort into the improvement of work environments and education-and-research environments for the faculty members, and the promotion of awareness enlightenment about diversity.

The Research Equipment Sharing Center was established with a view to promoting the shared use of NCU's research facilities and equipment efficiently across the university to facilitate the creation of research results.

The role of the Center is to navigate the demand among research departments and researchers within the university for research facilities and equipment through making facilities and equipment "visible" across the university.

The Center is thus anticipated to greatly contribute to the efficient shared use and enhancement of research facilities and equipment and the improvement of research capability.



共用機器センターで共同利用できる超解像顕微鏡システム
Confocal Super-Resolution System Shared at Research Equipment Sharing Center

The All-Campus Experimental Animal Center was established with a view to facilitate and improve the efficiency of experiments on animals within the campus and contribute to the development of academic research.

The center provides support and consultation related to experiments on animals, all-campus information sharing, all-campus control, etc. related to the introduction and maintenance of equipment, etc. required for animal testing.

The Social Relations Center was established for the purpose of contributing to society by utilizing resources possessed by NCU, such as the accomplishments of education and research, and collaborating with citizens, the local community, local business enterprises, etc.

As the gateway to the university's social collaboration program, this center coordinates the matching of faculty members for various consultations about regional contribution, such as dispatching faculty members as instructors, and collaborative projects with local communities.

附属施設 Affiliated Facilities

産学官共創イノベーションセンター

Center for Creative Collaboration of Industry-Academia-Government

産学官共創イノベーションセンターは、研究、産学官連携の推進を目的に設置した組織です。

本センターは、研究戦略企画の立案や大型研究費の獲得支援を行う「研究支援グループ」と知的財産の創出・管理・活用を行う「知財活用グループ」で組織されており、研究者を研究の初期段階から産学官連携に至るまで一貫した体制でサポートしています。

これにより、地域社会にイノベーションが生まれることが期待されます。

The Center for Creative Collaboration of Industry-Academia-Government is an organization set up with the object of promoting research collaboration between business, academic and governmental circles.

The center is made up of two groups, the Research Support Group for drawing up research strategic plans and aiding in procuring funds for large-scale research fund, the Industry-Academia-Government Collaboration Group for creating, managing and utilizing intellectual property. The center supports researchers with a consistent system from the initial stages of research through to industry-academia-government collaboration. It is anticipated that regional innovation will be strengthened through this initiative.



産学官共創イノベーションセンター
Center for Creative Collaboration of Industry-Academia-Government

キャリア支援センター

Career Support Center

キャリア支援センターは、学生のキャリア形成・就職活動を支援する組織です。センター内では、企業・求人情報、各種就職イベントの情報、経済誌等の閲覧が可能です。

また、キャリア支援専門員が常駐し、相談や面接対策、キャリア支援イベントの開催などの支援を行うと共に、学生同士の情報交換の場としても活用されています。

The Career Support Center provides support to students for career development and job seeking. At the Center, students can browse information including corporate and job information, a variety of job-hunting event information, economic magazines, etc. Career consultants are available here to provide support, such as counseling, assistance in preparing for interviews, and holding of career support events. You can access to the Center to exchange information among students.



キャリア支援センター
Career Support Center

保健管理センター

Health Center

保健管理センターは、学生の健康の保持・増進のため、保健室・学生相談室の機能を拡充し、平成30年10月1日に開設されました。

本センターでは、医師、臨床心理士、看護師のさまざまな分野のスタッフが連携し、応急処置、よろず相談、こころ・からだの健康相談、学生定期健康診断、アルコールパッチテスト等を実施し、学生の心身の健康の保持・増進に寄与しています。

In order to maintain and promote the health of students, the Health Center was established on October 1, 2018 by enhancing the function of the nurse's office and students' counselling room. In the center, physicians, clinical psychotherapists, nurses and other staff from various fields work in close cooperation to provide expedient treatment, counselling about all manner of personal problems, mental and physical health counselling, periodic health checkups, patch tests for alcoholic reaction, and more. Thus, the center contributes to the maintenance and promotion of mental and physical health of students.

国際交流センター

International Exchange Center

国際交流センターの前身となる国際交流推進センターは、国際感覚豊かな人材育成、国際的な共同研究、地域への国際化への寄与や国際社会への貢献を目指し、平成20年3月に設立されました。その後、平成26年4月より新たに「国際交流センター」として、海外の大学や研究機関との交流拡充を図るため、教員の海外派遣や外国人研究者の受け入れを行うほか、海外の大学とのさらなる学術交流協定の締結を進めています。またさまざまな期間・内容の留学プログラムを実施し、協定校への交換留学など学生の海外派遣も積極的に行っています。国際交流センターは、滝子(山の畑)キャンパス3号館に設置されており、留学を希望する学生に対し留学相談などの取り組みを行っています。

■留学相談

専任スタッフが協定校留学をはじめとする学生の海外留学の相談に応じます。

■語学教材貸出・資料閲覧

英語教材のほか、中国語やフランス語など第二外国語の教材を幅広く揃えています。また本学の留学プログラムや体験談、留学関連雑誌、各国の留学情報資料なども数多く揃えています。

■外国語 Talk Time

お昼休みに、各国の留学生と外国語で会話ができる機会として「外国語 Talk Time」を実施しています。

■留学生との交流

留学生との交流の機会として、ウェルカムパーティーなどさまざまな催しを行っています。

■国際交流情報の発信

情報誌「IEC EXPRESS」やホームページを通じて、国際交流に関するさまざまな情報を発信しています。

今後も国際交流センターでは、学生の留学支援事業を充実させるとともに、海外の大学との交流を推進するため、学術交流協定の締結を積極的に進めていきます。



国際交流センター
International Exchange Center

As the predecessor of the International Exchange Center (IEC), the International Exchange Promotion Center (IEPC) was established in March 2008 to nurture internationally-minded human resources, facilitate international joint research and support activities, help promote regional internationalization, and contribute to the development of the international community. In order to expand exchange with overseas universities and research institutes, the IEPC evolved into the IEC in April 2014, which sends academic staff overseas and accepts visiting scholars from foreign countries as well as encourages the conclusion of academic exchange agreements with universities in other parts of the world. Furthermore, the IEC provides students study-abroad programs for various periods and with a range of contents to actively promote student overseas dispatch, such as exchange programs with partner universities. In addition, the IEC located in Building No. 3, Takiko (Yamanohata) Campus, gives hands on support to students who are considering study abroad by providing services.

■Consultations Regarding Studying Abroad

The dedicated staff at the Center respond to inquiries from students for advice about studying abroad at partner universities and other modes of studying abroad.

■Lending Language Learning Materials, and Providing Reference Materials for Viewing

As well as English learning materials, the Center provides a variety of learning materials for Chinese, French and other foreign languages as a second foreign language. The Center also provides materials for NCU's study-abroad program, memoirs from previous students, magazines on studying abroad and a large number of other reference materials related to studying in various foreign countries.

■“Talk Time” in Foreign Languages

In order to provide an opportunity to communicate in foreign languages with international students, the Center offers students a session called “Talk Time” in foreign languages during lunch time.

■Holding Events With Exchange Students

The Center holds various events, such as welcome parties, as opportunities for exchange with students from partner universities in foreign countries.

■Disseminating International Exchange Information

The Center disseminates a variety of information about international exchange via “IEC EXPRESS,” an information magazine, and its website.

The IEC will, while seeking the improvement of study-abroad support activities for students, actively promote the conclusion of academic exchange agreements with universities in foreign countries in order to expedite exchange with them.

附属施設 Affiliated Facilities

都市政策研究センター

Center for Urban Policy Research and Education

都市政策研究センターは、地域のまちづくり・子育て支援・医療・福祉・観光など、名古屋市をはじめとするこの地域が抱える多種多様な課題の解決に寄与するため、平成30年5月に開設しました。経済学研究科と人間文化研究科が中心となって、芸術工学研究科をはじめとする他研究科と連携しながら、総合大学である強みを生かし、それぞれの専門分野を融合させながら、課題解決に向けた調査・研究・分析を行います。

医療心理センター

Medical Psychology Center

医療心理センターは、総合大学の特徴を生かし、医学研究科、医学部附属病院、看護学部及び人間文化研究科が連携し、心理に関する実践研究、人材育成及び地域貢献を実施することを目的としています。人材育成及び地域貢献の実践として、「臨床心理相談室」事業及び「こころの看護相談」事業が行われています。さらに、心理専門職を対象とした研修会なども定期的に行い、地域に根差した専門的活動を展開しています。

SDGsセンター

SDGs Center



SDGsセンターは、本学の教育、研究、医療の成果等の資源を活用し、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の達成に向けた活動の推進を行うことを目的として、令和3年5月に設立されました。

本センターは、本学におけるSDGs推進のプラットフォームとして、SDGs達成に向けた全学的な活動の推進を行うとともに、名古屋市をはじめとした行政や民間企業、教育機関・研究機関などの学外組織との連携を進めています。

令和5年3月には、「SDGs宣言」を公表しました。

なごや学研究センター

Nagoya Studies Research Center

なごや学研究センターは、名古屋のまちづくりや社会教育、歴史観光、文化振興等の醸成を進めていくにあたり、名古屋の近世史を学術的に体系化し、調査研究を進めるため、令和5年4月に設立されました。

本センターは、名古屋の近世における歴史を考古学的見地を踏まえ研究することは、特色ある大学実現の一助となり、また、その研究成果を発信することで魅力ある地域社会づくりに貢献していきます。

The Center for Urban Policy Research and Education was set up in May 2018 to contribute to the solution of diverse issues facing this region including Nagoya City, such as local community planning, child rearing support, medical care, welfare and tourism. The Graduate School of Economics and the Graduate School of Humanities and Social Sciences together play a central role in conducting investigation, research and analysis toward solving the issues in cooperation with other graduate schools, such as the Graduate School of Design and Architecture, and by combining their specialized fields, taking full advantage of the strengths of NCU as a comprehensive university.

The Medical Psychology Center was established with the aim to conduct practical research in psychology, develop human resources and thereby contribute to the community, taking advantage of the characteristic features of a comprehensive university as a collaboration among the Graduate School of Medical Sciences, the University Hospital, the School of Nursing, and the Graduate School of Humanities and Social Sciences. To promote human resource development and contribution to the community, the center runs the Clinical Psychology Consultation Room program and the Mental Health Nursing Consultation program. In addition, the center conducts professional activities rooted in the community by regularly providing training workshops, etc. to psychological specialists.

NCU SDGs Center was established in May 2021, for the purpose of promoting activities aimed at achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) by utilizing our resources, including the results of education, research, and medical achievements.

As a platform for the promotion of the SDGs at the university, NCU SDGs Center promotes university-wide activities to achieve the SDGs, and promotes collaboration with Nagoya City and other governments, companies, educational and research institutions, and other organizations outside the university. NCU SDGs Center published the SDGs Declaration in March 2023.

Nagoya Studies Research Center was established in April 2023, to academically systematize the early modern history of Nagoya. The objective of the center is to promote research and study that fosters Nagoya's urban development, social education, historical tourism, and cultural promotion.

The Center's research into Nagoya's early modern history from an archaeological perspective and through the dissemination of its results will contribute to the realization of a university of distinction, and will also contribute to the creation of an attractive community.

附属研究所 Affiliated Research Institutes

医学研究科脳神経科学研究所

Institute of Brain Science Affiliated With the Graduate School of Medical Sciences

脳神経科学研究所は、先進的かつニーズの高い研究課題の解決に向けた基礎医学研究をはじめとする学際的かつ融合的な研究促進のため、昭和62年開設の分子医学研究所を改組し令和元年10月に設置した施設です。

神経毒性学分野、神経発達・再生医学分野、認知症科学分野、神経発達症遺伝学分野および認知機能病態学寄附講座の5部門で、脳の機能解明ならびに認知症や発達障害など脳神経疾患の克服を目指した最先端の研究を推進します。

With the aim of promoting interdisciplinary and fusional research activities including basic medical research toward solutions to advanced and high-need research challenges, the Institute of Brain Science was established in October 2019 by reorganizing the Institute of Molecular Medicine established in 1987. The institute promotes cutting-edge research aiming to elucidate brain functions and overcome cranial nerve diseases such as dementia and developmental disorders across five fields - neurotoxicology, neurodevelopmental and regenerative medicine, dementia science, neurodevelopmental genetics and Department of Cognitive Function and Pathology.

医学研究科実験動物研究教育センター

Laboratory Animal Facility Affiliated With the Graduate School of Medical Sciences

動物管理施設における厳密な飼養保管環境と、さまざまな動物実験を行うためのサポートを提供しています。動物の愛護及び管理に関する法律や関連法規を遵守し、国際基準に基づく管理使用を徹底し、適正な動物実験を推進しています。現在、動物福祉に関わる教育プログラムに加え、マウス発生工学およびゲノム編集にも力を入れています。

The facility provides specialized animal husbandry and support services to NCU members for work with different animals in a vivarium. The facility observes the laws for the protection and control of animals and the related laws, regulations, and controls, and uses animals strictly according to international standards, thereby promoting appropriate animal testing. The facility is also committed to services for mouse developmental engineering and genome editing as well as animal welfare education at NCU.

医学研究科不育症研究センター

Research Center for Recurrent Pregnancy Loss Affiliated With the Graduate School of Medical Sciences

不育症、先天異常、出生前診断の領域において、地域だけでなく全国から多くの患者が集まり、臨床研究を活発に行っています。平成27年4月には文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に認定され、本学のみならず国内外において不育症を中心としたヒト生殖のメカニズム解明に大きく寄与していきます。

In the fields of recurrent pregnancy loss, birth defect and prenatal diagnosis, NCU is actively carrying on clinical research with many patients not only from the surrounding community but also from all over the country. In April 2015, NCU was designated by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology as one of the Joint Usage/Research Centers, and as such the center greatly contributes to the clarification of the human reproduction mechanism concentrating on recurrent pregnancy loss not only at NCU but also at home and abroad.

薬学研究科創薬基盤科学研究所

Institute of Drug Discovery Science Affiliated With the Graduate School of Pharmaceutical Sciences

創薬基盤科学研究所は、薬学研究科の創薬関連の技術を結集し、大学発の創薬を目指す研究所として、平成23年に田辺通キャンパスの共同利用研究施設内に設立されました。その後、医学研究科、医学部附属病院、システム自然科学研究科(現:理学研究科)の協力を得て、本学の全学的な共同利用研究施設として拡充・強化を行ってきました。その結果、平成28年には、創薬基盤科学技術開発研究拠点として、文部科学省から「共同利用・共同研究拠点」の認定をうけ、全国初の創薬の入口から出口までをカバーする特色ある拠点として、また中部東海地区の創薬スクリーニング拠点として、全国レベルで共同利用・共同研究を進めています。

The Institute of Drug Discovery Science was established in 2011 within the joint research facilities on the Tanabe-dori campus as an institute to assemble drug-discovery expertise of the Graduate School of Pharmaceutical Sciences for university-launched drug discovery. Since then, with the cooperation of the Graduate School of Medical Sciences, the University Hospital and the Graduate School of Natural Sciences (Present: the Graduate School of Science), the institute has expanded and enhanced itself into a university-wide joint research facility of NCU. Consequently, in 2016, as a technical development center for drug discovery science, the institute was accredited as a Joint Usage / Research Center by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Not only as a unique facility covering the entire process of drug development but as a drug-screening base in Chubu-Tokai area, the institute promotes joint use and research on a national level.

附属研究所 Affiliated Research Institutes

経済学研究科経済研究所

Institute of Economic Research Affiliated With the Graduate School of Economics

経済研究所は、「国際的視野に立った地域経済の研究を通じて広く国際・地域経済に貢献すること」を主旨として平成8年に設立されました。アジア諸国をはじめとする世界経済との連携を考慮しつつ、中部圏の経済構造、財政、金融、労働、社会保障、さらに環境などの問題を研究し、研究成果をもとに東海地域経済の堅実な発展や住民の満足度を高めるような政策提言を行っています。

The Institute of Economic Research was established in 1996 with the main purpose of contributing to the international and regional economy at large through the research of the regional economy with a global view. Taking into consideration the integration of the world economy, especially that of Asian countries, its research topics focus on challenges facing the economy of the Chubu Region including economic structure, public finances, financial activities, labor economics, social security, and the environment. It publicizes policy proposals based on its research outcomes in order to achieve a steady economic growth in the Tokai Area and satisfy the expectations of its citizens.

人間文化研究科人間文化研究所

Institute of Studies in Humanities and Cultures Affiliated With the Graduate School of Humanities and Social Sciences

人間文化研究所は、教育・研究の充実と地域社会への貢献を目的とし、「人間・地域・共生」をキーワードに学際的な研究を推進しています。研究活動の核には、人間文化研究科教員を中心に学外の研究者も交えた複数のプロジェクト研究が挙げられます。また「年報」の発刊や市民向けの公開講演会・シンポジウム、「Human & Socialサイエンスカフェ」「マンデーサロン」などによる研究成果の発信に努めています。今後も、内外の知的交流・知の発信拠点として充実した活動を目指します。

The Institute of Studies in Humanities and Cultures is aiming at enhancing education and research, and contributing for local community. It carries out academic research with the keywords "Humanity, Community and Diversity". At the center several research projects are conducted mainly by the academic members at the Graduate School of Humanities and Social Sciences collaborating with external researchers. The Institute activities for research are publication of the "Annual Report" and open lectures and symposiums such as "Human & Social Science Café" and "Monday Salon". In order to activate academic activities, the institute provides internal as well as external opportunities for everybody.

芸術工学研究科環境デザイン研究所

Institute of Artificial Environment Design Affiliated With the Graduate School of Design and Architecture

環境デザイン研究所は、持続可能な社会の実現に向けて、物理的環境と人間の生活・活動との関係性に軸足をのいたデザインのあり方を追求するユニークな組織です。地域社会や現場の抱える具体的問題の解決に向けて、教育研究の成果をわかりやすいかたちで社会に還元する拠点として大いに期待されています。活動の成果は、市民参加のシンポジウムや公開講座などで発表を行うとともに、展示発表会を開催し、印刷媒体・電子媒体などを通じて、広く情報を社会に還元するものとなっています。

The Institute of Artificial Environment Design is a unique organization that pursues the ideal design by laying emphasis on the relation between the physical environment and human life and activities for a sustainable society. The Institute is heavily depended on as an installation for returning the results of educational research to society in an easy-to-understand way in order to solve specific problems with regional society and localities. The Institute publicizes the results of its activities at civic symposiums and extension lectures on one hand, and returns information broadly to society by holding publicity exhibitions through printed and electronic media.

理学研究科生物多様性研究センター

Research Center for Biological Diversity of the Graduate School of Science

生物多様性研究センターでは、種や遺伝子の多様性を作り出してきた進化の過程や遺伝子の環境に対する応答能力などの研究を行うほか、東海地区に固有の生物を始め、さまざまな動植物の試料の収集、保存、ならびにDNAバーコーディング等の解析を行います。地域や世界の人々の幸せのために、生物多様性の保全や持続的利用を促進する研究活動を行います。

In the Research Center for Biological Diversity we study evolutionary processes that created the diversity of species and genes, including the genetic response to environmental changes. This center also collects, preserves and analyzes various samples of animals and plants, including those of endemic species at the Tokai Area, and contributes to the DNA barcoding project internationally. We aim at facilitating the conservation and sustainable use of the biological diversity for the well-being of people in the world and in the Tokai region.

国内協定大学

Universities With Domestic Collaborative Agreements

本学は、地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化を図るため、他大学との連携・協力を積極的に取り組んでいます。

As a center of intelligence in this region, NCU is actively carrying forward collaboration and partnership with other universities in order to raise the level of education and research and distinguish its character and features.

連携協定を締結している大学

Universities With Whom NCU Has Concluded a Collaborative Agreement

大学 University	締結年月日 Concluded Date	大学 University	締結年月日 Concluded Date
①名古屋工業大学 Nagoya Institute of Technology	平成19年12月5日 December 5, 2007	⑧高知県立大学 University of Kochi	平成30年7月21日 July 21, 2018
②静岡県立大学 University of Shizuoka	平成20年1月22日 January 22, 2008	⑨愛知学院大学 Aichi Gakuin University	平成30年12月18日 December 18, 2018
③岐阜薬科大学 Gifu Pharmaceutical University	平成20年1月22日 January 22, 2008 令和2年2月21日 February 21, 2020	⑩愛知学院大学 短期大学部 Junior College Aichi Gakuin University	平成30年12月18日 December 18, 2018
④名城大学 Meijo University	平成20年2月5日 February 5, 2008	⑪藤田医科大学 Fujita Health University	平成31年3月27日 March 27, 2019
⑤大阪公立大学 Osaka Metropolitan University	平成21年3月26日 March 26, 2009	⑫豊田工業大学 Toyota Technological Institute	令和元年5月7日 May 7, 2019
⑥横浜市立大学 Yokohama City University	平成21年3月26日 March 26, 2009	⑬豊橋技術科学大学 Toyohashi University of Technology	令和3年11月29日 November 29, 2021
⑦中京大学 Chukyo University	平成30年1月16日 January 16, 2018		

国際交流協定大学

Universities With Academic Exchange Agreements

詳細は
ウェブサイトへ



① ニューサウスウェールズ大学
University of New South Wales

⑥ ハルリム大学
Hallym University

大学間交流協定 Agreements between Universities

大 学 University	国・地域 Country/Region	締結年月 Concluded Date
① ニューサウスウェールズ大学 University of New South Wales	オーストラリア Australia	平成19年1月 January 2007
② 南カリフォルニア大学 University of Southern California	アメリカ United States	平成4年9月 September 1992
③ トリノ工科大学 Politecnico di Torino	イタリア Italy	平成13年1月 January 2001
④ 南京医科大学 Nanjing Medical University	中 国 China	平成14年11月 November 2002
⑤ ウィチタ州立大学 Wichita State University	アメリカ United States	平成14年12月 December 2002
⑥ *ハルリム大学 Hallym University	韓 国 South Korea	平成18年11月 November 2006
⑦ ペーチ大学 University of Pécs	ハンガリー Hungary	平成19年1月 January 2007
⑧ パリ第13大学 University of Paris 13	フランス France	平成19年5月 May 2007
⑨ 瀋陽医学院 Shenyang Medical College	中 国 China	平成20年12月 December 2008
⑩ ライプツィヒ応用科学大学 Leipzig University of Applied Sciences	ドイツ Germany	平成21年3月 March 2009
⑪ マレーシア国民大学 National University of Malaysia	マレーシア Malaysia	平成22年3月 March 2010
⑫ ベトナム国立大学ホーチミン校 University of Science-Vietnam National University-Ho Chi Minh City	ベトナム Vietnam	平成22年3月 March 2010
⑬ サンテティエンヌ大学アート・デザイン学校 Saint-Etienne Higher School of Art and Design (ESADSE)	フランス France	平成22年6月 June 2010
⑭ 中央民族大学 Minzu University of China	中 国 China	平成22年6月 June 2010
⑮ 瀋陽薬科大学 Shenyang Pharmaceutical University	中 国 China	平成22年8月 August 2010
⑯ バドヴァ大学 Università degli Studi di Padova	イタリア Italy	平成23年2月 February 2011
⑰ 南ソウル大学 Namseoul University	韓 国 South Korea	平成23年4月 April 2011
⑱ シャルジャ大学 University of Sharjah	アラブ首長国連邦 United Arab Emirates	平成23年6月 June 2011
⑲ *ルートヴィクスハーフェン経済大学 Ludwigshafen University of Applied Sciences	ドイツ Germany	平成23年12月 December 2011
⑳ マドリード工科大学 Universidad Politécnica de Madrid	スペイン Spain	平成24年9月 September 2012
㉑ *サント・トマス大学 University of Santo Tomas	フィリピン Philippines	平成24年11月 November 2012
㉒ 黒竜江中医学大学 Heilongjiang University of Chinese Medicine	中 国 China	平成25年10月 October 2013
㉓ *ハジェテペ大学 Hacettepe University	トルコ Turkey	平成26年10月 October 2014
㉔ 国立モンゴル医科大学 Mongolian National University of Medical Sciences	モンゴル Mongolia	平成27年3月 March 2015
㉕ モンペリエール・ポール・ヴァレリー大学 University Paul-Valery Montpellier 3	フランス France	平成27年12月 December 2015
㉖ 文藻外語大学 Wenzao Ursuline University of Languages	台 湾 Taiwan	平成28年3月 March 2016
㉗ 忠南大学 Chungnam National University	韓 国 South Korea	平成28年7月 July 2016
㉘ バレンシア大学 University of Valencia	スペイン Spain	平成28年7月 July 2016
㉙ 常州大学 Changzhou University	中 国 China	平成28年11月 November 2016
㉚ 天津中医学大学 Tianjin University of Traditional Chinese Medicine	中 国 China	平成28年11月 November 2016
㉛ タマサート大学 Thammasat University	タ イ Thailand	平成28年11月 November 2016
㉜ 中国薬科大学 China Pharmaceutical University	中 国 China	平成29年1月 January 2017
㉝ ハサヌディン大学 Universitas Hasanuddin	インドネシア Indonesia	平成29年5月 May 2017
㉞ ミシガン州立大学 Michigan State University	アメリカ United States	平成29年6月 June 2017
㉟ 貿易大学 Foreign Trade University	ベトナム Vietnam	平成29年7月 July 2017
㊱ ウェスタン大学 University of Western Ontario	カナダ Canada	平成29年9月 September 2017
㊲ マネージメント科学大学 Management and Science University	マレーシア Malaysia	平成30年3月 March 2018
㊳ パーツ大学 Universidade da Paz	東ティモール East Timor	平成30年3月 March 2018
㊴ 台北医学大学 Taipei Medical University	台 湾 Taiwan	平成30年7月 July 2018
㊵ *プリンスオブソクラー大学 Prince of Songkla University	タ イ Thailand	平成30年8月 August 2018
㊶ スタジオスクール Studio School	アメリカ United States	平成30年8月 August 2018
㊷ ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学 University of Reims Champagne-Ardenne	フランス France	平成30年11月 November 2018
㊸ フィリピン大学マニラ校 University of the Philippines Manila	フィリピン Philippines	平成31年2月 February 2019
㊹ ヴェローナ大学 Università di Verona	イタリア Italy	平成31年2月 February 2019
㊺ チュンアン大学 Chung-ang University	韓 国 South Korea	令和元年7月 July 2019
㊻ 中国東北林業大学 Northeast Forestry University	中 国 China	令和元年8月 August 2019
㊼ アクファ大学 Akfa University	ウズベキスタン Uzbekistan	令和2年7月 July 2020
㊽ ブラウィジャヤ大学 Universitas Brawijaya	インドネシア Indonesia	令和2年7月 July 2020
㊾ カルガリー大学 University of Calgary	カナダ Canada	令和3年4月 April 2021
㊿ タシケント医学アカデミー Tashkent Medical Academy	ウズベキスタン Uzbekistan	令和3年10月 October 2021

*海外拠点設置合意校 [Contact Point]

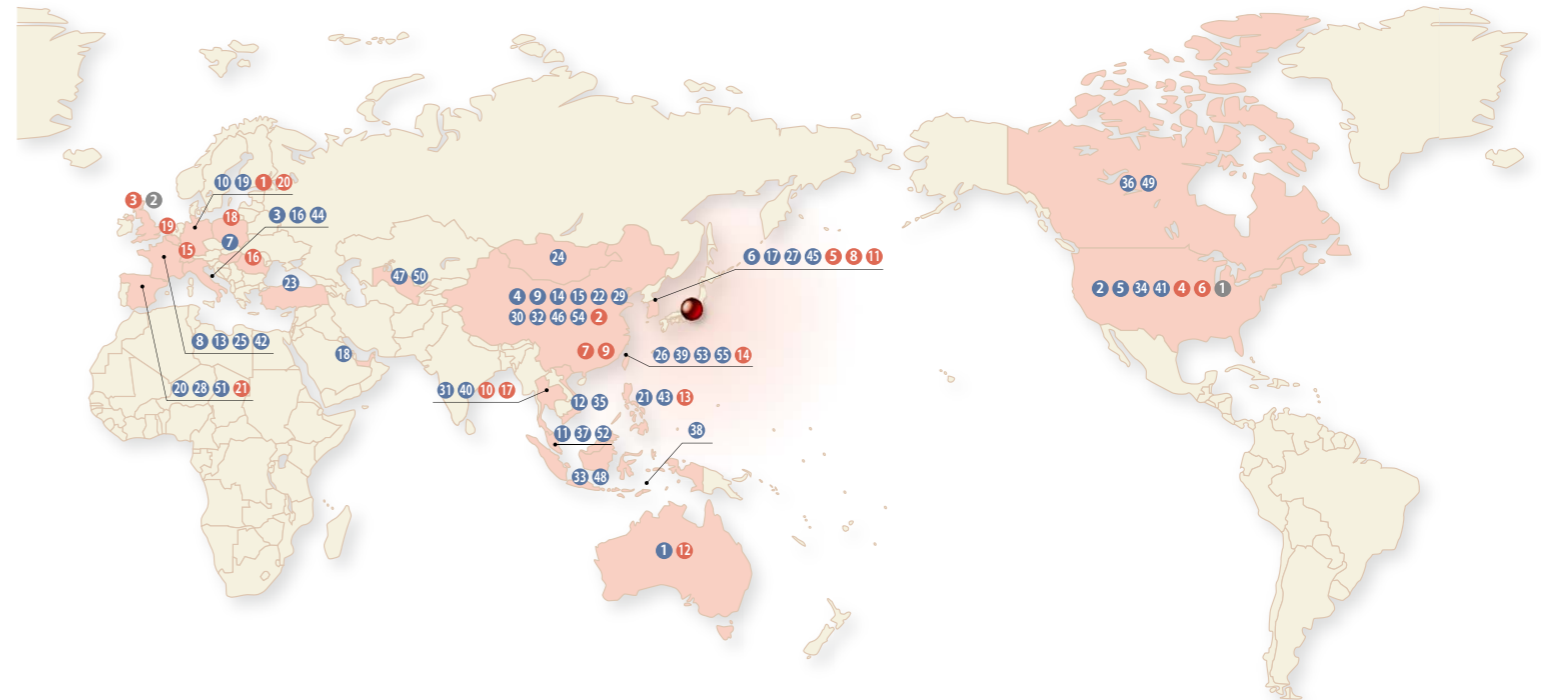
大 学 University	国・地域 Country/Region	締結年月 Concluded Date
① ジャウメ1世大学 Universidad Jaume I	スペイン Spain	令和3年12月 December 2021
② マレーシア科学大学 Universiti Sains Malaysia	マレーシア Malaysia	令和4年3月 March 2022
③ 国立台北護理健康大学 National Taipei University of Nursing and Health Sciences	台 湾 Taiwan	令和4年3月 March 2022
④ 南京曉庄学院 Nanjing Xiaozhuang University	中 国 China	令和4年10月 October 2022
⑤ 台北市立大学 University of Taipei	台 湾 Taiwan	令和5年2月 February 2023

学部間等交流協定 Agreements between Faculties

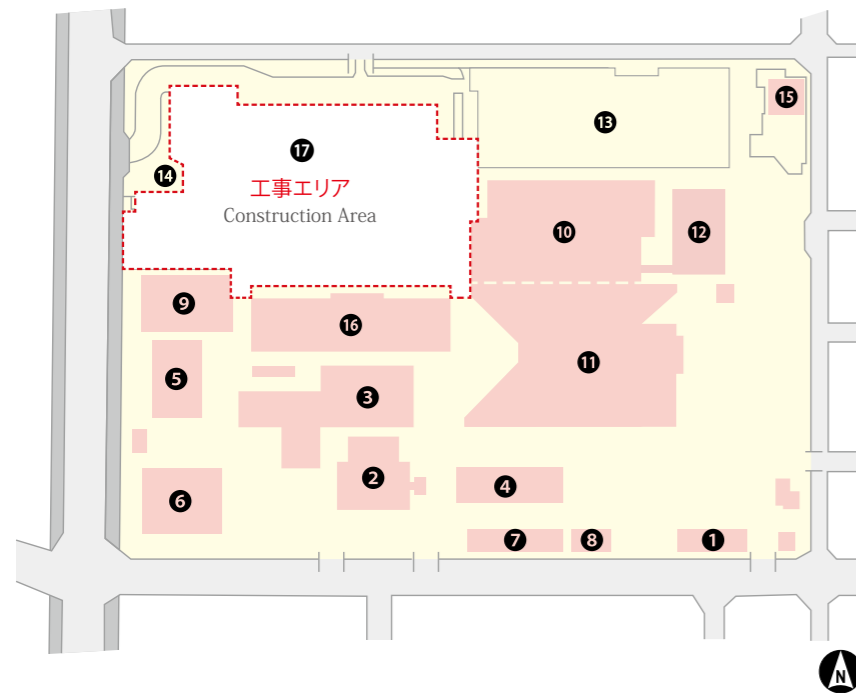
大 学 University	国・地域 Country/Region	学 部・学 科 Faculty/Department of NCU	締結年月 Concluded Date
① ハレ・ヴィッテンベルク-マルティン・ルター大学 Martin-Luther-University Halle-Wittenberg	ドイツ Germany	人文社会学部 School of Humanities and Social Sciences	平成7年2月 February 1995
② 中国社会科学院日本研究所 Institute of Japanese Studies,CASS	中 国 China	経済学部 Faculty of Economics	平成9年10月 October 1997
③ ノッティンガム大学 University of Nottingham	イギリス United Kingdom	芸術工学部 School of Design and Architecture	平成24年12月 December 2012
④ メリーランド芸術大学 Maryland Institute College of Art	アメリカ United States	芸術工学部 School of Design and Architecture	平成25年4月 April 2013
⑤ 檀国大学 College of Arts and Design, Dankook University	韓 国 South Korea	芸術工学部 School of Design and Architecture	平成25年6月 June 2013
⑥ ミシガン大学 College of Pharmacy, University of Michigan	アメリカ United States	薬学部 Faculty of Pharmaceutical Sciences	平成27年6月 June 2015
⑦ 香港浸会大学 School of Chinese Medicine, Hong Kong Baptist University	香 港 Hong Kong	薬学部 Faculty of Pharmaceutical Sciences	平成28年2月 February 2016
⑧ 梨花女子大学 Ewha Womans University	韓 国 South Korea	薬学部 Faculty of Pharmaceutical Sciences	平成28年9月 September 2016
⑨ 香港大学 University of Hong Kong	香 港 Hong Kong	薬学部 Faculty of Pharmaceutical Sciences	平成28年10月 October 2016
⑩ タマサート大学・チュラボン国際医学部 Thammasat University, Chulabhorn International College of Medicine	タ イ Thailand	医学部 Medical School	平成28年11月 November 2016
⑪ 漢陽大学 Han Yang University	韓 国 South Korea	医学部 Medical School	平成29年10月 October 2017
⑫ ボンド大学 Bond University	オーストラリア Australia	医学部 Medical School	平成30年7月 July 2018
⑬ デラ・サル大学 De La Salle University	フィリピン Philippines	人文社会学部 School of Humanities and Social Sciences	平成31年2月 February 2019
⑭ 国立成功大学 National Cheng Kung University	台 湾 Taiwan	医学部 Medical School	平成31年3月 March 2019
⑮ 西スイス応用科学技術大学 University of Applied Sciences and Arts Western Switzerland	スイス Switzerland	芸術工学部 School of Design and Architecture	令和元年6月 June 2019
⑯ ブカレスト工科大学 University Politehnica of Bucharest	ルーマニア Romania	芸術工学部 School of Design and Architecture	令和元年12月 December 2019
⑰ コンケン大学 Khon Kaen University	タ イ Thailand	医学部 Medical School	令和元年12月 December 2019
⑱ ヴロツワフ美術大学 The Eugeniusz Geppert Academy Art and Design in Wroclaw	ポーランド Poland	芸術工学部 School of Design and Architecture	令和元年12月 December 2019
⑲ ルカスクールオブアーツ LUCA School of Arts	ベルギー Belgium	芸術工学部 School of Design and Architecture	令和2年1月 January 2020
㉑ ハノーファー大学 Leibniz University Hannover	ドイツ Germany	経済学部 Faculty of Economics	令和4年8月 August 2022
㉒ ラリオハデザイン学校 Escuela Superior de Diseño de La Rioja	スペイン Spain	芸術工学部 School of Design and Architecture	令和5年1月 January 2023

■スタディーアブロードプログラム Study Abroad Program

大 学 University	国 Country	学 部・学 科 Faculty/Department of NCU	締結年月 Concluded Date
① バックネル大学 Bucknell University	アメリカ United States	人文社会学部 School of Humanities and Social Sciences	平成16年11月 November 2004
② クイーンズ大学国際学習センター Queen's University, Bader International Study Centre	イギリス United Kingdom	人文社会学部 School of Humanities and Social Sciences 経済学部 Faculty of Economics	平成19年5月 May 2007 平成20年9月 September 2008



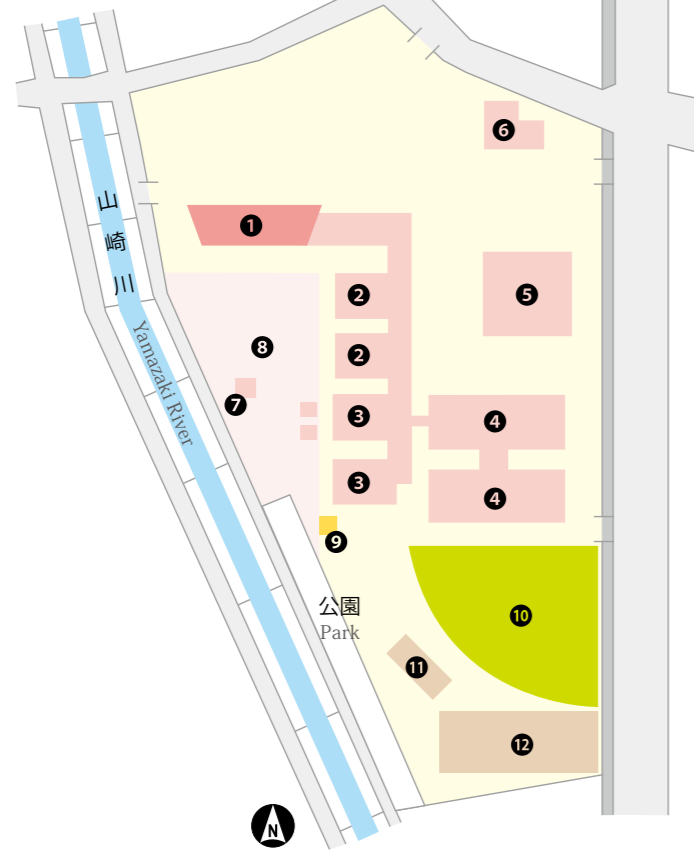
桜山(川澄)キャンパス
Sakurayama (Kawasumi) Campus



- ①本部棟
- ②総合情報センター川澄分館(図書館)・さくら講堂
- ③医学研究科・医学部研究棟
- ④医学部基礎教育棟
- ⑤医学研究科脳神経科学研究所・
医学研究科アイソトープ研究室
- ⑥実験動物研究教育センター
- ⑦厚生会館(西棟)
- ⑧厚生会館(東棟)
- ⑨看護学部棟
- ⑩附属病院(外来診療棟)
- ⑪附属病院(病棟・中央診療棟)
- ⑫附属病院(東棟/喜谷記念がん治療センター)
- ⑬附属病院立体駐車場
- ⑭地下鉄桜通線桜山駅3番出入口
- ⑮さくらんぼ保育所
- ⑯西棟
- ⑰救急・災害医療センター(仮称)建設工事エリア

- ①Administration Building
- ②Library and Information Processing Center
Kawasumi Branch, Sakura Auditorium
- ③Medical School (Research Medicine)
- ④Medical School (Fundamental Education)
- ⑤Institute of Brain Science
and Laboratory of Radioisotope Research
- ⑥Laboratory Animal Facility
- ⑦Welfare Hall (West)
- ⑧Welfare Hall (East)
- ⑨School of Nursing
- ⑩University Hospital (Outpatient Facility)
- ⑪University Hospital (Wards/Medical Center Building)
- ⑫University Hospital (East Wing/Kidani Memorial Cancer Center)
- ⑬University Multistory car park for Visitors
- ⑭Subway Exit (Sakuradori Line Sakurayama Station)
- ⑮Sakuranbo Nursery
- ⑯West Building
- ⑰Emergency and Disaster Medical Center
(tentative name) Construction Area

田辺通キャンパス
Tanabe-Dori Campus



- ①カフェテリア
- ②講義・図書館棟
(総合情報センター田辺通分館(図書館))
- ③実習棟
- ④研究棟
- ⑤先端薬学研究施設・共同利用研究施設・
創薬基盤科学研究所
- ⑥薬友会館
- ⑦温室
- ⑧薬用植物園
- ⑨クラブハウス
- ⑩野球場
- ⑪厩舎
- ⑫馬場

- ①Cafeteria
- ②Lecture, Library Building
(Library and Information Processing Center
Tanabe-dori Branch)
- ③Pharmaceutical Training Building
- ④Research Building
- ⑤Advanced Pharmaceutical Science Center,
Instrument Center and Institute of
Drug Discovery Science
- ⑥Alumni Hall (Yakuyu Kaikan)
- ⑦Greenhouse
- ⑧Experimental Station For Medical Plant Research
- ⑨Club House
- ⑩Baseball Ground
- ⑪Stables
- ⑫Horse Track

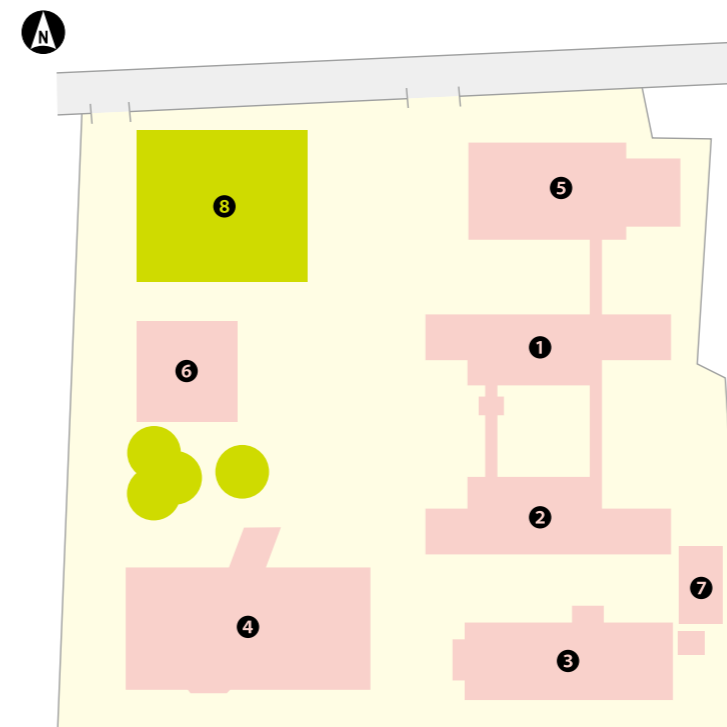
滝子(山の畑)キャンパス
Takiko (Yamanohata) Campus



- ①1号館(人文社会学部・総合生命理学部・
都市政策研究センター)
- ②2号館(教養教育・保健管理センター)
- ③3号館(経済学部・データサイエンス学部・
国際交流センター・キャリア支援センター)
- ④4号館(総合生命理学部・データサイエンス学部)
- ⑤5号館(総合生命理学部)
- ⑥6号館(総合情報センター・データサイエンス学部)
- ⑦体育学研究棟(総合生命理学部)
- ⑧総合情報センター山の畑分館(図書館)
- ⑨体育館・卓球場・武道場
- ⑩学生会館(食堂・生協)
- ⑪プール
- ⑫クラブハウス
- ⑬文化系サークル施設
- ⑭テニスコート
- ⑮弓道場
- ⑯トレーニングルーム
- ⑰TAKI teria

- ①Building No.1 (School of Humanities and Social Sciences・
School of Biology and Integrated Sciences・Center for
Urban Policy Research and Education)
- ②Building No.2 (Liberal Arts Education・Health Center)
- ③Building No.3 (Faculty of Economics・School of Data Science・
International Exchange Center・Career Support Center)
- ④Building No.4 (School of Biology and Integrated Sciences・
School of Data Science)
- ⑤Building No.5 (School of Biology and Integrated Sciences)
- ⑥Building No.6 (Library and Information Processing Center・
School of Data Science)
- ⑦Research Building in Physical Education
(School of Biology and Integrated Sciences)
- ⑧Library and Information Processing Center
Yamanohata Branch
- ⑨Gymnasium・Table Tennis Room・Martial Arts Hall
- ⑩Students' Hall (Cafeteria・Co-op Shop)
- ⑪Swimming Pool
- ⑫Club House
- ⑬Facility for Cultural Activities
- ⑭Tennis Court
- ⑮Archery Range
- ⑯Training Room
- ⑰TAKI teria

北千種キャンパス
Kita Chikusa Campus



- ①芸術工学部管理棟
- ②芸術工学部研究棟
- ③芸術工学部工房棟
- ④芸術工学部芸術工学棟
- ⑤総合情報センター北千種分館(図書館)・大講義室
- ⑥アセンブリーホール
- ⑦環境測定棟
- ⑧スポーツコート

- ①School of Design and Architecture (Administration Wing)
- ②School of Design and Architecture (Research Wing)
- ③School of Design and Architecture (Studio Wing)
- ④Main Hall
- ⑤Library and Information Processing Center
Kita Chikusa Branch, Large Lecture Hall
- ⑥Assembly Hall
- ⑦Environment Measurement Building
- ⑧Sports Court



滝子(山の畑)キャンパス

〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1
 経済学部・経済学研究科、人文社会学部・人間文化研究科、
 総合生命理学部・理学研究科、データサイエンス学部
 総合情報センター
 ●地下鉄 桜通線「桜山」駅下車⑤出口から徒歩12分
 ●市バス 金山駅金山②のりばより金山11・12・16「滝子」下車
 ・金山駅金山⑧のりばより金山14(桜山経由)
 「滝子」下車

Takiko (Yamanohata) Campus

1, Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8501
 Faculty of Economics, Graduate School of Economics; School of Humanities and Social Sciences,
 Graduate School of Humanities and Social Sciences;
 School of Biology and Integrated Sciences, Graduate School of Science, School of Data Science;
 Library and Information Processing Center
 ●Subway:
 ・12 min on foot from Exit 5 of "Sakurayama," Sakura-dori Line
 ●City bus:
 ・Take "Kanayama Route 11, 12 or 16" bus at Kanayama Depot 7, and get off at "Takiko."
 ・Take "Kanayama Route 14 (via Sakurayama)" bus at Kanayama Depot 8, and get off at "Takiko."

桜山(川澄)キャンパス・
 名古屋市立大学病院

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
 医学部・医学研究科、附属病院、看護学部・看護学研究科
 ●地下鉄 桜通線「桜山」駅下車③出口よりすぐ
 ●市バス 金山駅金山⑦のりばより金山12「市立大学病院」下車
 ・金山駅金山⑧のりばより金山14(桜山経由)
 「市立大学病院」下車

Sakurayama (Kawasumi) Campus
 Nagoya City University Hospital

1, Kawasumi, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8601
 Medical School, Graduate School of Medical Sciences;
 University Hospital; School of Nursing, Graduate School of Nursing
 ●Subway:
 ・Right by Exit 3 of "Sakurayama," Sakura-dori Line
 ●City bus:
 ・Take "Kanayama Route 12" bus at Kanayama Depot 7,
 and get off at "Shiritsu Daigaku Byoin."
 ・Take "Kanayama Route 14 (via Sakurayama)" bus at
 Kanayama Depot 8, and get off at "Shiritsu Daigaku Byoin."

田辺通キャンパス

〒467-8603 名古屋市瑞穂区田辺通3-1
 薬学部・薬学研究科
 ●地下鉄 桜通線「瑞穂区役所」駅下車①出口から徒歩15分
 ●市バス 金山駅金山⑦のりばより金山16「市大薬学部」下車
 ・金山駅金山⑧のりばより金山14「市大薬学部」下車

Tanabe-dori Campus

3-1, Tanabe-dori, Mizuho-ku, Nagoya 467-8603
 Faculty of Pharmaceutical Sciences,
 Graduate School of Pharmaceutical Sciences
 ●Subway:
 ・15 min on foot from Exit 1 of "Mizuho Kuyakusho Sta."
 Sakura-dori Line
 ●City bus:
 ・Take "Kanayama Route 16" bus at Kanayama Depot 7,
 and get off at "Shidai Yakugakubu."
 ・Take "Kanayama Route 14" bus at Kanayama Depot 8,
 and get off at "Shidai Yakugakubu."

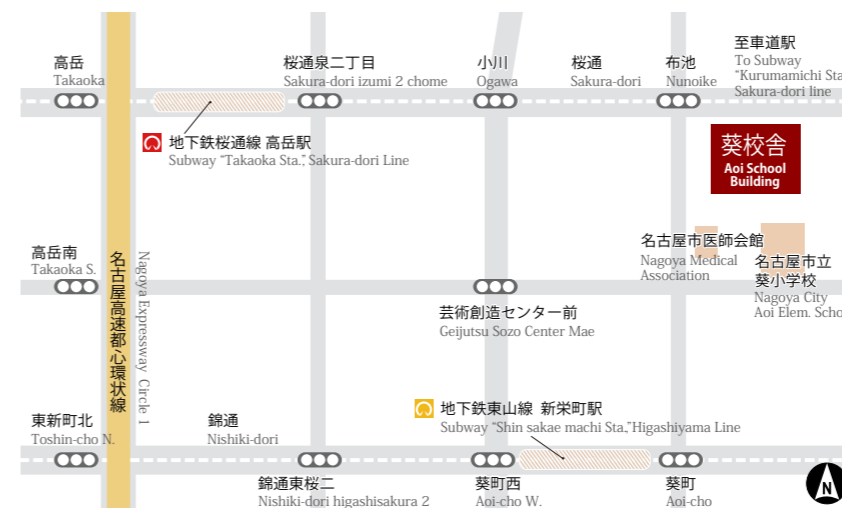


北千種キャンパス

〒464-0083 名古屋市千種区北千種二丁目1-10
 芸術工学部・芸術工学研究科
 ●市バス 名古屋駅⑩のりばより基幹2「萱場(かやば)」下車
 ・地下鉄栄駅 栄オアシス21③のりばより
 基幹2「萱場(かやば)」下車
 ・地下鉄栄駅 栄路上バスのりば(北ゆき)より
 基幹2「萱場(かやば)」下車
 ・地下鉄千種駅②のりばより千種11「清明山」下車
 ・地下鉄池下駅③のりばより幹砂田1「清明山」下車

Kita Chikusa Campus

2-1-10, Kita Chikusa, Chikusa-ku, Nagoya 464-0083
 School of Design and Architecture,
 Graduate School of Design and Architecture
 ●City bus:
 ・Take Key Route 2 bus at Nagoya Railway Station
 Depot 10, and get off at "Kayaba."
 ・Take Key Route 2 bus at Sakae Oasis 21 Depot 3,
 Subway Sakae Station, and get off at "Kayaba."
 ・Take Key Route 2 bus at Sakae Street Bus Depot (Northbound),
 Subway Sakae Station, and get off at "Kayaba."
 ・Take "Chikusa Route 11" bus at Subway Sakae Station Depot 2,
 and get off at "Seimeiyama."
 ・Take Key Route Sunada 1 bus at Subway Ikeshita Station
 Depot 3, and get off at "Seimeiyama."



葵校舎

〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵一丁目4番7号
 看護学部
 ●地下鉄 東山線「新栄町」駅より徒歩5分
 ・桜通線「高岳」駅より徒歩8分
 ・桜通線「車道」駅より徒歩8分

Aoi School Building

1-4-7, Aoi, Higashi-ku, Nagoya, Aichi 461-0004
 School of Nursing
 ●Subway:
 ・5 min on foot from "Shin sakae machi Sta." Higashiyama Line
 ・8 min on foot from "Takaoka Sta." Sakura-dori Line
 ・8 min on foot from "Kurumamichi Sta." Sakura-dori Line



名古屋市立大学医学部附属
東部医療センター

- 〒464-8547 愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号
- 地下鉄
 - ・東山線・桜通線「今池」駅より徒歩約10分
 - ・東山線「池下」駅より徒歩約13分
 - 市バス
 - ・地下鉄千種駅①のりばより千種13、②のりばより千種11「東部医療センター」下車すぐ
 - ・地下鉄池下駅④のりばより池下11・千種巡回、⑤のりばより池下11「東部医療センター」下車すぐ
 - ・地下鉄今池駅⑥のりばより池下11・千種巡回・東巡回、⑦のりばより池下11・千種巡回、⑧のりばより池下11「東部医療センター」下車すぐ
 - ・地下鉄砂田橋駅④のりばより東巡回、⑥のりばより千種11「東部医療センター」下車すぐ
 - ・地下鉄大曾根駅①・⑤のりばより吹上11「都通二丁目」下車、徒歩約5分

Nagoya City University
East Medical Center

- 1-2-23, Wakamizu, Chikusa-ku, Nagoya, Aichi 464-8547
- Subway:
 - ・10 min on foot from Exit 3 of "Imaike Sta." Higashiyama Line or Sakura-dori Line
 - ・13 min on foot from Exit 1 of "Ikeshita Sta." Higashiyama Line

- City bus:
 - ・Take "Chikusa Route 13" bus at Subway Chikusa Station Depot 1 or "Chikusa Route 11" bus at Subway Chikusa Station Depot 2, and get off at "Tobu Iryo Center."
 - ・Take "Ikeshita Route 11 or Chikusa Circuit Route" bus at Subway Ikeshita Station Depot 4 or "Ikeshita Route 11" bus at Subway Ikeshita Station Depot 8, and get off at "Tobu Iryo Center."
 - ・Take "Ikeshita Route 11, Chikusa Route 11, Chikusa Circuit Route or East Circuit Route" bus at Subway Imaike Station Depot 0 or "Ikeshita Route 11 or Chikusa Circuit Route" bus at Subway Imaike Station Depot 5 or "East Circuit Route" bus at Subway Imaike Station Depot 9 or "Chikusa Route 13" bus at Subway Imaike Station Depot 10, and get off at "Tobu Iryo Center."
 - ・Take "East Circuit Route" bus at Subway Sunadabashi Station Depot 4 or "Chikusa Route 11" bus at Subway Sunadabashi Station Depot 6, and get off at "Tobu Iryo Center."
 - ・Take "Fukiage Route 11" bus at Subway Ozone Station Depot 1 or 5, and get off at "Miyakodori 2-chome." 5 min on foot from the exit depot.



名古屋市立大学医学部附属
みどり市民病院

- 〒458-0037 愛知県名古屋市緑区潮見が丘一丁目77番地
- 市バス
 - ・地下鉄鳴子北駅①のりばより鳴子14、③のりばより幹鳴子1、鳴子13、鳴子15「緑市民病院」下車すぐ
 - ・名鉄名古屋本線鳴海駅①のりばより鳴子15、新瑞12「緑市民病院」下車すぐ
 - ・名鉄名古屋本線「鳴海」駅より徒歩約15分
 - 名鉄

Nagoya City University
Midori Municipal Hospital

- 1-77 Shiomigaoka, Midori-ku, Nagoya, Aichi 458-0037
- City bus:
 - ・Take "Naruko 14" bus at Subway Naruko Kita Station Depot 1, or "Kan-Naruko 1, Naruko 13, Naruko 15" bus at Subway Naruko Kita Station Depot 3, and get off at "Midori Shimin Byoin"
 - ・Take "Naruko 15, Aratama 12" bus at Meitetsu Nagoya Main Line Narumi Station Depot 1, and get off at "Midori Shimin Byoin"
 - Meitetsu:
 - ・15 min on foot from "Narumi Sta." Meitetsu Nagoya Main Line



名古屋市立大学医学部附属
西部医療センター

- 〒462-8508 愛知県名古屋市北区平手町1丁目1番地の1
- 地下鉄
 - ・名城線「黒川」駅より徒歩約15分
 - ・鶴舞線「庄内通」駅より徒歩約15分
 - 市バス
 - ・地下鉄栄駅②・③のりばより栄11「西部医療センター」下車すぐ
 - ・(時間帯により)志賀公園前「下車徒歩約2分」
 - ・地下鉄黒川駅⑤のりばより幹栄1・名駅15・北巡回、⑦のりばより幹栄1「西部医療センター」下車すぐ
 - ・JR・名鉄・近鉄・地下鉄・あおなみ線名古屋駅バスターミナル⑦のりばより名駅15「西部医療センター」下車すぐ
 - ⑥のりばより名駅13「又穂住宅東」下車、徒歩約6分

Nagoya City University
West Medical Center

- 1-1-1, Hirate-cho, Kita-ku, Nagoya, Aichi 462-8508
- Subway:
 - ・About 15 min on foot from Exit 2 or 3 of "Kurokawa Sta." Meijo Line
 - ・About 15 min on foot from Exit 1 of "Shonai-dori Sta." Tsurumai Line
 - City bus:
 - ・Take "Sakae Route 11" bus at Subway Sakae Station Depot 2 or 25, and get off at "Seibu Iryo Center" (or, depending on the time of day, at "Shiga Koen Mae." About 2 min from the exist).
 - ・Take "Sakae Key Route 1, Meieki 15 or North Circuit Route" bus at Subway Kurokawa Station Depot 5 or "Sakae key Route 1" bus at Subway Kurokawa Station Depot 7, and get off at "Seibu Iryo Center."
 - ・Take "Meieki Route 15" bus at JR, Meitetsu, Kintentsu, subway or Aonami Line Nagoya Station Bus Terminal Depot 7, and get off at "Seibu Iryo Center," or take "Meieki Route 13" bus at JR, Meitetsu, Kintentsu, subway or Aonami Line Nagoya Station Bus Terminal Depot 6, and get off at "Mataho Jutaku Higashi." About 6 min on foot from the exit depot.



名古屋市立大学医学部附属
みらい光生病院

- 〒465-8650 愛知県名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地
- 地下鉄
 - ・東山線「本郷」駅より徒歩約20分
 - 市バス
 - ・地下鉄本郷駅①・②のりばより幹本郷1「障害者スポーツセンター」下車、南へ徒歩約2分
 - ・地下鉄平針駅①のりばより幹本郷1「障害者スポーツセンター」下車、南へ徒歩約4分

Nagoya City University
Mirai Kousei Hospital

- 2-1501 Sekobō Meito-ku, Nagoya, Aichi 465-8650
- Subway:
 - ・20 min on foot from "Hongo Sta."
 - City bus:
 - ・Take "Kan-Hongo 1" bus at Subway Hongo Station Depot 1 or 2, and get off at "Shogaisha Sports Center", 2 min on foot to the south.
 - ・Take "Kan-Hongo 1" bus at Subway Hirabari Station Depot 1, and get off at "Shogaisha Sports Center", 4 min on foot to the south.

歴代理事長・学長

Successive Chairperson and President

学長 President	戸谷 銀三郎 TOTANI Ginzaburo	昭和25年4月1日～昭和32年3月31日 April 1, 1950 - March 31, 1957
	吉田 義治 YOSHIDA Yoshiharu	昭和32年4月1日～昭和32年7月19日(代理) April 1, 1957 - July 19, 1957 (acting)
	内野 仙治 UCHINO Senji	昭和32年7月20日～昭和32年9月20日 July 20, 1957 - September 20, 1957
	吉田 義治 YOSHIDA Yoshiharu	昭和32年9月21日～昭和32年12月9日(代理) September 21, 1957 - December 9, 1957 (acting)
	木村 廉 KIMURA Ren	昭和32年12月10日～昭和38年12月9日 December 10, 1957 - December 9, 1963
	萩野 柳太郎 HAGINO Ryutaro	昭和38年12月10日～昭和46年12月9日 December 10, 1963 - December 9, 1971
	佐藤 壽昌 SATO Hisamasa	昭和46年12月10日～昭和47年7月31日(代理) December 10, 1971 - July 31, 1972 (acting)
	高木 健太郎 TAKAGI Kentaro	昭和47年8月1日～昭和55年1月13日 August 1, 1972 - January 13, 1980
	蜂須賀 養悦 HACHISUKA Yoetsu	昭和55年1月14日～昭和55年3月23日(代理) January 14, 1980 - March 23, 1980 (acting)
	柴田 清人 SHIBATA Kiyohito	昭和55年3月24日～昭和63年3月23日 March 24, 1980 - March 23, 1988

学長 President	蜂須賀 養悦 HACHISUKA Yoetsu	昭和63年3月24日～平成6年3月23日 March 24, 1988 - March 23, 1994
	伊東 信行 ITO Nobuyuki	平成6年3月24日～平成12年3月31日 March 24, 1994 - March 31, 2000
	和田 義郎 WADA Yoshiro	平成12年4月1日～平成17年8月22日 April 1, 2000 - August 22, 2005
	内藤 能房 NAITO Yoshifusa	平成17年8月23日～平成17年9月19日(代理) August 23, 2005 - September 19, 2005 (acting)
	西野 仁雄 NISHINO Hitoo	平成17年9月20日～平成18年3月31日 September 20, 2005 - March 31, 2006
理事長・ 学長 Chairperson and President	西野 仁雄 NISHINO Hitoo	平成18年4月1日～平成22年3月31日 April 1, 2006 - March 31, 2010
	戸苅 創 TOGARI Hajime	平成22年4月1日～平成26年3月31日 April 1, 2010 - March 31, 2014
理事長 Chairperson	郡 健二郎 KOHRI Kenjiro	平成26年4月1日～令和4年3月31日 April 1, 2014 - March 31, 2022
	郡 健二郎 KOHRI Kenjiro	令和4年4月1日～現在 April 1, 2022 - present
学長 President	浅井 清文 ASAI Kiyofumi	

同窓会

Alumni Associations

令和5年4月1日現在 As of April 1, 2023

同窓会名 Alumni name	学部・研究科等名 Faculty/Graduate School	会長 President	連絡先 Contact
瑞友会 一般社団法人 名古屋市立大学 医学部同窓会 "Zuiyukai," Alumni Association of Medical School Nagoya City University	医学部 Medical School	松本 隆 MATSUMOTO Takashi	〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 名古屋市立大学医学部同窓会 瑞友会 事務局 Secretariat, Alumni Association of Medical School "Zuiyukai," Nagoya City University, 1 Kawasumi, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8601 Japan TEL:052-853-8084 FAX:052-842-7361 Email:info@zuiyukai.com
薬友会 Yakuyukai	薬学部 Faculty of Pharmaceutical Sciences	河村 典久 KAWAMURA Norihisa	〒467-8603 名古屋市瑞穂区田辺通3-1 名古屋市立大学薬友会 事務局 Secretariat, Alumni Association of Faculty of Pharmaceutical Sciences "Yakuyukai," Nagoya City University, 3-1 Tanabe-dori, Mizuho-ku, Nagoya 467-8603 Japan Email: shomu@phar.nagoya-cu.ac.jp
瑞山会 Zuizankai	経済学部 Faculty of Economics	村井 清 MURAI Kiyoshi	〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 名古屋市立大学経済学部同窓会 Alumni Association of Faculty of Economics, Nagoya City University, 1 Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8501 Japan E-mail: zuizankai@econ.nagoya-cu.ac.jp
剣陵会 Kenryoukai	経済学研究科 Graduate School of Economics	杉本 和夫 SUGIMOTO Kazuo	〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 名古屋市立大学大学院経済学研究科同窓会 剣陵会 Alumni Association of Graduate School of Economics "Kenryoukai," Nagoya City University, 1 Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8501 Japan Email: sugimoto@na2.synnet.or.jp
瑞桜会 Zuioukai	人文社会学部 School of Humanities and Social Sciences	野村 圭一 NOMURA Keiichi	〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 名古屋市立大学人文社会学部同窓会 Alumni Association of School of Humanities and Social Sciences, Nagoya City University, 1 Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8501 Japan Email: alumni@ncuhum.jp
萱光会 Kenkoukai	芸術工学部 School of Design and Architecture	平野 佑典 HIRANO Yusuke	〒464-0083 名古屋市千種区北千種二丁目1番10号 名古屋市立大学芸術工学部同窓会 Alumni Association of School of Design and Architecture, Nagoya City University, 2-1-10 Kita Chikusa, Chikusa-ku, Nagoya 464-0083 Japan Email: kenkoukai@sda.nagoya-cu.ac.jp
看桜会 看護学部同窓会 "Kanoukai" Alumni Association of School of Nursing	看護学部 School of Nursing	平岡 翠 HIRAOKA Sui	〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 名古屋市立大学看護学部同窓会 理事 澤田 美和 Director SAWADA Miwa, Alumni Association of School of Nursing, Nagoya City University, 1 Kawasumi, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8601 Japan TEL:052-853-8417
瑞滝会 理学同窓会 "Zuiroukai" Alumni Association of School of Science	総合生命理学部 School of Biology and Integrated Sciences 理学研究科 Graduate School of Science	對馬 明 TSUSHIMA Akira	〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1 大学院理学研究科 実験・研究支援室内 理学同窓会事務局 Secretariat, Alumni Association of School of Science c/o Experimental Study Support Office, Graduate School of Science, 1 Yamanohata, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8501 Japan E-mail: dousoukai@nsc.nagoya-cu.ac.jp
同窓会さわらび Alumni Association Sawarabi	旧名古屋市立保育短期大学 Formerly, Nagoya City College of Child Education	小笠原 瑞枝 OGASAWARA Mizue	会長 小笠原 瑞枝 President OGASAWARA Mizue TEL:0594-31-6884

名古屋市立大学交流会

Nagoya City University KORYUKAI (Exchange Association)

令和5年4月1日現在 As of April 1, 2023

「名古屋市立大学交流会」は名古屋市立大学、名古屋市立女子短期大学及び名古屋市立保育短期大学の卒業生や在学生、退職・退官された教職員、現任教職員等を会員とする全学レベルの同窓会組織です。

Nagoya City University KORYUKAI is a university-wide alumni society whose membership consists of graduates, current students, retired and current faculties, working faculty, etc. of Nagoya City University, Nagoya Municipal Women's College, and Nagoya City College of Child Education.

会長 津田 喬子
連絡先:〒467-8601名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
名古屋市立大学交流会事務局(名古屋市立大学 総務課内)
President TSUDA Takako
Secretariat, Nagoya City University "KORYUKAI,"
c/o General Affairs Div., Nagoya City University,
1 Kawasumi, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8601 Japan
TEL:052-853-8005 FAX:052-841-6201
Email: koryukai@sec.nagoya-cu.ac.jp

お問い合わせ

Contacts

各所属の電話番号等 Phone/Fax Numbers for Each Section	所 属 名 Section	電話番号 Phone Number	FAX番号 Fax Number
監査室 Audit Office		052-853-8791	—
総務課 General Affairs Division		052-853-8005	052-841-6201
コンプライアンス推進室 Compliance Promotion Office		052-853-8667	—
人事課 Personnel Division		052-853-8062	—
労務課 Labor Division		052-853-8006	052-841-6201
企画推進課(SDGsセンター) Planning and Promotion Division (SDGs Center)		052-853-8806	—
広報室 Public Relations Office		052-853-8328	052-853-0551
財務課 Financial Affairs Division		052-853-8013	052-841-4790
施設企画課 Facility Planning Division		052-872-5330	052-872-5332
学術課 (産学官共創イノベーションセンター、社会連携センター)	Science Division (Center for Creative Collaboration of Industry-Academia-Government, Social Relations Center)	052-853-8041	052-841-0261
学術情報室(総合情報センター)	Academic Information Office (Library and Information Processing Center)	052-872-5796	052-872-5781
学生課 Student Affairs Division		052-853-8020	052-841-7428
キャリア支援センター Career Support Center		052-872-5056	052-872-5044
保健管理センター Health Center		052-872-5881	052-872-5881
国際交流センター International Exchange Center		052-872-5163	052-872-5044
教務企画室 Academic Affairs Planning Office		052-872-5804	052-872-1531
医療人育成課(医学部・医学研究科)	Medical Professionals Development Division (Medical School, Graduate School of Medical Sciences)	052-853-8545	052-842-0863
医学研究推進課(医学部・医学研究科)	Medical Research Promotion Division (Medical School, Graduate School of Medical Sciences)	052-853-8077	052-842-0863
薬学部事務室(薬学部・薬学研究科)	Office of Faculty of Pharmaceutical Sciences (Faculty of Pharmaceutical Sciences, Graduate School of Pharmaceutical Sciences)	052-836-3402	052-834-9309
	(経済学部・経済学研究科) (Faculty of Economics, Graduate School of Economics)	052-872-5805	052-872-1531
	(人文社会学部・人間文化研究科) (School of Humanities and Social Sciences, Graduate School of Humanities and Social Sciences)	052-872-5808	052-872-1531
山の畑事務室 Yamanohata Office	(総合生命理学部・理学研究科) (School of Biology and Integrated Sciences, Graduate School of Science)	052-872-5802	052-872-1531
	(データサイエンス学部) (School of Data Science)	052-872-5885	052-872-1531
	(都市政策研究センター) (Center for Urban Policy Research and Education)	052-872-3527	052-872-1531
芸術工学部事務室(芸術工学部・芸術工学研究科)	Office of School of Design and Architecture (School of Design and Architecture, Graduate School of Design and Architecture)	052-721-1225	052-721-3110
看護学部事務室(看護学部・看護学研究科)	Office of School of Nursing (School of Nursing, Graduate School of Nursing)	052-853-8037	052-852-4641
名古屋市立大学病院 Nagoya City University Hospital		052-851-5511	—
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター Nagoya City University East Medical Center		052-721-7171	052-721-1308
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター Nagoya City University West Medical Center		052-991-8121	052-916-2038
名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院 Nagoya City University Midori Municipal Hospital		052-892-1331	052-892-6975
名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院 Nagoya City University Mirai Kousei Hospital		052-704-2345	052-704-3331